

創立50周年記念

1983

淀江

DENKO

大阪経済大学同窓会

総会で 逢いましょう!!

母校創立50周年を共に祝いましょう

- とき 昭和58年11月2日(水)
10:30 58年度同窓会総会
11:30 大学創立50周年式典
12:30 祝賀パーティ(合同)
- ところ 新阪急ホテル2階
- 参加費 無料

※お願い 当日は上着ネクタイを着用願います。



創立五十周年記念号

●同窓会本部だより

五十周年事業へ総力結集！多数の理事参加

●学園の近況

創立五十周年記念式典十一月二日に挙行と決定

宣言文・人事・入試・就職関係・国庫助成・新刊紹介・本学で開催された学会・公開講座

●グラフィア

グラフに見る母校の五十年

校地・校舎面積の推移、地域別同窓生分布図、卒業生数の推移、図書館蔵書状況など

●世代別イメージ調査

母校・同窓会についてOB五〇〇〇人に聞く

全国30支部を越すの間近ノより活発な同窓会活動を

同窓会会長 磯野 斉

2

黒正記念館の建設をめざして

学長 鈴木 亨

3

同窓会支部だより

輝しき伝統と望ましき将来展望
愛する母校ゆえにこれだけは要望したい
九州支部発足のことなど

8

ゼミ短信

同期生クラブOB会

トピックス

事務局だより

全国三十支部を越すのも間近

母校創立五十周年を契機により活発な同窓会活動を



同窓会会長
磯野 斉

数年にわたる国民の景気回復への期待は、本年になって、漸く曙光を見るかに思われますが、今や世界経済の動向に重要なポイントを握るわが国経済は、常に貿易摩擦解消に対処しながら、国民的課題である財政再建、行政改革を着実に遂行し、しかも、景気浮揚策としての大型所得税減税、金利引下げの早期実施を迫られています。こうした環境のなかで、本年卒業された新鋭会員約千六百余名の諸君を迎え、同窓会は、会員四万二千名を数え、ますますその重厚さを加えました。全国各地はもとより、諸外国にあって、それぞれ各分野における同窓生の活躍は、実にめざましいものがあり、誠に同慶に堪えません。

私は、新しく会員になられた皆さんを心から歓迎し、その前途を祝福します。

目下、同窓会の最大関心事である五十周年記念行事については、その後、大学当局の積極的推進により、記念事業実行委員会の討議を経て、来る十一月二日(水)、新阪急ホテルにおいて、記念祝賀会を開催することが本決まりになりました。文部省をはじめ、各大学代表の方々をお招きして、極めて意義深い式典が挙行されることになりましょう。

なお、記念事業の中心的課題である会館建設については、八月八日現在、遺憾ながら、まだ正確な情報を得ておりません。

何分、同窓会のとるべき協力的姿勢は、募金活動体制の組織化でありますから、私は昨年来、各支部総会、各回同窓会、ゼミOB会等、体の許すかぎり出席して、出来るだけ多くの機会を得て、募金活動の予備的なキャンペーンを行って来ました。その結果、あるときは、全面的に協力するからと励まされ、またあるときは、大学の構想も具体化されないのにはたばたするなど、たしなめられたりしておりますが、そのどちらの言葉も、大事にうけとめております。

本年に入って、泉南支部と島根支部が盛大に誕生しました。それぞれの地域に、同窓生の拠点ができ、懇親の輪が広がってゆきます。今後会員諸氏のオアシスとして、ますます活用されるよう念願する次第です。両支部に加えて、目下、脚下を固める大阪支部発足についても、活発な活動が行われておりますから、やがて、全国三十支部を越すのも時間の問題であります。

昭和五十八年度同窓会年次総会は、大学のご配慮もあり、十一月二日(水)に挙行の大学記念祝賀会と日時、場所を共にすることとして、ただいま、時間の調整を行っております。どうぞ、この記念すべき日に一人でも多くの会員のご参加をお願いいたします。

昭和五十七年度決算、昭和五十八年度予算確定につきましては、去る六月十八日(土)、全国より支部長、理事、監事、百名の方々のご参集をたまり、終始、熱心なご審議を頂きまして、全議案すべて滞りなく可決されました。ここに厚くお礼申しあげます。

なお、「澱江」五十周年記念特別号の編集にあたり、ご協力いただいた大学関係部課の方々、ご寄稿下さった会員の皆さん、日夜、ご苦勞下さった編集委員各位に満腔の謝意を表します。

おわりにのぞみ、全国の同窓生の皆さまのご健勝をお祈りし、今後一層、同窓会運営に力強いご支援をたまわりますようお願い申し上げます。

黒正記念館の建設をめざして



学長
黒正 亨

同窓生の皆さん、お元気で各界で御活躍でしょうか。

日本の経済は現在なお不況を脱しえたとはいえず、景気の先行きに多少の燭光が見えている程度に置かれています。皆さんはこれにまけずに日夜御奮闘のことと存じます。現在四万数千名の卒業生諸氏が各地でそれぞれに活動されていられることは、われわれはもとより在学生にとっても心強い限りであります。

ただ、わが国の経済界がこの不況の打開の道を内需の上昇に求めるよりは外国貿易の上昇にはるかに比重を置いていることは、その不均衡においてわが国の経済的努力とその成果にとって必ずしも好ましい行き方とは申せず不安を残さざるをえません。

にもかかわらず、われわれは今次の敗戦後、日本経済の奇跡的とも言われる高度成長によって、少なくとも物質的繁栄については、西欧文明生活の先端に立つことができ、その物質的享受の豊かさは、少なくとも今次の大戦に悩んだ者にとって、まるで別の人間生活を生きてきている感慨をもたざるをえません。

しかし、この日本人の物質的繁栄が果たして同じ東洋の発展途上諸国の犠牲の上に築かれたものでないかどうかを、今日われわれは謙虚に反省すべき時期に来ているのではないかと考えられます。それは一つには物質的繁栄を追求するあまり、日本人はかえって精神的には墮落の途をたどったのではないか。今日の少年の非行、その他に現われる精神的退廃は大人のその直接的な反映にほかなりませ

ん。われわれは今日の物質的繁栄におごりの心を抱き、東亜の隣人たちと謙虚に交際する心を欠くに至っているのではないのでしょうか。ここにわれわれは物質的豊かさによって失われつつある心の貧しさを反省し、心の豊かさを取戻すことを通じて、物質と生命と精神の豊かさという平衡感覚をもつことをはかるべき時に至っていると考えられます。

ここにこそ、今日、声高く言われる真の国際人の成立の基盤があると云えましょう。そうでなければ、西欧との経済的摩擦がより亀裂を深め、同時に、東洋の隣人たちの反感の拡大によって東洋の、いな世界の孤児となるおそれを強く感じざるをえません。われわれはこの経済的不況をむしろ反省の時期と考へ、充分な深慮の上で、再びよりよい世界の建設に日本人として物質的、生命的、精神的に自分の寄与をなすべきでありましょう。

経大は、従来、自己を世間に押し出すことに抵抗を感じており、あまりにPRすることに消極的でありすぎました。それは他面に永い伝統に安住しすぎたと言われても仕方ないところがありました。本学も五十周年を契機として積極的な姿勢を示す時期に至っております。私どもは一昨年来御報告した通り、商業科、普通科、特技の三つの推薦制度を確立し、優れた個人的人物を得ることをはかっています。その上に、今年十一月から公開講座をもつことを教授会で決定しました。その第一回は本学の学問の主要な特徴の一つである中小企業に関するものであります。詳しいことは別の箇所でもふれられると思いますが、卒業生諸氏も振るって御参加下さい。

今年も、また、大阪経済大学・日本経済史研究所の創設五十周年にも当たりますので、去る七月二日に記念祝賀会を盛況裡に行いました。

本年はいよいよ五十周年記念式典を十一月二日に挙げることになりました。それと共に記念事業をも遂行せねばなりません。その中心のものには黒正記念館の建設であります。それには募金事業が大きな課題となっております。特に、同窓会の皆さんにはこの記念事業の意義をお汲みとりいただき、格別の力強い御協力をお願いいたく存じます。

同窓会 本部だより

58年度理事会

五十周年記念事業への関心度高く 例年より多数の理事出席

昭和五十七年度決算・昭和五十八年度予算(案)満場一致で可決

◇昭和五十八年六月十八日(土)
◇新阪急ビル十二階、レストラン・パレス

◇議案

第一号議案
昭和五十七年度決算について

第二号議案
昭和五十八年度予算(案)について

第三号議案
その他

◇司会 比企事務局長

◇副司会 比企事務局長

◇磯野会長挨拶

「昨年十一月三日の同窓会総会において学長から『創立五十周年宣言』がなされ、その後、記念事業委員会が結成されました。

た。同窓会を代表して会長である私と比企事務局長が、また、顧問には学校法人の理事でもある渡辺名誉会長と世良相談役が任命されました。そして、まず、当面の問題である記念式典等実行委員に比企事務局長をはじめ谷口、西本、水納総務部担当常任理事の四名が決定いたしました。大学の五十周年記念式典および祝賀会は十一月二日(水)に新阪急ホテルで開催されることになりましたが、現時点では委員会が発足したばかりなので、同窓会総会をどのように実施するかにつきましては、これからの実行委員会での審議、決定を待つて『濶江』でお知らせすることにしたと思います。いずれにいたしましても、われ

われ同窓会会員に課せられた中心的課題は記念事業計画が具体化され次第行う募金活動であると思います。しかし、この問題につきましては、現在、いまだ大学で検討中の段階でありまして、結論がでたとき、われわれ同窓会会員は総力を結集してこれにご協力いたしたいと考えております。大学の方針が決定し、募金活動のための組織化が行われ、募金実行委員会が発足いたしましたら、本日もご集いの皆様はもちろん、全国的な活動を実施するために、本日のような会合、あるいは、同窓会臨時総会的な会合をもたねばならないと思っております。そのような会合の日をいつにするかは大学の方針が決定次第、改めてご

◇第一号議案

平尾会計部長(28)より昭和五十七年度収支決算につき各項目別に説明がされた。

◇第二号議案

谷口総務部長(22)より昭和

山上監事(2)より監査報告がされた。

五十八年度収支予算(案)につき各項目別に報告、提案された。

第一号、第二号議案につき一括審議に入る。

連絡いたしますのでご協力をお願いしたいと存じます。その時は万難を排してご参集いただき、皆様とともに五十周年記念事業の完遂の一端を担いたい所存でございます。

また、昭和五十八年度予算(案)に関しましては、文部省の指導方針に従い、新入生の減少に伴う会費収入減、「濶江」五十周年記念号発行および支部活動の活性化に伴う支出増等を考慮に入れ試算いたしますと、五十周年記念事業を、大学の方針をふまえて、円滑に遂行するために、特別基金七五〇万円の取崩しのご承認を、特に、お願い申し上げます。

次に、支部活動は、本年、泉南支部と島根支部が結成されましたし、過日、尼崎市役所在職者で結成された「大樟会」、また、大阪府下に数支部を結成する準備もいたしております。

最後に、大学の五十周年記念事業が歴史に残る立派なものとして完遂できることを祈り、皆様のご協力を心からお願いたします。という趣旨の挨拶のあと、ただちに議案審議に入る。

昭和57年度収支決算書

自 昭和57年4月1日 至 昭和58年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	決算額	予算額	科目	決算額	予算額
前期繰越金	8,286,116	8,286,116	総会費	3,891,920	5,000,000
会費収入	31,478,000	30,000,000	役員会費	1,358,895	1,500,000
總會収入	697,500	500,000	支部費	3,839,345	4,000,000
名簿収入	790,100	1,000,000	事務費	637,714	600,000
利息収入	1,000,470	500,000	人件費	5,810,280	5,850,000
雑収入	708,665	0	旅費交通費	1,959,770	2,000,000
			濶江編集費	11,815,030	12,000,000
			名簿追跡調査費	2,048,513	1,650,000
			学対費	2,990,000	2,750,000
			慶弔費	513,700	500,000
			50周年記念積立金	1,000,000	1,000,000
			名簿発行積立金	1,000,000	1,000,000
			予備費	(689,927)	2,436,116
			次期繰越金	6,095,684	0
合計	42,960,851	40,286,116	合計	42,960,851	40,286,116

昭和58年度収支予算表(案)

自 昭和58年4月1日 至 昭和59年3月31日

収入の部			支出の部		
科目	予算額	摘要	科目	予算額	摘要
前期繰越金	6,095,684		総会費	5,000,000	
会費収入	28,000,000		役員会費	1,500,000	理事会・常任理事会・各支部
總會収入	500,000		支部費	4,500,000	運営費、支部總會援助
利息収入	500,000		事務費	600,000	
特別基金取崩し	7,500,000		人件費	6,350,000	事務局人件費
			旅費交通費	2,500,000	
			濶江編集費	13,000,000	
			名簿追跡調査費	2,000,000	大学祭・クラブ活動援助
			学対費	2,750,000	
			諸会助成費	500,000	
			50周年対策費	1,000,000	
			慶弔費	500,000	
			予備費	2,395,684	
合計	42,595,684		合計	42,595,684	

岸本理事(5)より、特別基金明細および利回りについて、また、五十八年度総会費(案)と五十七年度総会収入の関連について、水上理事(3)より五十周年記念の募金の具体的方法について、さらに、中村理事(13)より特別基金積立目的の明確性について、大門理事(29)より特別基金の取崩しについて、それぞれの側面から質問をいただき、特別基金積立目的については、長岡理事(5)が特別基金設定当時の担当理事としてのご発言があり、また、それをも含めて平尾会計部長、比企事務局長よりそれぞれ回答、補足説明を行い、審議の結果、万場一致で第一号、第二号議案とも承認、可決された。

◇第三号議案

特別審議事項なし。
以上により、本年度の理事会の議案審議を終了した。

◇支部長ご挨拶

当日、ご出席の各支部長の自己紹介を兼ねたご挨拶をいただいた。
当日ご出席の支部長は、東海、

西宮(副)、神戸、東播磨(顧問)、姫路、岡山、広島、山口、北九州、南九州、福井、香川、三重、丹有、泉南、奈良の十六支部であった。

◇中谷入試課長よりご挨拶

昨年十一月の人事異動で新しく入試課長に就任された中谷課長より、母校の地方での入試開催について協力依頼とお礼を兼ねたご挨拶があった。

◇比企事務局長より

徳島支部の故谷支部長のご令室よりの伝言を兼ねた再建について協力要請がなされた。

◇司会者の閉会宣言でなごやかなうちに昭和五十八年度理事会を閉会した。

別室にて懇親会に入り大いに歓談のあと、五十周年記念事業の成功を心に誓いつつ散会した。

総会 記念すべき57年度 同窓会総会盛大に挙行 『大学創立五十周年宣言』

「友遠方よりきたる また楽しからずや」

昨年もみた顔、久しぶりに見る顔、卒業以来初めてみる顔。いろいろの顔が集まり、お互い手を握り、肩をたたきあい「元氣やったか……」、「よお……」、「久しぶりやな……」と挨拶しながらも、目が笑っている。
今年も一年に一回の楽しい総会の日がやってきました。

その本年度の総会、すなわち、昭和五十七年度同窓会総会は、われわれ同窓会員にとつては一生忘れることのできない総会でしょう。

なぜなら、本総会の席上で、われらが母校・大阪経済大学創立五十周年宣言がされたからである。
総会は、本年も恒例通り、十一月三日(文化の日)、レストラン・パレスに鈴木亨学長をはじめ多数のご来賓のご臨席をいただき盛大

となつたお祝酒の「鏡開き」が全員の「ヨイショ」というかけ声とともに鈴木亨、鈴木正里両先生、渡辺同窓会名誉会長(3)によって行われた後、広田同窓会相談役(1)の音頭で「乾盃」が行われました。

その後は、あちらに一群、こちらに一群。これぞ「融和」の表徴そのものといえる風景でした。特に、本年は、五十周年宣言という歴史に残る総会だけに、総会特別委員会が招待の先生方の範囲を拡大しただけに、本当に懐かしい先生のお元氣なお顔をみて「融和」の輪は広がる一方でした。

ビールのコップを片手にテーブルからテーブルへと動くもの、懐かしさのあまり、じつくりと腰をすえて話しこむもの、わいわい、がやがや……、大声をあげないと話ができないほどの盛会となりました。その中で、ハンドボール部OBの一群が集り、総会の日を、今後、ハンドボール部OB会総会の日にしよう。また、こちらでは、簿記会計研究部が現役をまじえてOB会を開催しているのが目につきました。この両部の幹事さんの頭脳明せきは、さすが経大OBであると感心させられました。

に挙行されました。
式典は、水納敏也(25)式典委員長(22)の司会により、谷口一郎(22)総会特別委員長の「開会のことば」で幕をあげました。

まず、母校のグリー・クラブ諸君の「学歌斉唱」磯野会長の挨拶があった後、いよいよわれわれが待望の五十周年宣言がなされました。

「大阪経済大学は昭和七年に浪華高等商業学校として創立されて以来、本年で五十周年を迎えることになりました。……(全文は別掲)と、朗朗と宣言される鈴木亨学長先生のおことばを聞き、いまさらながら輝しい歴史と伝統

いつまでたっても尽きることはない、このような楽しい会は、エノというほど早く過ぎるものです。盛会の声に消されがちななか、西本パーティー委員長の声がかかりました。グリー・クラブ諸君の歌唱指導のもと「逍遙歌」が流れ、それにつれて肩を組みあつた同窓の輪がゆるるのをみて、ああ、今年も楽しい総会の終宴が近づいたのだ……という実感が体の中を流れるとともに、なにか、なんともいえない淋しさが心の中を走ってゆきました。

そのような雰囲気の中、無情にも谷口総会特別委員長の「閉会のことば」が流れ、磯野会長の「万歳三唱」で、この記念すべき総会もおひらきになりました。

また会う日を……と、グリー・クラブ諸君の「蛍の光」のハミングを背中に聞きながら、手にはこれも恒例になった「経大」の焼印の入つた一合樽と、当日の同窓会からのお土産を手手に、一人、一人、一群、一団と会場を去ってゆき、記念すべき「五十周年宣言」同窓会総会は無事終了しました。

最後に、本総会遂行にあたり、ご尽力いただいた各位に心からお礼を申しあげます。



を再認識し、身のひきしまる思いがしたの、総会関係者だけではないと思います。ただ、残念だったことは、藤田敬三理事長先生がご病気でご臨席をいただけなかったことです。ひきつづいて、この「五十周年宣言」の式典にご臨席いただいた鈴木亨学長先生、望月清後援会会長様よりご祝辞をかねたご挨拶をいただきました。

この記念すべき式典も無事円滑

同窓会支部だより

輝しき伝統と将来への展望

泉南支部・島根両支部が誕生

母校が五十周年を迎えました。そのお祝いをかねて、本年の「支部だより」は、各支部から、結成のいきさつと近況、将来への抱負および各地で行われた支部総会の報告を寄稿していただきました。

東京支部

支部長 鮫島 圭

黄ばんだ名簿が語る東京支部のあゆみ

いま、私の手許には黄ばんだ四枚綴の小冊子がある。表紙には、「大阪経済大学同窓会東京支部人名簿」とあり、日付は昭和二十七年八月二十日と印刷されている。経済の文字は「経済」であり、大学は「大學」、同窓会は「同窓會」となっている。

この小冊子は、服部さん（前東京支部長・10）が永らく保存されていたものを、拝借してきて眺めている訳で、市原さん（1）から田中さん（18）まで、合計五十一名の先輩方の名前が並んでいる。服部さんのお話では「戦前にも市原さんを中心に数名の東京在住卒業生の集まりがあったと聞いている。しかし、大北、藤原両先生が上京され、正式に東京支部が発

足したのは昭和二十七年だった」との事であり、その意味でこの小冊子は、東京支部三十一年の歴史の第一歩の記録といえる。

名簿の内容をもう少し披露すると、当時の支部長は船橋さん（3）、幹事は柿沢さん（5）と前記の服部さんとなっている。支部長は、その後、服部さんから私へと移り、今や幹事二十五名、東京近辺在住卒業生推定八〇〇名（正確には把握出来ない）の大世帯になった訳で、その間、常に離合集散を繰り返す東京植民地で、同窓会の火を絶やすことなく継続してこられた諸先輩の努力と粘り強さには、全く敬服している。特に昭和二十七年より今日まで、幹事、支部長、相談役を勤められた服部



さんの地道な活動には、頭の下がる思いである。

同窓会費はどう変わったか？これも服部さんが克明に記録してこられた出納簿からの抜粋である。

- 昭和二十七年 五〇〇円
 - 昭和三十年 八〇〇円
 - 昭和三十三年 一、〇〇〇円
 - 昭和四十四年 一、五〇〇円
 - 昭和四十九年 二、四〇〇円
 - 昭和五十年 四、〇〇〇円
 - 昭和五十三年 五、〇〇〇円
 - 昭和五十七年 七、〇〇〇円
- いずれも一人当りの単価であるが、三十年間で十四倍にはねあがって

いて、インフレと東京の物価推移のきびしさを物語っている。

さて、昭和五十七年度の東京支部総会の模様をお伝えする。開催は、昭和五十七年十月十五日（金）、場所は川崎さん（3）のお世話で、すっかりおなじみの新橋新橋亭。八十数名の出席返事をいただいていたが、残念ながら実際の出席者は若干下回る結果であった。東京都北部や、神奈川、千葉、埼玉各県在住者の中には、午後十時を過ぎるまで都心にいると、日付が変わらないと自宅に辿り着かない人も多く、このあたりが東京支部総会の泣きどころでもある。しかし、大学から鈴木正里先生、同窓会本部から常任理事の萩原、松本両氏が遠路上京していただき、総会は極めて盛大かつ和やかに行われた。

東海支部

支部長 加藤 正秋

戦後史とともに歩んだ支部

同窓会東海支部の誕生は、一応昭和二十三年春とされているから、こととして三十五年になる。経大の同窓会としては最古参か、それに近いというのがわれわれの誇

りでもある。発端は地元の中部読売新聞にも紹介されたが、恩師故上田藤十郎先生の肝入りで、先生を慰め励ます数え子たちが、その基盤を作ったことになる。



歴史の権威者だった上田先生は、戦時中から名古屋市の委嘱を受け、名古屋市の編さんに取り組んでこられたが、戦後は市役所へ泊り込みでこの執筆に精魂を傾けられていた。敗戦直後の昭和二十一年夏、同窓の野本恒雄さん（9）と埜々山誠さん（10）を訪れると、窓ガラスが割れた狭い庁舎の一室にベットの持ち込み、うちわをバタバタ使いながら編さんに余念がなかったそうである。

それから米や野菜、酒を持ち込んでのうるわしい師弟愛が繰り広げられることになるが、いっそ先生を中心として同窓生みんなが集めてみようということになった。

埜々山さんはこの間の事情を、古い名簿と、口コミで判った愛知、岐阜、三重、静岡四県下の同窓生百五十人余に、ガリ版刷りの往復ハガキで第一回の支部総会を呼びかけられた。百通以上が居所不明で戻ってきたが、三十人以上の出席通知も到着した。昭和二十三年春のことである。場所は名古屋市内、栄の明治製菓、コーヒーとケーキ程度のお粗末な会合だったが、初代支部長に故大和義則さん（3）を決め、大いに氣勢があがったということである。

さきの上田藤十郎先生は昭和二十六年、名古屋市史を完成されて郷里の高知県へ帰られたが、東海支部は支部長を岡田佐市さん（6）、加藤正秋（10）とバトンタッチされ、また卒業生の増加で三重支部、岐阜支部が誕生していくこととなる。

その後の東海支部は、卒業生の増加と相まって、総会も支部のみなさんの交流もさかんになってきた。昨年末は待望の支部名簿が完成し、総会には初の女性同窓生、大隅たつみさん（39）のご参加をいただいた。将来の見通しがますます明るくなってきた感じである。毎年ご来名くださる同窓会本部の

磯野育会長、渡辺達好名誉会長、比企重事務局長に心から感謝申し上げるとともに、東海支部が今後

京都支部

来年からは趣味のクラブやゴルフのコンペも...

昭和五十八年三月四日(金)、サンフラワー京都において、おくればせながらの新年会をかねた昭和五十七年度総会が開かれた。学校より理事長代理鈴木教授を初め、黒正就職部主任が、同窓会より当支部の会員でもある渡辺名誉会長、川野常任理事が同席して下さり、和気藹々のうちに開会された。渡辺名誉会長の乾杯のあと、猪口を片手に「ちり鍋」をつまみながらのなごやかなたらいが持たれ、三年振りに出席した私は、息子のような後輩がたくさんで、一寸、淋しいやら頼もしいやら、感慨無量の思いあり。



木下支部長から女性の出席が私一人であったためか白羽の矢が立ち次期支部長を仰せつかる破目になってしまった。六百名近い京都支部会員がおられるのに、今日の出席者が一割にも満たないとは、これまで切角骨

も多方面に発展するよう、支部のみなさんご協力をお願いしてやみません。

阿部淑子

を折ってここまで続けて来て下さった木下先輩に申しわけないし、段々と出席者が多くなるよう、まず、後輩達と力を合わせていろいろ考えて行きたいと思う。第一に手がけたい事は、支部の名簿の発行、また年会費を徴収し、それによって、趣味別にクラブ等を作り、ゴルフのコンペ等を開催したりして京都支部を楽しいものにし、強い絆で結んでゆきたいと思ってい

大阪市役所支部

幹事 藤川 保治

三十三年の歴史をへて

二〇〇名を越す大職域支部に

母校大阪経済大学も、半世紀を迎え、輝かしい歴史と伝統をそなえ、ますます発展いたしていることは、我々同窓生といたしまして

びに母校からご来賓を招き、母校および同窓会の現況をお聞きしてまいりました。

も喜ばしくご同慶にたえません。我が大阪市役所支部も、創立以来三十三年余の歴史を持つ支部として発展してまいりました。

当大阪市の支部も、母校が新制大学へと発展するとともに大学二部卒業生も増えてまいり、年々会員が増加いたしてまいりました。

記録によりますと、昭和二十五年一月、中村宗啓氏(3)、坂田昌男氏(5)、村上静夫氏(5)の三氏が発起人となり、大阪市役所に奉職する同窓生、当時十三名の方々に支部結成を呼びかけられ、第一回創立総会を一月二十八日(土)、市内西区の近畿富山会館で開催され、初代支部長に広田実氏(1)が就任されました。

その後、第二代支部長に中村宗啓氏(3)、第三代支部長に村上静夫氏(5)、第四代支部長に砂山保氏(7)と歴任されてまいり、現在、第五代支部長として金子昭典氏(15)が引き継がれております。支部活動としては、毎年一回支部総会を開催し、同窓会本部なら

も受け入れ九百名近い支部会員を擁する都市支部となりました。お世話を引き受けている役員一同は嬉しい悲鳴をあげています。また、昨年は藤田敬三理事長先生が高齢にもかかわらず、八木支部長の市長就任に対して敬意を表したいと支部総会にご臨席を賜わり、前例のないことと恐縮すると共に支部長を初め支部会員一同非常に感激した次第です。

また、創立当初の諸先輩も、大阪市役所を既にご退職されておりますが、現在も名誉会員として、当支部行事に参加されております。なお、創立発起人であり幹事として当支部発展に寄与された坂田昌男氏をはじめ多くの諸先輩が故人となられました。ここに心から

ご冥福をお祈りいたすものであります。

当支部の運営につきましては、金子支部長はじめ幹事十二名で行っておりますが、何分にもマンモス化したしてまいりました関係で、一つの行事を行ないますにも時間がかかり毎年一回の総会も滞りが

ちになっております。しかし、機会のある毎に、総会、ゴルフコンペ、麻雀大会等を企画し、会員相互の懇親を深め、各職場との連携を円滑に行き、職域支部としての意義を深めてまいりたいと考えています。

西宮支部

八木市長(一回卒)が支部長として多忙のなかを出席

副支部長 黒才 洋

大阪経済大学建学五十周年を心からお喜び申し上げます。本年は、大学と同窓会が密接な連携のもとに記念祝典が盛大に催されると聞き及んでおりますが、当支部と致しましてもおよばずながら協力させていたたくことがございましたらお声を掛けて下さるようお願い申し上げます。

事務局の肝入りで、西宮市内在住の同窓会員が四百名にのぼるのだから、神戸支部より分離独立してはとのサゼッションがあり、西宮市役所に在職者で事務局を引き受け、会員数四百三十七名で発足した次第です。

西宮支部も結成以来数えて十四年を経過致しました。振り返ってみますと、昭和四十三年十一月二十九日西宮市民会館を会場として誕生の産ぶ声をあげました。当時西宮市内在住同窓会員は神戸支部に包含されていましたが、実際には何の案内もなく孤立した状態にありました。大学同窓会事

初代支部長は増田憲治氏(1)にお願いし、現在は八木米次氏(現西宮市長)(1)にお願いしております。その間、一時、休眠支部とのお叱りを受けたり、八木支部長が市長選挙立候補という事態に直面し、支部員が結束して応援する等...いろいろな事が走馬灯のように駆け巡ります。現在では、西宮と同様、孤立していた宝塚・芦屋両市の同窓会員

今回が来賓として大学側より内海健一教授、同窓会本部より磯野同窓会長、比企事務局長、西本総務部副部長をお迎えし、市内在住の田中健一教授をご招待申しあげて開催しました。

市議会最終日と重なり、多忙の中、時間を割いて出席し、支部長としての挨拶の中で、市長として市政担当の難しさなど日頃の苦労話を披露、会員諸氏の共感を得る話などをされ、和やかな雰囲気の中で盛会裡に総会を終ることができました。

当日の出席者は四十一名で、内海教授から大学の近況等についてご報告があり、次いで磯野同窓会長からは同窓会の動向、特に大阪経済大学創立五十周年記念祝賀行事について、大学、同窓会が一体となって取り組むべく種々企画立案中であるとの報告がありました。八木支部長は、当日、三月定例



神戸支部

支部長 町田 達治

三十五年間受け継がれた「ふれあいの場」

まずもって、母校創立五十周年を心からお祝い申し上げます。今年には種々の記念事業が計画されているようですが、建学の精神を失わず特色のある大学に発展してゆくことを祈ります。

さて、同窓の諸兄諸姉にはご壮健にてご活躍のことと存じます。神戸支部は、現在、一五〇〇余名の会員を擁しています。戦後まもなく、外海波吉氏(一)、長谷川平八郎氏(六)、三好悌彦氏(六)、比企重氏(七)が中心となって外海波吉支部長を選び、黒正巖先生のご臨席を仰いで支部を結成したのは昭和二十三年の夏でした。既に三十五年が経ちます。その後若干の停滞がありましたものの、昭和四十年四月、三好悌彦氏(六)、長尾晃氏(八)、長島隆氏(九)、南部俊一氏(九)、藤綱亮三氏(九)の諸氏が支部に活力を与えようと集われ、三好氏が二代支部長の任につかれました。そして、相互の親睦と社会的地位向上を誓った訳であります。昭和四十四年、長島

隆氏(九)が三代目、昭和四十八年、田中義一氏(一〇)が四代目、昭和五十五年、町田達治(一三)が五代目の支部長となり現在に至っています。

昭和四十三年西宮支部が分離独立、東播磨支部も新しく発展、それぞれ力強く活動しております。支部発足の経緯とその流れについて、支部長をされました先輩四氏のコメントを頂きましたのでお知らせいたします。

~~~~~〇~~~~~〇~~~~~

第一回の神戸支部長をやらせて頂いたが、殆んど比企君(七)の助けで、その名だけでした。私の入学した時は創立直後ですが、今後の大学は、入るのはやさしいけれど卒業はなかなかむづかしいという姿であって欲しいと考えております。現在芦屋で日本の伝統工芸館「すなはま」を経営しております。外海波吉(一)

支部長は四年位で交替しているが、これは昭和四十年四月に支部規約

を会員が規定したことによる。自分の構想を実現するには多少任期が短か過ぎないか。発想の斬新さと力強いエネルギーを発揮してゆくとともに規約の発展的改訂と自由闊達な支部長の活躍を期待している。

三好悌彦(六)

毎年支部総会を盛大に催し、同窓生の交流を図って頂いている。これに参加することが同窓会活動の活性化につながると信じながら、思うにまかせぬことが多い。今年こそはと、今から楽しみにしている昨今です。

長島 隆(九)

発足時、阪神間から明石まで含んでいた神戸支部も現在では名前の通り神戸在住、勤務者のみの支部となりました。同窓生の増加を考えると本来の姿になったというべきか、より密度の濃い支部活動が期待されます。

田中義一(一〇)

~~~~~〇~~~~~〇~~~~~

右のような「ひとこと」をいただきました。有難うございました。

次に、年次総会は昭和五十七年七月十日(土)午後一時三十分より、会費五千円でタワーサイドホテルに於いて開催いたしました。

大学より藤原先生、玉岡総務部長、同窓会より磯野会長、比企事務局長をお迎えし、当日六十名(会員五十六名、来賓四名)と多数出席され、和気あいあいのうちに楽しく語り合うひとときを得ました。遂にカラオケの歌など次々と披露、新卒間もない若い会員の方々とも打ちとけ合いました。先輩とのよき出会い、同輩との再会、後輩とのめぐり会い、人生の数多い出会いのなかで、同窓の出会いこそ、まさに楽しいふれあいの場として大切にしてゆきたいものです。来年は、ぜひ、お誘い合せご参加下さい。

支部総会をマンネリ化しないため、また一握りの集まりとならないためには、支部組織の強化——世話人役員の増加、運動部OBの集い、企業内の集い等を媒体として、支部活動に活力を引き出せないものか。いつもながら今後とも変らぬ課題であると存じています。神戸に在住の諸兄諸姉。どうか来年こそは、総会にご参加いただけますよう重ねてお願いしながら、母校と同窓会をますますのご発展をお祈り申し上げます。

東播磨支部

当番幹事 辻 毅

ご苦労様でした北井支部長 新支部長に永井氏を選出

昭和五十七年度東播磨支部総会は九月五日(日)、万葉の里、城下町明石市にて開催されました。

遠く淡路島を見おろす白菊グラウンドビル六階の総会場には、大学より藤原教授、就職部黒正主任、同窓会本部より磯野会長、比企事務局長のご来賓四氏をはじめ、六回卒より四十七回卒までの会員四十余名が集いました。

定刻午前十一時、本年の当番地区である明石市の幹事辻 毅氏(26)の開会宣言により総会の幕が開かれました。そして、まず、明石市の土手勲次氏(6)による開会のおこぼ、北井清之支部長(9)のご挨拶、ご来賓のおこぼと続きました。日常母校と疎遠になりがちな我々にとりまして、母校の近況、同窓会本部、および各支部のご活躍ぶりなどのお話をお聞きしたことは、非常に興味深く、かつ感銘を受け、有意義な一時でした。特に、我々が忘れかけていた母校の創立五十周年という輝かしい伝統についてのお話は、その記



念行事の重要性と、またこれを契機に母校および同窓会がともに、さらに飛躍をするための協力に尽力することを会員それぞれに自覚をうながし、再認識させるのに充分であったと思います。また、今年度の母校卒業生の就職状況のご説明と同窓会により一層の協力要請は、会員各位にその責任の重さを

認識させるとともに、出来る限りの協力を確認しあいました。

次に北井支部長より、本会も六回を数え、このあたりで役員の方がえりを計りたいとの意向から辞意を表明され、役員改選の議題が提出されました。会員一同審議の結果、満場一致で永井宏新支部長(19)を選出いたしました。早速、永井新支部長より五〇〇余名会員のよりいっそうの結束と、支部同窓会名簿作成等新支部長としての抱負が披露され、役員改選も無事終了しました。

初代北井支部長の永年のご苦労に対し、この紙面をお借りして会員一同心から感謝いたします。

総会も無事終了し、武川茂夫氏(9)の乾盃音頭で待望の懇親会に移りました。各テーブルでは名刺交換、昔話、仕事の話にと発展し、お互いにさしつ、さされつしながら自己紹介、そうこうするうちに今流行のカラオケによる歌声披露が始まり、なごやかな雰囲気の中に楽しい時は過ぎ去りました。最後に、全員で学歌、学園歌を斉唱し、心を残しながら明石の岡本楢男氏(9)による閉会のおこぼを以て午後三時に無事第六回支部総会を終了しました。

東播磨地区(明石市、加古川市、高砂市、三木市、小野市、加西市、西脇市、加古郡、美嚨郡、加東郡、多可郡)在住の皆様にお願いたします。次回の支部総会には是非ご出席下さい。

支部総会の運営その他についてご意見がございましたらご教示下さい。

また、支部会員名簿作成に当たって、より正確を期するため、住所勤務先等の変更、あるいは新しく東播磨地区へ転居された同窓会員の方、また、そのような同窓会員をご存知の方はご連絡下さい。

連絡先は、永井宏支部長です。

よろしくご協力お願いします。



母校教授の講演・PR活動を望む

姫路支部

支部長 永川 仁一

昭和商時代には姫中会（現姫路西高）を組織し、常時十数名位のもの在学习しており、まとまりもよく、懇親会も年に二回はやっていたように思う。戦後、私の兄が姫路市長に就任し、旧来より親交を温めていた初代校長黒正巖博士が兄のところへよくこられるようになった。昭和二十一、二年の頃である。当時、黒正博士の令名を知っていた当地方の財界人の要望もあり、二カ月に一度位は姫路の会社、工場で先生の経済講演会を開催するようになり、いつも私が抱持ちで随行させてもらい、貴重なお話をよく聞いたものである。その後、卒業生の間から誰いうとなく、姫路支部を結成してはどうか、との話もちあがり、遂に二十三年一月十八日、姫路の明和ホテルで黒正博士をお迎えし盛大に結成式をあげた。当日の出席者は二十数名、会費は三百円位と記憶している。そして、その後、毎年一回ないし二回支部総会をもつようになった。二十六年、初め

て姫路で出張試験場が設けられ、初めは一〇〇名足らずの志願者であったが、現在は約一、〇〇〇名に達し感無量であるが、支部としても微力ながらこれに協力させて頂いている。当初はPRのためであったが、母校教授が在姫の高校へよく講演に来られたり、また、西播地方の高校進学先生との懇談会には支部長が司会役となり姫路でよく開かれたものであるが、現在は立ち消えとなり淋しい限りである。支部の会員も三十年代後半より四十年代にかけて飛躍的に増大し、現在は約七五〇名位になっており、支部総会への出席者もその時々により異なるが、数十名前後で、最近では、出席者も大体定着したようであるが、若い卒業生の出席が少ないうちには頭を痛めている。人数が増加するに伴い、現在十名の幹事をおいて、親睦と母校への貢献に力を尽しているが、今後はさらに幹事を倍増して多くの出席者を確保するよう努力するつもりである。世代の変化、時代の流れを先取り

愛する母校ゆえにこれだけは要望したい

永川仁一（六回卒）

- 一、大学院の博士課程を出ても、母校の大経大への教授への道はなく、他の同規模の大学と比べて卒業生の母校の教職員が極めて少ないことについては一考を要する。
- 二、最近では、大経大卒の高校の教師が少なくなっている。もっと増加するよう努力されるべきである。
- 三、外部から見れば、かつては、関々同立よりもむしろプライドをもっていたが、大経大は四十年代後半頃より地盤沈下し、ここ十年余は、停滞が続いており、神戸学院大、大阪学院大、大商大、京産大あたりに高校生の人気がある。例えば、法学部を新設するとか、一歩一歩前進し、時代に順応した大学の在り方を考えるべきである。
- 四、最近では、就職先も一流企業が少くない。教職員一丸となつてさらに熱心に開拓すべきで、その熱意が感じられない（少し極言かも知れないが）。
- 五、学者は学校経営が上手でないとい一般的にはいわれている。学外の実業界経験者を採用して大経大を運営することを考えてみてはいかがか……。
- 六、教授はもっと著書を出版して欲しい。一部の学科を除いて出版物（著書）が少なすぎる。
- 七、教授で公のテレビとか経済講演会の講演に出られた人が殆んどおられない（私の知っている範囲が狭いかも知れないが）。地味なものも結構であるが、PRも大いに必要であり、この点も大阪経法大あたりに追いあげをくっているように思われる。
- 八、五十周年の件も早くからわかっていることで、敏速に決定して欲しかった。教授会とか、その他の関連の人が他に比べて慎重すぎてどうもスローモーションに思えてならないのは自分だけの考えであろうか。

したい気持であるが、現実には、うは易く実行はむづかしいので、これをなんとか脱却しなければならぬと思っている。今年度は支部結成三十五周年にあたるので、これといって特に目新しいことは出来ないとしても、近く幹事で鳩首懇談し、それに相応した支部総会をしたく心は張りつめている。

昭和五十七年度開催の総会の概要は

日時 十月三十日（土）

岡山支部

母校五十周年を機にタテとヨコのつながりを深めよう

支部長 村上 一夫

場 所 北京閣
出席者 大学より、鈴木理事長 代行先生、黒正就職部主任。
同窓会より、磯野会長、比企事務局長。
参加会員、三十余名
なお、当日は月末と土曜日とがかさなったため、例年より参加者が十数名減となったことは誠に残念である。

わが母校、大阪経済大学は、昭和七年に創設以来、本年度で満五十年を迎えられたことを、われわれ同窓生も心から祝意を表しますとともにご同慶の至りに存じます。本学伝統の黒正イズム発祥の地であり、また創設者たる故黒正巖先生の故郷でもあるわが岡山支部も、今では一、〇〇〇名を越すマシモス同窓会となりました。戦後間もなく、大森喜太志前支部長（6）を中心とした数名の方

により、第一回の岡山支部役員総会が開かれ、その基礎が出来ました。以来、約三十年間にわたり、大森前支部長を中心に良き指導のもと、次第に、同窓会が発展してゆく中で、今日まで、毎年の支部総会開催は勿論のこと、学校との就職懇談会、学生のクラブ活動の地方公演援助等もありましたが、特に印象に残っていますのは、故黒正巖先生の三十年祭行事が岡山の地で盛大に行われたことであり

ます。その節は、ご遺族の方々、先生のご遺徳をしのぶ各界からの先生方をはじめ、同窓会本部の方々、また全国より遠路のところを、先輩諸兄がご参列、慕参に來岡され、われわれ岡山支部の会員として、深く感激致すと同時にご列席をいただいた皆様方のご苦勞に対し感謝の念で一杯であります。以上思っておせば数限りありませんが、今、ここに母校の創立五十周年を迎えるに当り、改めて、大森喜太志先輩に対し、その長期にわたる大きなご功績とご尽力に対し「澱江」の紙上を拝借して、支部全会員を代表し心から敬意を表し、あわせて深く感謝を申しあげる次第であります。

さて、昭和五十八年度支部総会は、昨年度の「澱江」に掲載の通り、去る六月五日（第一日曜日）に開催致しました。場所は若い人の意見を入れて、八仙閣（中華料理）とし、案内状を約一〇〇〇通発送しましたが、参加人員数は、残念ながら、約三十名で、昨年度の約四十名に比べれば若干減少しました。

私が一昨年支部長をお受けしてから第二回目の試練でした。しかし、少数とはいえ、今年の

総会出席者は、大半の方々が、初めて、あるいは数回目、しかも若い年代の方々が多かったことが印象的であり、来年、再来年と新しい人、若い人がピラミッド型に広がってゆくように思われ、心強く感ずるとともに、是非とも、今後に期待する次第であります。

支部総会は、大学からご臨席いただいた山本、松村両教授、黒正就職部主任から学校の現況と五十周年記念行事、ならびに、就職状況についてお話があり、つづいて同窓会本部からは磯野会長、比企事務局長、西本総務部副部長が、それぞれのお立場からご挨拶を賜わり懇親会に入りました。懇親会では、まず、自己紹介とともに、各人がそれぞれの思い出を語り懇親会もおおいに盛りあげました。宴たけなわになると、おとくいの「のど」の披露も次々と盛んになり、また、同窓会本部よりご持参の諸記念品の販売もまたたく間に売り切れ、本部の収入の一部に協力ができ、ほっとしました。

また、先般の選挙で市議会議員に当選されました山田録二郎氏（11）よりお礼と今後の協力依頼のご挨拶もありました。やがて定刻も過ぎ、学歌、逍遙歌を参加者一

同声高らかに合唱し、別れを惜しみつつ、来年の再会を約し散会しました。

大学および本部からのご来賓の方々ならびに、本年度総会にご参加下さいました同窓生の皆様に対し、世話人一同、心からお礼を申し上げますとともに、心から感謝申し上げます。

今年も、支部総会の「思い出」としてスナップ記念写真を、後日、出席者に送りたいと思います。ぜひとも来年の六月第一日曜日の岡山支部総会を今からお忘れなく！ご出席をお待ちしております。そして「同期生会がヨコのつながり」であるなら、「タテのつながり」の同窓会とともに、皆様方の力で、

新しい呼びかけがみのつて盛会

広島支部

副支部長 島村照生

今年の広島支部総会は、昭和五十八年二月八日（火）に高田皓二君（33）が勤務している「アンデルセン」で午後六時より開催しました。

当日は、翌九日、十日と二日間、広島で大学の入学試験が行われる前日であることよりも、火曜日と

更に発展させて下さい。

なお、母校創立五十周年にあわせて、岡山支部の名簿を今年中に作成致す予定にしていますので、編集、作成につきましましては格別のご協力を切にお願い申し上げます。また、編集委員には、小野、塩尻、渡辺各氏（いずれも35）になっていただきましたので、何卒よろしくお願い申し上げます。

終りに、わが母校も、この五十年を機に新たな発展、充実をされて、力強く前進し、堅実で、地道で、質実な経営方針と相まって、黒正イズムの美風を定着させ、永遠の発展、向上をされますよう心から祈念申しあげ、「支部だより」と致します。

いうウィークデーなので会員の集りにいささか不安がありました。しかし、一昨年来採用してきた参加者の増加法、すなわち、中国新聞の広告欄「会と催し」への掲載による呼びかけ、支部総会という堅苦しいイメージを打破してムードを和げることによる若い層への

な記念品を贈呈、全員大きな拍手で感謝の意を表しました。ところが、この感謝の記念品贈呈は二回行われたのです。一回はフラッシュが同調しないので後で……ということになり、そのまま盃を重ねわいわい、がやがや、やっているうちに、そうだ……あの写真を撮りなおしだ……ということでもう一度、ピカッとフラッシュが光り無事終了、全員で二度お祝いをしたことになりましたが、佐々木支部長には二度が三度でも感謝の意を表わす拍手をいとう会員はいないと思います。



大阪経済大学同窓会広島支部 昭和58年2月8日 会アンデルセン

呼びかけが徐々に浸透し、予想を上回る五十名ほどが集り、盛会でした。総会は、まず、同窓会本部よりご出席いただいた比企事務局長、谷口総務部長よりご挨拶をいただきました。特に、われわれの胸を打ったのは、比企事務局長の「余生を母校と同窓会に捧げる」という真情を基盤として、熱烈に母校の将来への関心を訴えられたことでした。つづいて、明九日の入試場の準備のために、少し遅れてこられた学校側よりご臨席いただいた成瀬教授、滝内助教授、桜井経理課長、黒正就職部主任を代表して成瀬教授より、学校の近況と五十周年記念事業のお話を兼ねたご挨拶がありました。特に、五十周年記念事業についてのお話ご印象に残り、微力ながらのご協力を心に誓いました。

さて、懇親会は佐々木支部長、島村副支部長の試策通り、今年も若い卒業生の参加者が多く、大いに飲み、食べ、語り、笑い、肩をたたき合い、実に和やかなムード一杯の会場と化しました。

宴もたけなわの頃、佐々木支部長の永年のご尽力に対し、支部員一人、一人の心をこめたささやか

思い出を語る

広島支部長 佐々木 一義

原爆から立ちあがった広島支部

言葉は大切なもの。誰が言ったかわからないが「七十五年間は草木も生えぬ……」と。原爆の町ヒロシマで昭和四〇年OBの集いが田辺忠司氏（7）宅（比治山の多聞院横）で開かれたのが昭和二十二年八月であった。そのきっかけは、私が、初代支部長、故松村浩氏（1）に呼びかけ、木原親平氏（2）、原田慶一氏（3）、大谷時彦氏（6）、三好秀一氏（10）等が恩師建林正喜先生を囲んで懐かしい高商時代の昔話に花を咲かせたように記憶している。その後数回松村氏の勤務先である中国電力本社地下食堂の焼跡に集合し、旧交を温めたことも懐かしい思い出となった。今にして考えれば、現在の広島支部の誕生は焦土の中から立ちあがったもので「俺達は生きてるのだ」という生死の境を乗り越えての喜びからスタートしただけに、その基盤は強固なものがあると信ずる次第である。

出張入試について

あの全くへんてこな学制改革により高商と言う特異性がなく

なり、そのあおりをくったお陰で、入試志願者が激減。確か昭和二十五年だったと思うが、広島が出張入試場に指定された。早速会場の手配等に奔走した。運よく建林先生が広島大工学部におられたので、入試場をお借りした。ところが、初年度の受験生は七、八名で、OBのお手伝いの人十名おり、受験生を凌ぐ数であった。今考えれば夢の様な話である。

出す。

最近の支部活動について

恒例の会合は年一回であるが、私から申しあげるのも口はばったいが、地方都市として集りは非常に良いものと自負している。しかも決して動員は殊更に行わない。大体四十名以上が、入れ代り、立ち代り集っている。もともと、副支部長の島村照生君（35）（日本一人口の多い五日市町の町会議員）が合気道のクラブを中心として気が合っているせいもあるが……。面白い動員方法として新聞広告を行っているが、これなど徐々に成果を挙げているようである。なお、先日、二月八日（火）（当日は大学入試前夜であった）に行った総会で支部から私に記念品をいただき大変恐縮している次第です。本誌を借りてお礼申し上げます。

毎年八月末、サッカー部は当時九州の新日鉄グラウンドはどこかで合宿を行い、帰阪の途中、広島に寄って東洋工業とサッカーの交歓試合をやるのが年中行事の一つとなっていた。試合内容は全くの互角で私達も楽しみの一つにしていたものである。今の経大サッカーは一体どうなっているのか。昔のことを知っているものにとっては腹立たしささえ感ずる次第である。

広島カープの初優勝した昭和五十年当時の監督ルーツさんが「可能性があれば失敗を恐れず挑戦せよ」といったことを思い



同じ学舎の同志たちよ

山口支部

支部長 串田 一

宇部市発展の基礎をつくられた故渡邊翁記念の宇部市民館の横、緑の木々に囲まれた国際ホテル八階で五月二十二日(日)午後二時より山口県支部総会がもたれた。

ご来賓として大学より成瀬教授、黒正就職部主任、同窓会本部より磯野会長、比企事務局局長、水納常任理事の五名のご臨席をいただいた。そして、支部同窓生の出席者は二十有余名だった。

総会は、まず、支部長より支部の近況並びに会計の報告があり、続いて磯野会長より母校創立五十年に関する諸事業、および同窓会の近況についてのお話があり、比企事務局より事務局からの連絡、要望事項の後、成瀬教授より大学の近況、黒正主任より最近の就職状況等それぞれのお話を伺って、懇談に移る。

は山口県支部に於ても同様で、ご出席の方々の話題も多岐にわたる、なかなかの盛会ぶり、ふと次の詩が思い出される。

げんじのあんせいにつかいするをおくる
送元二使安西

いじょうのちよううけいしんをうるおす
渭城朝雨浥 輕塵
きやくしやせいせいりゆうしよくあらたなり
客舎青青柳色新

きみにすすむさらにつくせいつばいのさけ
勸君更盡一杯酒

にしのかたようかんをいすればこじんながらん
西出陽関無故人

(注)故人親しい人

おい、お前、貴様、で通った学校、しかし、卒業して別れ別れになって社会に出れば当分は親しい人もいない。右の詩の本来の思いとは少し異なるけれど、「陽関」を例えば学校あるいは今日の支部総

北九州支部

支部長 嶋原 正孝

北九州に転勤された方

ユニークな仲間が待っている

北九州支部総会は、例年、大学の受験に合わせて行う慣わしになつておりますが、今年も二月十日(木)福岡市内のホテルで、同窓会本部から磯野会長、松本常任理事、大学から松原先生、他職員の方お二人をお招きして、同窓生四十三名出席のもとに盛大に挙行出来ましたことを、まず、ご報告申し上げます。私が前任の荒牧さんより北九州支部をお預りして早や五年になります。当時、荒牧さんから、「二十数年もお世話して来たので、ここらで後進に道をゆずりたい」という旨のお申し出があり、私にも出来ないことはないであろうと単純な気持ちでお引受けしたわけですが、これが大きな間違いで自分がやって見ると、なかなか苦勞が多いものです。北九州支部の皆様方のご理解とご協力を切にお願い致します。

係のお仕事をしておられ、現役で頑張っておられます。六回卒の荒牧さん、二十年間支部のお世話ご苦勞様でした。一見取っ付きにくいようですが、世話好きで思いやりがあり、この方がおられなければ今日の北九州支部は存在しなかつたでしょう。六回卒の中野さん、経大同窓生の中では異色の唐津焼の窯元をしておられ、唐津商工会の副会頭をされています。常に周囲を笑いで包み、この方がいなければ支部総会は盛り上がりません。七回卒の片田江さん、建設会社常



ここで北九州支部の皆様方の人物像を二、三ご紹介致します。
一回卒の松瀬、大坪さん、ともに七十三才のご高齢ながら経理関



会におきかえてみる、更に尽せ一杯の酒。

出席者には先輩あり、後輩あり、しかし、同じ学舎のめしをくった者同志である。親しく話し合えるのではなからうか。

支部総会はお互いに親しく話し合える場である。多数の同窓生が出席し、数多くの経験のふれあいを通してお互いが前進できる。

食も足り、酒も大分まわった様子、話はお互いにまだまだ尽きないようであるが、閉会とする。

なお、紙上をかりて、遠くからご出席をいただいたご来賓の皆様にお礼申しあげると共に、地元支部での総会を引き受け、設営された諸氏の労に感謝の意を表します。

九州支部発足のことなど

プロローグ

経大九州支部が呱呱の声をあげたのは、いつのことになるのだろうか。もう、たしかに二十年以上はたつていると思う。そして、ささやかな結成の集いをした所は、福岡市の郊外を流れ

六回卒 荒牧 博之

る清流、室見川河畔の料亭で、白魚料理だったのを記憶しているから、季節は梅の花もそっとほころぶ二月ごろではなからうか。

その動機

在学のときは、藤原光治郎教

授のゼミに入っていたのだけれども、卒業して二十年余りもたったある日、藤原先生からお手紙をいただいた。経大の出張入試を九州は福岡で実施することが決つた。ついては、その試験場や、受験生募集のPRなどの連絡を、そして、この際、九州に経大の同窓会支部を創設してはどうか」と、したためられ、九州地区の卒業生の名簿も同封されていた。

紙面に出したら、新聞を読んだ卒業生が訪ねてきて、一石二鳥(?)の同窓生さがしになった。出張入試の受験生募集
春の入試が始まる前の年に「高校PR作戦」をしようということになって、福岡においていただいた梅田武文、浅沼玄恵両教授と、福岡県下の高校回りをしたことも、懐かしい思い出のひとつといえようか。

藤田理事長とのエピソード

出張入試と卒業生探し
初めての支部総会は、さきの河畔の料亭で旗揚げをしたけれども、十名そこそこの、文字どおりささやかなものだ。いまは、もう数百名を数え感無量の思いだけれども、同窓生がみつかる、まるで選挙の一票に見える思いだった。

それは、いつの日だったか、ある日「荒牧君、元気でやつとるかネ」と、福岡の新聞社にお訪ねをいただいた。九州の同窓会は、なかなか活発にやつとるようじゃナ」とお言葉をもらって嬉しかった。だが、感激の盃を重ねているうちに、繁華街の通りに出て、理事長先生を見失ってしまった。そのときの失敗の思い出がなかなか消えない。

藤田理事長先生あるときは本場に申訳ございませんでした……
〒810福岡市中央区桜坂三十四
ハイムNEW桜坂三二一
☎〇九二一五三一―二一四八
ジャパンプライダル・ニュース編集長。

経大出張入試のことを取材して、

務さんです。豪放快活な方で、支部の面倒を良くみて下さいます。他にもユニークな人が多士済々ですが紙面の都合上次回にご紹介したいと思います。

最後にお願ひ事でございますが、福岡は支店都市で転勤者が非常に多く(本年度五十七年度転出者約

南九州支部

支部長 宮田順一郎

城山の一角で無礼講総会

桜島の背後がうっすらと明るくなっていく。その頃、まだ市内の水銀灯はあかあかと輝いている。その明るさが、薄紫から真紅へと変わるに従い、桜島の姿が黒く浮びあがってくる。その時刻のこの光景は、筆舌では尽せないほど美しい一幅の自然の名画である。これは桜島の「静」の姿である。何の予告もなく、「ドーン」という轟音を響かせ、噴煙をもくもくとあげる。実に雄大であり、これも一幅の自然の名画に違いないが、これは桜島の「動」の姿である。われわれにとっては、この「動」のときが問題である。風向きは……、もし、あの美しい噴煙が市内の方へなびいてきたら、さあー



大変である。自動車の窓をいくらか閉めようと、また、家のサッシの戸を閉めようと、どこからとも

十名、転入者不明)名簿の作成に困っております。ご連絡いただければ幸いに存じます。また、全国の同窓生の皆様、九州においでの際はご一報下さいませ。

なく、あのザラザラとした火山灰が忍び込んでくる。街は夕暮のように薄暗く、呼吸さえもまともにできない状態になる。これも、一度、経験した人でなければ理解してもらえないことである。

この静と動の両面を持つ桜島と波静かな錦江湾を一望に見わたせる城山の一角にそびえ立つ城山観光ホテルの滝の茶屋で、昭和五十七年八月二十二日(日)午後一時より、昭和五十七年度南九州支部総会を開催いたしました。

当日は、学校より玉岡浩総務部長、同窓会より磯野会長、渡辺名誉会長、また、たまたま夏休みで帰省中の大学の竹内総務部庶務課長補佐のご臨席をいただきました。われわれ会員は宮崎よりご参加いただいたお二人を含め二十有余名が集いました。

玉岡浩総務部長より母校の現況を、磯野会長、渡辺名誉会長より同窓会本部および各支部などの動向についてのお話をいただきました。われわれのように九州の南の端にいる南九州支部の会員にとっては、それぞれのお話を興味深く、また、懐かしく聞かせていただきながらにして母校ならびに同窓会の動向が伺え、うれしく拝聴い

たしました。特に、今年には母校創立五十周年という輝かしい伝統の年にあたることを改めて認識し、われわれも微力ながら、ご協力させていただくことがあれば……と心に誓い合いました。

さて、懇親会は、例によって鹿児島名物の焼酎の盃が重なるにつれ、同窓というものはありがたいもので、無礼講そのもの、わいわい、がやがや、思い出話に花が咲き、話題はどんどん広がる一方で尽きるところなし、というありさまでした。いつものことながら、お世話をささせていただくわれわれとしてはご参加下さった会員の皆さんのこのだんらんぶりを見ていただけで満足感に浸っていました。今回は、二次会として、納涼観



光船で錦江湾を一周することを予定していましたが、誰か悪いことをしてきた人がいたのか、あいにく天候不良のために中止しなければならなくなったことが、われわれ世話役として心残りの一つでした。

二次会中止となれば、さあー二次会で……と、とことんまで飲み、食べ、語り、笑い、歌い、時間を忘れて楽しみました。

福井支部

支部長 内田 甫

母校愛に燃える団結と融和

今年も、本当に、楽しい一日で

会員の皆様方には各職域、また与えられた職務において、世の苦境を乗り越えられ、それぞれが青春の思い出の中で活躍の心から喜びを申し上げます。さて、福江夏祭の八月一日(日)午後二時より、福井市・福井人絹会館にて支部総会開催のご案内を差しあげました。会員の皆様方は言うに及ばず、ご遠路しかも何かとご多用の中を、また、当日は台風なみの悪天候にもかかわらず、同窓会本部より、わざわざわが福井支部総会のために、磯野会

した。南九州支部の会員の皆さん来年度の総会にはぜひご参加下さい。お待ちしております。ただ残念だったことは、われらが、あらゆる面で、兄貴と思っっている比企先輩が体調をくずされてご参加いただけなかったことです。最後まで、何か一つ忘れ物をしたようでした。来年度の総会には、ぜひお元気な姿を見せて下さい。一同お待ちしております。

長、比企事務局長、大学側より、大槻先生のご臨席をいただき誠に光栄恐縮の至極でした。総会は、嶺南、嶺北より参集された三十余名の元気の会員の皆さんが互いの雑談の中で午後二時三十分より開宴となりました。そして磯野会長、大槻先生、比企事務局長よりご丁寧な、しかも、当を得たそれぞれの挨拶を拝聴することができました。それに引き続き、吉田叔氏(20)の添言と相まって、会員各自の自己紹介が行われました。それは一人一人の貴重な母校愛に



燃えた雄弁でもって終始しました。その中でも特筆にあたいするのは、七月十一日の武生市議会議員選挙の改選に出馬した西生和秀君(40)が、三十才という最年少の若さで激戦の中、しかも、高位当選を果されたことでもあります。この事実

富山支部

支部長 重松 尚

新企画で盛り上った支部総会

昭和五十八年六月十九日(日)午後三時より富山駅前、ホテル・東急インにおいて、本年度の富山

支部総会を開催いたしました。支部総会というものは、同窓生が一堂に集り、旧交を温め、融和

を因ることに大いに意義がある。しかし、今年は少し趣を変えてみては……との幹事諸兄の意向があり、協議の結果、母校より恩師を招いて講演をしていただく、ということになりました。そして、当日お招きする先生は当地方にゼミOB生の多い倉辻、濱本両先生と決定しました。

さて、当日は、同窓会本部より、磯野会長、比企事務局長が、前日の夜開催された同窓会理事会の疲れも見せずに、また、母校より待望の倉辻、濱本両先生のご臨席をいただきました。



まにか年一回の総会もやっとなった状態になったそうです。そこで、昭和四十六年に地域組織の脆弱さをカバーするために、職域組織としての高松市役所勤務者を中心とした支部を並行して結成し再建に乗り出したそうです。その後、支部活動としては、毎年夏期休暇の学生の音楽発表会の会場の幹旋、高松市において開催される大学の地方受験場ならびに来高の諸先生のお世話、昭和五十三年高松の国際ホテルにおいて、大学の学長、

現実ばなれをしていて、もう一度学生にかえったような気がいたしました。が、いわれていることは誠に当を得ており興味深く、アカデミックな響きがありました。つぎに、濱本先生のお話は、現在、日本全国の都市の商店街が、大なり小なり、抱えている商店街近代化のお話でした。これは「言うは易く行なうは難し」です。商店街自体が内包している課題を、これから自身が自覚し、団結し、将来のビジョンに向って、自己を「無」にして大義に生き、その中で自己の活路を見出さなければなりません。日本人特有の島国根性を捨て切れなくて口先だけの賛成論、すなわち、今日的にいえば、「総論賛成、各論反対」を脱皮しなければならぬことの重要性を感じました。

しかし、われわれが日常生活の中で痛感していることを、両先生から直接お聞きしたことは、本当に、有意義だったと思います。さあ……、総会も講演も終了、待望のパーティーが始まりました。飲み、語り、笑い、名刺を交換し、あちらでがやがや、こちらでわいわい、実に、やはり同窓会でなければという雰囲気一杯でした。

理事長、同窓会の比企事務局長をお迎えての就職懇談会の開催に対する協力等を行って来ました。初代、松原範幸氏(7)、二代、水野高司氏(12)、三代、矢野保郎氏(8)らの歴代支部長を経てきた伝統ある当支部は、昭和五十六年に、旧昭和商卒業生による支部運営から生れ変わり、先輩らの築かれた伝統を守りながら若い大阪経済大学の卒業生の力により運営するように、との先輩らの示唆により、四代支部長に和田憲明氏(38)が選任され、その名も香川県支部として香川県全域を包含した現組織に改組して現在に至っています。次に、昭和五十七年度支部総会のご報告をいたします。

会員の皆さんが年度末のあわただしい時をお越しの三月十四日(土)午後四時より和田支部長が経営されている「わたや」において香川県支部総会が開催されました。三月半ば、いわゆる年度末という大変お忙しい時期ではありましたが、旧知の友と談笑するため県内の同窓生が相寄りしました。和田支部長の開会挨拶に始まり、ご来賓の磯野同窓会会長のご挨拶、また、大学からは、藤原、稲原両教授が我々の要望に応えご臨席下され大

時間が経過するに従い、昔話に花が咲くとはよくいったもので、本当に、よく食べ、よく語り合いました。ただ、その中で幹事諸兄が、あちらこちらと小走りに気をくばっておられたことに対し、改めて心からお礼を申しあげます。ご苦勞様でした。

そうしているうちに時間が過ぎ閉会のときがきてしまいました。楽しみにしていた支部総会も、このようになごやかに、そして盛会裡に無事終了いたしました。来年は高岡で!! また、お会いし、楽しい一時をお互いに満喫しまし

香川支部

築かれた伝統を守り若き力で運営

香川県支部の歴史について初代松原範幸支部長(7)にお話を聞きしたところによりますと、昭和二十四年田村正章氏(6)、松原範幸氏(7)、矢野保郎氏(8)、水野高司氏(12)等が世話人となつて、高松市内在住の同窓生を中心に支部結成を決議され、それぞれの同期生に呼びかけられたのが契機だそうです。そして、翌昭和二十五年正月、藤原教授、渡辺理

よう。富山県在住の同窓の皆さん。来年は、ぜひ、高岡へお集り下さい。お待ちしております。

最後になりましたが、今から十五年前の昭和四十三年四月十四日、神通川のほとりのホテルで富山県支部が産声をあげるために、早川顧問(7)とともにご尽力いただいた比企事務局長が、こしばらく諸般の事情でご臨席いただけませんでした。今年はお元気でご参加いただいたことを会員を代表してお礼申し上げます。ぜひ、来年もご出席下さいますようにご自愛をお願いいたします。

幹事 藪内 敏裕

変感激いたしました。続いて比企同窓会事務局長、黒正就職部主任の同窓会の近況報告ならびに就職情報を聞き、皆それぞれ若き日の大学生活を懐かしく思い出しながら母校の、また同窓会本部あるいは各支部の概況をかいまみることでできました。しかし、運命にはさからえず、中沢、池田両先輩を失い、我々同窓生一同、ご両名の霊に対し黙禱をし、心から亡き旧友をしのびました。皆さん、長生きして下さいよ。しかし、生きていくものは元氣よく松原初代支部長の乾杯の音頭で懇親会へと移りました。「先輩」「後輩」と酒をく

丹有支部

同窓会活動の発展が母校の隆盛を築く

役員会報告

われわれの支部は、会員相互の連携を密にするために三人の副支部長さんをはじめ役員の方々は、地区、出身高校、卒業年等を考慮して選出されており、平素より組織の確立を図っております。

そして支部運営に関する重要な事項は、役員会で協議し決定することになっておりますので、その役員会は、三つの地区を持ち回り

みかわし、一人、また一人といろんな方と知りあいになれる場を得た事は、利害を伴わない同窓会ならではのでないでしょうか。途中カメラマンを頼んでの記念撮影。宴もたけなわで、まだまだ物足りないうすでしたが、またの機会を楽しみに閉会し、三々五々、夜の高松の町へと消えていきましたが、せっかく、藤原、稲原両教授をお迎えたので離してなるものかと、有志相寄り、両教授の宿泊されるホテルのバーで二次会。本当にありがとうございました。来年はもっともつと意義のある総会にしますのでご期待下さい。

支部長 梶村 文弥

にすることにしています。さて、昭和五十七年度第二回支部役員会が三田地区の役員の方々のご配慮によって次のとおり開催されました。

当日は、それぞれご多忙の中を多数の方々がご出席いただき、会計の中間報告や、今後の支部の運営と発展策等について熱心に協議されました。その結果、支部総会

の開催は第一役員会で決められていたとおり、昭和五十八年二月二十日(日)、会場は三田市のサンセブンと確定しました。

なお、案内については、六百名の会員に対して二百枚の往復ハガキを発送することにし、通知を受けた者が数名の会員に伝え、出欠をまとめて返事をするにしました。さらに、役員は電話その他で、できるだけ多くの方々に連絡をとることも申し合わせました。

伝統をふまえ盛大な総会

空はあくまで澄み切って、菊の花が色とりどりに咲き誇る好季節、母校の創立五十周年をお祝いするとともに、全国各地でご活躍の皆様方のご多祥を心よりお喜び申し上げます。

われわれの支部は、この地域を古く丹波、有馬と称し、現在行政上も「丹有」といっていますので、支部の名称としているわけであり

とができました。

とき 昭和五十八年二月二十日

(日) 十一時

ところ 三田市三輪 サンセブン
出席者 五十五名(大学・本部来賓三名)

ホール全部を借り切った会場には特設のステージが設けてあり、「大阪経済大学同窓会丹有支部総会」と大きく書かれたパネルが掲げられ、華やいだムードが漂う中、会が始まりました。磯野同窓会会長から母校並びに同窓会の発展と各支部の状況や、創立五十周年記念事業についての構想などのご報告とご説明があり、大槻先生からは、大学の教育、経営の方針や入試と学生の現況などについてのお話がありました。次いで、比企同窓会事務局長から大学と同窓会の振興発展策や、本部と支部の連携のあり方についての日ごろの抱負などを、ユーモアを交え熱意を込めて述べられました。各種の報告事項も順調に進み、成功を喜び、

奈良支部

新支部長のもと盛大に総会開催

昭和五十七年度支部総会は十月

十七日(日)に奈良県文化会館で

支部長 松本 孝之

となり、ひいては支部の振興につなげるのだという自覚に立って努力していかうとの声、この度の役員会の大きな成果でありました。

こうして、総会を成功させようとの熱意を抱いて、晩冬のたそがれの街へと散会しました。

記

とき 昭和五十八年一月三十日(日) 十一時

ところ 三田市三輪
サンセブン
出席者 二十三名

ところで、支部の歴史は、戦後の混乱期をやつと乗り切ろうとしていた、昭和二十五年四月、故新家繁氏(7)の主唱により、篠山において「丹波支部」の名で、全国九支部の一つとして、産声を上げたのに始まりです。その後、着実な歩みが見られたのですが、しばらくたつて、残念ながら、活動が停滞した状態が続いておりました。

感謝しながら閉会しました。

続いて、懇親会に移ったのであります。宴もたけなわのところ、各テーブルから選ばれた十名の名歌手によるカラオケ大会は圧巻でした。いつ果てるとも知れぬ歓談に、時のたつのも忘れていたところへ、逍遙歌の歌声が感慨深くわき起り、次回の、篠山地区での開催に再会を約して幕を閉じました。

さて、近年、当地域から母校への受験生が激減しています。これは誠に重大なことであり、このまま見過ごすと大変なことになる。大学当局も、同窓会も早急にその対策を講じられるように要望いたします。

今後、われわれの支部は、会員相互の協調を一層深め、建学以来の全学融和・自主と協力の精神により、支部の活動を積極的に進めていきたいと思います。おわりに、皆様方のご多幸と、母校ならびに同窓会の隆盛をお祈り申しあげます。

そこで、何とかしなければ、と有志の者がいろいろと相談した結果、昭和三十九年二月十六日の総会で、正式に「丹有支部」として発足したわけでありました。

その組織は、ユニークなもので、当地域にある六つの高校(後に七校)を卒業して、大阪経大に学んだ者と、当地在住・在勤者による卒業生会員と、在学生会員からなり、それらが一体となって協力しながら発展してまいりました。

その間、総会その他通常の活動のほか、昭和三十八年、四十年には、大学創立三十周年同窓会記念事業資金の募金活動。昭和四十年十一月六日、篠山小学校講堂、四十一年六月十二日、三輪小学校講堂、四十五年三月十五日、水上郡公会堂、同年十一月二十二日、篠山小学校講堂において、それぞれ母校の軽音楽部を招いてジャズコンサートを開催し、大成功をおさめたこと。大学紛争のため、四十六年度・四十九年度・五十一年度の入試の援助十名ばかりずつが当支部からも出かけて行ったことなど、数々の思い出があります。ところが、その後、役員の勤務の関係や会員数が急増したことなどにより、会員の掌握や活動が思



開催いたしました。今回は、平尾前支部長(6)のご健康がすぐれず、役員改選を行い、新役員を選出して、二年ぶりに総会を開催いたしました。当日は、同窓会本部から磯野会長、渡辺名誉会長、比企事務局長、大学から内海教授、黒正就職部主任のご参加をいただき、出席者約九十名、大変なごやかに、盛會裡に無事総会を終了いたしました。

総会は、元田氏(29)の司会により開会され、松本新支部長(7)のご挨拶につき、本部から磯野会長の創立五十周年記念行事関係を中心に大学発展に尽きられている本部の現況説明をいただきました。そして内海教授から学校の現況、



うようにできず、不本意ながら、総会もこしはらくとだえていました。

一昨年来、本部の格別のご援助により、六百名に及ぶ支部会員名簿が整備改訂され、各委員を充実し、学生会員の名称を除くなど、会則も一部を改め、再興を図りました。

その結果、昭和五十六年度は久しぶりに、盛大な総会を開催することができたのであります。引き続き、昨年度は二回の役員会をもって支部活動を活発にするように努力いたしました。

そして、昭和五十七年度支部総会の開催を、次のとおり迎えるこ

黒正主任から卒業生の就職状況と今後の同窓諸兄の協力依頼のお話があった後、しめくりとして、比企事務局長が、ユーモアたっぷりに同窓会会員名簿および記念品の購入依頼があり、多数の協力申込がありました。次に、支部事務局より新役員諸氏の紹介と五地区一職域、顧問、相談役、監査役および事務局からなる新支部組織の説明を行い、新名簿の全員への配布依頼を行いました。ひきつづき南沢氏(21)より提案と主旨説明があり、国際文化観光都市の発展にご活躍中の奈良市長、木山弘氏(7)を励ます会に支部として積極的に協力することが全員一致で決定されて、ご当人、木山市長からご挨拶のあと、木山市長を励ます会の支部代表に堀氏(5)を提案し、全員拍手で承認を得ました。午前中の議事を終了。全員の記念撮影には出井氏(20)に腕をふるってもらいました。午後は懇親会の場となり、まず、会員の親睦に活動中のゴルフ会「大樟会」の柴田会長(8)よりご挨拶があり、世話役西本氏(23)から成績発表となりましたが、発足以来数回にわたる優勝者の発表には、年令を問わず、これぞ同窓会と思われる

方々の名前が呼びあられ、拍手の連続でした。さらに本会には第一回よりご参加願っている渡辺名誉会長(3)の寸評などをいただき会場は大いに盛りあがりました。懇親会は森田氏(22)の労作による、学歌、逍遙歌等のB・G・Mを聞きながら談笑し時間の経過を忘れる程に早く過ぎ去りました。最後に、学歌斉唱、万歳を三唱して再会を約して閉会しました。

三重支部 赤日瀧で甦える若さと青春

在県三百有余名の同窓会会員諸士、日夜ご健闘のことと拝察し大慶至極に存じあげます。

年一回の澱江でのご挨拶を謹んで申しあげますとともに、三重県支部、昭和五十七年度総会開催の模様や、当日決議された事項をご報告申しあげます。日常の職務や生活に同窓生相互に連絡をはかり、親睦を深め、相互に利用し、わが郷土三重の発展に寄与され、ひいては母校大阪経済大学の隆昌と発

展に励まれんことをお願いいたします。昭和五十七年度総会は既にご案内申しあげました通り、昭和五十七年十一月七日(日)午前十一時より名張市赤日町ホテル「山城屋」で開催しました。当日はあいにく小雨で、ご参加の皆様にはご迷惑をおかけしました(名張駅よりホテルのマイクロバスにて送迎)にもかわりませず、大学側より成瀬教授、黒正就職部主任、同窓会

関西のベッドタウンとして増加した人口に比例して、支部会員は年々五十余名ずつの増加となり、五十七年九月現在、一〇三四名の大半となりました。今後も益々増加すると思われれます。古都奈良をよき住居に選ばれた同窓の皆様、奈良支部の発展と、融和と、親睦向上にご協力をお願いいたします。最後に、新支部名簿作成にあたり、本部の比企事務局長および事務職員の方々の多大のご協力を深く感謝いたします。

支部長 水上 敏夫

去る五月二十九日(月)、大阪府の南の端にある淡輪に於て正午より、大阪経済大学同窓会泉南支部結成大会、および、祝賀懇親会を開催しました。

泉南支部 五月晴に祝福され発会

総会は我々の支部結成をあたたかも祝福するが如く、五月晴の空は雲一つなく、あくまで青く、また、波静かな洋々たる大平洋を背景に



より比企事務局長と三名のご来臨を得ました。

出席会員十五名。大学側の近況報告、特に、本年度実施予定の大学創立五十周年記念事業構想等の説明と同窓会事務局連絡の後、懇

事務局長 車野 修三

そびえたつ「淡輪苑」の大広間で泉南支部名誉会長である大先輩の藪内正博氏(1)を初め三十八名の泉南地区在住の諸兄らが集い盛大に挙行されました。大学から稲原康雄先生、黒正明就職部主任をはじめ、同窓会本部から磯野齊会長、渡辺達好名誉会長、比企重事務局長、ならびに西

和歌山支部

支部長 松本 旬弘

若き同窓の輩が次々と集い盛大な宴



導下さい。

支部役員は左記の通りです。名誉会長 藪内正博(1) 顧問 重里 実(11) 会長 中川克己(6) 副会長 (泉佐野東) 清水 実(10) (泉佐野西) 嘉祥寺谷昇(23)

島根支部

事務局長 神田 馨

神々の国島根に念願の支部結成

島根県といえば、東から西まで、山陰本線の急行あるいは特急でも約三時間三十分かかるほど横に細長い、裏日本の一つの県である。その島根県に支部を結成しては、同窓会本部の比企事務局長から要請があったのは、もう三、四年

前からのことである。そして、本日から島根県在住者の名簿も届いたが、余りにも同窓生が点在していること、また、出雲市に渡部弘一郎先輩がおられるのに……という懸念もあり、一日一日とのびのびになり今日に至った。

本集一総務部副部長のご臨席をいただき、諸先生方よりいろいろ有意義なお話があり、出席者一同感無量で拝聴するとともに、錦上花を添えていただき、より一層盛大な支部発足会となりました。当日は南海電鉄の架線脱線というアクシデントにもかかわらず、ご遠路ご出席いただきました諸先生方に厚くお礼申し上げます。また、この泉南支部の発足にあたりましては、準備委員長の真鍋弘氏(7)を中心に、中川克己氏(6)、宇野修氏(7)、竹内三郎氏(10)それに車野修三氏(27)、市場谷楠雄氏(35)の諸氏が、いろいろとお世話をされて同窓会の二十八番目の支部として発足することができました。そして、私達の支部は趣味を通じて交友関係を深めようという真鍋弘氏の提案で、ゴルフクラブ、旅行同好会、陶器観賞会、グリーンクラブ、テニス奥様会等すべての人が参加出来る多くの会を作って行く予定でございます。かつては同じ学舎で学び、遊んだ私達は年齢差を感じさせない同窓会支部を目指しております。全国各支部の皆さん、新しく出来ました泉南支部をよろしくご指

事務局長 車野修三(27) 会計長 松浪 敏(30) 事務局長 市場谷楠雄(35) 監事 藤原勇三(9) 飛田正夫(23)

幸いにも大阪経済大学同窓会の支部として仲間入りをさせていただいたのを機に、この「瀬江」の紙面をお借りして、お国自慢の一端を披露しておきたい。

ご存知の通り、島根といえは、まず、思いおこされるのは、ヤマタノオロチの伝説で有名な斐伊川を中心を広がる出雲平野が古代出雲文化発祥の地であり、わが国古代史に重要な意味を持つところであるということだろう。そして今日の目的に言えば、大国主命(だいこくさま)を祭神とし、縁結び、福の神として親しまれている出雲大社、『出雲国風土記』に「一度すずばば形容端正くなり、再び浴むれば万病悉く除く」と記されている玉造温泉、海猫の島、経島、日御碕燈台、民謡「関の五本松」で知られている美保関、名刹清水寺と、近年、訪れる人が多くなった足立美術館があり「安来節」のふるさとでもある刃物の町、安来などなど自慢していればきりが無い。しかし、残照の最高に美しいといわれる宍道湖畔に開けた松平十八万六千石の居城、千鳥城(松江城)のある松江市は、やはり島根県の行政の中心地として重要な地位にある。小泉八雲旧居・記念館、

今なお残る武家屋敷跡、明々庵、菅田庵、月照寺など、行政の中心と観光の街でもある。さらに、後鳥羽上皇の故事で有名な隠岐諸島、松平六万石の城下町、浜田、毛利家永代家老の城下町であった益田など、本当に島根県は我田引水ではないが、いいところである。

さて、本題に戻る。今春、大阪屋証券、松江支店長に金池美光氏(23)が就任されてから、今日まで持ち越されてきた支部結成に関し、いろいろご尽力をいただいた結果、再三にわたる幹部会を開催し、やっと難産の島根支部が誕生し、発会の日を迎えることができた。

日時 昭和五十八年六月十二日(日)
場所 松江駅前、東急イン、芙蓉の間
出席者 大学 黒正明就職部 主任
同窓会 磯野斉会長 谷口一郎総務部長

定刻、午後三時より支部結成総会を開催。渡部弘一郎支部長(9)のご挨拶の後、ご遠路ご臨席をいた

いただいた三名のご来賓のご祝辞と同窓会の現況ご報告をいただいた。引き続き総会に移り、支部長が議長となり、神田馨氏(10)から会則の審議、経過報告があった後、役員、理事の選出をして総会を終了。そして、記念写真を撮り懇親会に移る。



大阪経済大学同窓会島根支部総会 S.58.6.12 於 松江東急イン

の二十九は「福」という目出度い数と賞賛をいただいた。最後に、この島根支部により多くの同窓会員が参加され、年々支部総会が盛会になることを願っている。また、支部結成に多大のご尽力をいただいた比企事務局長が体調をこわされて、当日ご出席いただけなかったことを残念に思うとともに次回のご出席を支部会員一同お待ちしている。

島根支部の役員は左の通り。
支部長 渡部弘一郎(9)
山陰ナショナル製品販売(株)社長
事務局 神田 馨(10)
(株)神田 社長
世話役 津田恭一(16)
(株)津田家具店
世話役 金池美光(23)
大阪屋証券(株)松江支店
島根へお出の節は、ぜひご連絡下さい。お待ちしております。



北海道支部 「支部発足ス、連絡乞ウ」 北海道在住の同窓生諸君!

かねがね念願いたしておりました同窓会北海道支部が本部のご承認を頂いてようやく昨年十一月に発足することが出来ました。承りますと全国で二十七番目の支部誕生とのこと。母校の発展と共にその威光が北海道の地にまで及んできた証左であろうと本当にうれしくご同慶に絶えません。

小生が北海道に渡りましたのが終戦直後の昭和二十一年の夏でございます。その頃は汽車の切符も思うように入手出来ず、小さな貨物船で能登半島の七尾港から小樽の港に約二日間ばかりかかって着いた記憶がございますが、当時は勿論、北海道の発展は正に隔世の感がございます。

渡道後しばらくして同窓生も二、三名おられることを知りお会いいたしました。転勤者のために短期間のおつき合いしか出来ず、いささか淋しい思いをいたしておりました。

其の後、同窓会名簿で若干多く

支部長 田中喜三郎

なつたことを知りましたが、多忙にことよせて皆様にお声をかけることも出来ずにおりましたところ、偶々、五年程前に柳幸治郎君(29)が訪ねてこられ、同窓のよしみから取り引き関係も生じ、時折会って雑談していううちに、O・Bに呼び掛けをしようということになり、彼にその準備をお願いした次第でございます。彼も三年前に転勤され、現在姫路に居住されておりますが、その結果、同窓生は札幌を主とし、函館、室蘭、旭川、帯広、



釧路と散在してはおりますが、第三回卒の磯谷俊大氏を先輩として第四十八回卒生まで二十名近くの所在を確認することが出来、一昨年十一月末に初会合を開いたのでございます。皆様大変喜んでくれまして、各々自分の学生時代の思い出等を語り合い、本当に懐かしい、楽しい一時を過ごしました。そして一年後の支部結成の運びと相成った次第でございます。

現在会員数は三十名足らずでございますが、まだまだ漏れている方もあるように思われますので、お知り合いの方がございましたらご連絡をお願いいたします。他支部に比較して極めて少人数でございますが、支部結成を契機といたしまして北海道在住の先輩、後輩が互いに連絡を密にし、親睦を深め、仕事の上にも反映させ、さらに、母校の、そして、同窓生の皆様方のために何等かのお役に立ちたいものと思っております。

北海道は日本の半分の広大な地に人口五六〇万とその密度も少なく、したがって豊かな大自然の中に生きているような感じで、伸び伸びとしたおらかな気風もこうした環境によるものと思われませんが、本州に比してすべてに可能性を秘



学園の近況

- 宣言文
- 人事
- 入試結果
- 入試要項
- 就職関係
- 国庫助成
- 新刊紹介
- 本学で開催された学会
- 公開講座

創立五十周年記念式典十一月二日に挙行と決定!

昭和五十七年度同窓会総会において、鈴木学長が次の「宣言文」を読みあげ、決意表明されました。

創立五十周年を迎えるにあたって

大阪経済大学は昭和七年に浪華高等商業学校として創設されて以来、本年で五十周年を迎えることになりました。

この間、浪華高等商業学校が種々の事情から昭和十年に改組されることになり、当時京都帝国大学教授として令名高い黒正巖博士を校長に迎え、校名も昭和高等商業学校と改め新発足しました。これには文部省、大阪府、大阪市あるいは教育界、財界の絶大な支援と黒正博士の友人であった広汎な学者グループの協力もあって名実ともに一新し、今日の本学発展の基盤が固まったのであります。戦中、戦後のしばらくは大阪女子経済専門学校・大阪経済専門学校と推移しましたが、昭和二十四年の学制改革に当たっては、いち早く大

阪経済大学に昇格し、以後経済・経営学系統の専門大学として重きをなすと同時に、その業績も高い評価を受けております。

本学の伝統としては黒正校長時代から培われた自由と融和の精神を中心に、加えるに民主的な教育・学風は地道で質実な経営方針と相俟って、他に類を見ない特色となつていますが、さらにいわゆる黒正イズムといった学生の美風も引き継がれて今日に至つておるのであります。

なお、学園は現在までに四万名にものぼる有為の人材を社会に送り、その活躍状況も広く世間の認めるところであります。

本学は、いまや創立五十周年を迎えこれを一つの転機として、輝かしいこの伝統を継承しつつ、さらに新たな発展・充実に力強く前進すべきだと存じます。

このため本学は、今回この五十周年を記念し、先学を顕彰する意味で諸種の記念事業を推進すべく、決意しました。事業の詳細はいずれ明示する積りですが、いたずらに大を望まず、これを堅実に向こう三か年の計画で実施したい方針であります。また事業の一環として多目的に使用可能な記念館の建設や記念式典の挙行なども進める予定にしております。なおまた、本学では五十周年を契機として、向後の大学のあるべき姿を考究し、本学にふさわしい教育・研究の諸条件整備についても鋭意検討を加え、逐次実現に向け努力を払うつもりであります。

以上の趣旨を全うするには、学園関係者はもとより同窓会・後援会各位の協力一致なしには、その実現は容易ならぬことと考えられます。そのためにも、今後は機会ある毎に、隔意のない意見を交わしながら、未来への飛躍に向けてその基盤を早急に固めなければならぬと考えます。

本日、文化の佳き日にあたり、ここにわれわれは本学の五十周年を胸にきざみ、さらにこの記念事業にこめた意義をご高察いただき、格別のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。五十周年を迎えるご挨拶といたします。

昭和五十七年十一月三日

学校法人

大阪経済大学

理事長

藤田敬三

大阪経済大学

学長

鈴木亨

● 第一回記念事業委員会

昨年の十月十八日、レストランパレスで開催。学内の準備委員に同窓会二名、後援会二名が加わり、「五十周年記念事業委員会等に関する規程」について審議し、宣言(上記の)を行うについて合意を得ました。

● 第二回記念事業委員会

昭和五十八年四月二十七日(水)午後六時からレストランパレスで標記委員会が開催されました。

【議事】

- ① 学内の理事・学部長・部館長の交代による記念事業委員(新)を承認。
- ② 記念事業委員会顧問を原案どおり選出。
- ③ 五十周年記念式典を本年十一月二日(水)、新阪急ホテルで開催することを決定。
- ④ 式典等実行委員の選出等を行い、今後は、この式典等実行委員会において、式典の具体的事項を逐次検討する予定。
- ⑤ 今後の記念事業についても検討が加えられ、記念事業のメインである記念館の建設については、遅くともこの夏頃までに具体案を決定すること。
- ⑥ 式典当日までに、「経大五十年の歩み」(写真集)を発行。
- ⑦ 「創立五十周年記念論文集」(経大学会)を来春をめどに刊行すること。
- ⑧ この秋から開始する募金事業に関しては、その実行委員を引き続き選出する予定。

記念事業委員会 委員名簿 (敬称略)

昭和五十八年五月一日現在

- 西野 証治 (大阪経済大学 教養部長)
比企 重 (大阪経済大学 同窓会事務局長)
松村 幸一 (大阪経済大学 経済学部長)
香川 一男 (大阪経済大学 広報部長)
望月 清 (大阪経済大学 後援会会長)
山本 晴義 (学校法人 大阪経済大学理事)
藤田 敬三 (学校法人 大阪経済大学理事長)
副委員長 鈴木 亨 (大阪経済大学 学長)
委員 岡本 昌夫 (大阪経済大学 学生部長)
磯野 斉 (大阪経済大学 同窓会会長)
井上 清 (大阪経済大学 大学院委員長)
内田 三良 (学校法人 大阪経済大学理事)
内海 健一 (学校法人 大阪経済大学理事)
大槻 弘 (学校法人 大阪経済大学理事)
坂口 忠男 (大阪経済大学 後援会副会長)
竹林 祐吉 (大阪経済大学 経営学部長)
玉岡 浩 (学校法人 大阪経済大学理事)
千葉 勇夫 (大阪経済大学 教務部長)
成瀬 洋 (学校法人 大阪経済大学理事)

記念事業顧問 名簿 (敬称略)

昭和五十八年五月一日現在

- 西野 証治 (大阪経済大学 教養部長)
比企 重 (大阪経済大学 同窓会事務局長)
松村 幸一 (大阪経済大学 経済学部長)
香川 一男 (大阪経済大学 広報部長)
望月 清 (大阪経済大学 後援会会長)
山本 晴義 (学校法人 大阪経済大学理事)
色川 幸太郎 里井 達三良
里地 三平 柴谷 貞雄
下村 進 世良 鍊次
田岡 嘉寿彦 高室 一彦
田坂 茂忠 渡辺 達好
森 太郎
学識経験者
浅沼 玄恵 梅田 武文
喜田 義雄 北里 武三
倉辻 平次 黒羽 兵治郎
鈴木 正里 玉置 保
藤原 光治郎 植田 理
杉本文男 三木 清美
渡辺 一男 川勝 伝

記念式典実行委員会 委員名簿

- 黒正 光 佐治 敬三
鈴木 権平氏 西池 成輝
森下 泰
学内理事 成瀬 洋 内田 三良
*玉岡 浩
学内次長 石井 敏雄 井手口 茂美
学内課長 香積 弘晟 桜井 弘志
*住井 謙 *田所 清市
中田 伊織 中谷 和一
鍋島 哲郎 *野村 正澄
細羽 由三 *山下 博三
米田 玉男
専任教員 泉谷 勝美 松村 文武
森川 滋
同窓会総務部 谷口 一郎 西本 集一
水納 敏也 比企 重
後援会 黒才 洋 筑波 亮治
*記念式典等実行委員会事務局
●第一回記念式典等実行委員会 開催
七月十五日(金)午後六時から新 阪急ホテルにおいて、標記委員会

人事

◆新任

昭和五十八年度、左記の方がたが新規採用、着任されました。今後のご活躍が期待されます。

- 経済学部教授 重 森 暁
財政学総論担当
教養部講師 田中 耕治
社会科教育法担当
経済学部講師 中尾 茂夫
国際経済論担当
事務職員 田中美也子
体育館事務室勤務
用務職員 宮垣 登
総務部庶務課勤務

◆理事長代理に

鈴木正里理事が就任
藤田理事長の病氣入院に伴う当面の措置として、昭和五十七年九月二十日から昭和五十八年三月三十一日まで、鈴木正里理事が理事長代理として就任された。

◆左記の方が退職されました。
永い間どうもご苦労さまでした。
特任教授 辻部 政太郎
特任教授 平 実
特任教授 梅田 武文

◆海外出張

特任教授 黒羽 兵治郎
教 授 鈴木 正里
体育館 吉川 晴美
用務職員 阪本 昇
用務職員 西 重則
昭和五十八年三月三十一日付
なお、鈴木正里先生は引き続き特任教授として、黒羽兵治郎先生は日本経済史研究所長として活躍しておられます。

◆玉井孝弘先生は療養のため、引き続き休職されています。

池野 重男 助教授
目的 英国海上保険発達史研究
行先 イギリス
期間 58・4・1～59・3・31

門田 俊夫 助教授
目的 エリザベス朝演劇の研究
行先 イギリス
期間 58・4・1～59・3・31

松原 和男 助教授
目的 景気変動の国際比較の史的
分析および各国の経済
動向の実証的研究
行先 イギリス・ヨーロッパ各

◆役職者一覧

昭和五十八年七月一日現在

- 学長兼 理事長代理 鈴木 亨
経済学部長 松村 幸一
経営学部長 竹林 祐吉
教養部長 西野 証治
大学院委員長 井上 清
教務部長 千葉 勇夫
入試部長 土井 乙平
学生部長 岡本 昌夫
就職部長 松尾 竹彦
図書館長 松本 剛
体育館長 浜田 幸策
広報部長 香川 一男
日本経済史 研究所所長 黒羽 兵治郎
産業経済 研究所所長 岡本 正
中小企業経営研究所 経営研究所所長 藤田 敬三
総務部長 玉岡 浩
経理部長 内田 三良



昭和五十八年度
入試結果

◆特技(スポーツ)推薦

十一月五日に実施された昭和五十八年度特技推薦入試の志願者・合格者等状況は左記のとおりです。

| | | |
|-------------|----|----|
| 合格者数 | 25 | 25 |
| 入学手続者数 | 25 | 23 |
| 二、依頼校別状況 | | |
| 経済学部 | 49 | 50 |
| 経営学部 | 50 | 23 |
| 志願者のあつた高校数 | | |
| 経済学部25(51%) | | |
| 経営学部23(46%) | | |

商業科対象

一、志願者・合格者等状況

| | | |
|--------|----|----|
| 志願者数 | 11 | 18 |
| 受験者数 | 11 | 18 |
| 合格者数 | 10 | 14 |
| 入学手続者数 | 10 | 14 |

※()は女子内数

◆昭和五十八年度入試結果

二月九日・十日、本学を中心に七地区十会場で実施された五十八年度入試の志願者・合格者等状況は左記のとおりです。

なお、第一部で当初の入学予定数が下回ったため、三月一日付で追加合格者を発表しました。

昭和五十八年度入試の志願者合計は三、九八人で、昨年と比べ二〇名増(〇・七%)であった。これを学部別にみると経済学部第一部で四・三%の減少、経営学部第一部で八・九%の増加となる。第二部は全体で二・%の減少となった。

◆普通科・商業科対象推薦

十二月五日に実施された推薦入試の志願者・合格者等状況は左記のとおりです。

普通科対象

一、志願者・合格者等状況

| | | |
|------|----|----|
| 志願者数 | 25 | 23 |
| 受験者数 | 25 | 23 |

【志願者・合格最低点等】

| 第1部 | 経済 | 経営 | 合計 |
|-------|-------|-------|--------|
| 志願者数 | 6,047 | 6,580 | 12,627 |
| | (43) | (56) | (99) |
| 受験者数 | 5,927 | 6,447 | 12,374 |
| | (42) | (50) | (92) |
| 合格者数 | 1,571 | 1,760 | 3,331 |
| | (15) | (16) | (31) |
| 当初 | 1,497 | 1,628 | 3,125 |
| 追加 | 74 | 132 | 206 |
| 倍率 | 3.8 | 3.7 | — |
| 合格最低点 | 250 | 285 | — |

| 第2部 | 経済学部 | 経営学部 | 合計 |
|-------|------|------|-------|
| 志願者数 | 606 | 715 | 1,321 |
| | (3) | (7) | (10) |
| 受験者数 | 590 | 690 | 1,280 |
| | (3) | (6) | (9) |
| 合格者数 | 219 | 230 | 449 |
| | (3) | (4) | (7) |
| 倍率 | 2.7 | 3.0 | — |
| 合格最低点 | 183 | 213 | — |

※()は女子内数

昭和五十九年度
推薦入学
募集要項

◆普通科対象 — 抜粋 —
一、募集学部・学科・人員

中島春雄硬式野球部
総監督に感謝状

本学、硬式野球部の監督として、永年にわたり同部の指導・育成にあたられている中島春雄氏(2)に、昭和五十八年四月二十五日特別会議室において、関係者出席のもと



学長より感謝状と記念品が贈られました。

同氏は、昭和三十三年監督に就任して以来、昭和五十四年から総監督として、長期間にわたり同部を率い、本学課外活動の発展に寄与され多大の功績を残されました。

特に、昭和五十五年関西六大学野球秋季リーグ戦においては、初昇格・初優勝という前代未聞の輝かしい栄冠をかちとり、本学および同氏の永年の夢に、実を結ぶ偉業を達成されました。

さらに同氏は、学生スポーツを通じて、技術の練磨のみならず、厳しい指導の中から、忍耐力、協調性、規律等の心の鍛練を重視し、社会に出てからも役立つ人間作りに貢献されております。

二、出願資格
(一)昭和五十九年三月に高等学校普通科卒業見込みの者。
(二)本学当該学部を第一志望とする者。
(三)向学心に燃え、かつ人物優秀で健康な者。

学術講演・懇談会

〔日時・場所〕
六月七日(火) 一〇:三〇—
学術講演(D36教室)
『中国経済の現状と課題』と題して講演が教職員・一般学生を対象に行われました。

一三・〇〇一 学術懇談会
(特別会議室)

テーマ 『中国における日本経済研究の動向ほか』
〔講師〕
鄭勵志氏 復旦大学(上海)世界経済研究所日本経済研究室主任 日本経済論専攻
会場のD36教室はほぼ満席。同氏の流暢な日本語での話に聞き入る学生、熱心にメモをとる者など、有意義な講演でした。
午後から、学長と共に昼食、談笑された後、教職員との懇談会、図書館・研究所を見学され、今後、復旦大学と本学との資料交換など継続的な交流を約束されました。



してスポーツを行い、その成績が顕著であり、スポーツマシニップに富んだ心身ともに強健な者で、入学後当該課外活動を引き続き行う意志強固な者。

(四)高等学校三年一学期までの学習成績概評がC段階以上の者。

一〇〇名

二、試験日
経済学部 二月九日(木)
経営学部 二月十日(金)

三、試験地
大阪(本学他) 金沢 名古屋 姫路 広島 高松 福岡

四、試験科目
外国語 英語B
国語 現代国語 古典I乙
選択 政治・経済 日本史(二科目)
世界史 地理(A・B共通) 簿記会計I・II

五、合格発表
五十九年二月十九日(日)

六、出願手続等
(一)出願期間 五十九年一月十三日(金)〜二十七日(金)

(二)検定料 二〇、〇〇〇円
必要項代金 七〇〇円
(十一月月上旬発行予定)

離脱宣言に始まり、それに加えて次々報道される大手企業の採用抑制計画や、広く社会的な問題となつた定年延長による人事操作、行政改革の提唱に反応する公社・公団・公務員の採用圧縮等、何ひとつ明る材料がなかったが、全く予期していなかった事態がこの厳しい状態を緩和したのである。

それは、例年大手企業に先行さ

れて予定の採用計画を充足し得なかつた中堅、中小企業が逸早くその実情を察知し、加えてこの際優秀な人材を確保しようと、出血覚悟とも思われるような積極的な求人活動を開始したからである。結果として求人数は前年度を上回る五、〇〇〇社におよんだ。しかし、構造不況と言われる今日の時代の影響は免れなかつたから、各人が

三、選考方法
(一)書類選考(二)小論文(三)面接
四、出願手続
(一)出願期間 五十八年十月二十日(月)〜二十八日(金)

(二)選考料 二〇、〇〇〇円

五、選考期日
五十八年十一月八日(火)

六、合格発表
五十八年十一月十五日(火)

七、推薦依頼校
新潟県・長野県および静岡県以西の各府県の全日制高等学校

◇昭和五十九年度入学試験概要
一、募集学部・学科・定員
経済学部 第一部 経済学科 四〇〇名
経営学部 第一部 経営学科 四〇〇名
経済学部 第二部 経済学科 一〇〇名
経営学部 第二部 経営学科 一〇〇名

◇昭和五十七年度
就職状況をふり返って
依然として続く景気停滞現象の渦中で、就職戦線もまた、当初厳しいものに見受けられた。ことに就職協定の監視役である労働省の

就職関係

| 業種別就職決定者状況 | | | | 学部別就職決定者状況 | | | | 地域別就職状況 | |
|------------|-------|-----|------------|------------|------|-------|-----|---------|--|
| 業種 | 1部 | 2部 | 合計(%) | 経済 | 経営 | 合計 | 人数 | (%) | |
| 商 | 363 | 35 | 398(27.4) | 665 | 741 | 1,406 | 708 | (48.7) | |
| 製 | 325 | 39 | 364(25.1) | 616 | 702 | 1,318 | 336 | (23.1) | |
| 小 | 154 | 20 | 174(12.0) | 613 | 692 | 1,305 | 185 | (12.7) | |
| 金 | 154 | 10 | 164(11.3) | 99.5 | 98.6 | 98.7 | 78 | (5.4) | |
| サ | 113 | 12 | 125(8.6) | 97 | 109 | 206 | 56 | (3.9) | |
| 公 | 68 | 13 | 81(5.6) | 97.1 | 98.7 | 98.0 | 32 | (2.2) | |
| 建 | 30 | 2 | 32(2.2) | 97 | 82 | 151 | 38 | (2.6) | |
| 運 | 24 | 2 | 26(1.8) | 67 | 81 | 148 | 12 | (0.8) | |
| マ | 22 | 2 | 24(1.7) | 97.1 | 98.7 | 98.0 | 38 | (2.6) | |
| 公 | 11 | 0 | 11(0.8) | 97.1 | 98.7 | 98.0 | 12 | (0.8) | |
| 社 | 5 | 0 | 5(0.3) | 97.1 | 98.7 | 98.0 | 5 | (0.3) | |
| の | 36 | 13 | 49(3.2) | 97.1 | 98.7 | 98.0 | 2 | (0.1) | |
| 合 | 1,305 | 148 | 1,453(100) | 97.1 | 98.7 | 98.0 | 1 | (0.1) | |

希望通りの就職が出来たかどうか今ひとつの感が残る。

なお、五十七年度就職状況最終集計は前頁のとおり。

◇就職特別講演会・就職講座開催
特別講演会(下記)・講座が開催された。就職活動を間近にした熱心な学生で会場は超満員。就職事情、就職活動の進め方や企業の選び方など、有意義な講演でした。



長尾 晃 氏

就職講座概要

自己表現の巧拙は企業戦力の盛衰を左右するともいわれ、近年特に面接重視の企業が増えているおりから、自己表現・話し方(話術)指導のため第一回講座を開催した。六月十六日講師に本学第八回卒、長尾経営研究所々長(元ドッドウエルエンドカンパニー・リミテッド人事部長)長尾晃氏を迎え、「面接の心構え―話し方・聞き方・応

最近の就職事情について

昭和五十八年七月一日(金)

鈴木権平氏

京阪電気鉄道(株)副社長(本学五回卒)

最近大阪の方で話題になっておりますことで、皆さんの就職対策として若干知っておかれた方がいいのではないかと、こういうことについて少し申し上げまして、後に就職のことをお話ししたいと思っております。

この大阪の経済といいますが、大阪商人が、お分りのように、明治維新ごろですと、日本の経済を牛耳っておりました。その大阪が最近地盤沈下ということですが、勿論経済地盤ということですが、いろいろと言われております。大きな商社・銀行それから証券会社、そういうものが全部東京の方へ本拠を移したとい

うのが昨今の実体でそれが主な沈下の原因であろうと思えます。また、最近いわれるような情報化社会というものはどうしても東京に本拠を持っておらないと、この厳しい経済競争に立ち打ちできないといわれております。

そういうことで、大阪はどんどん地盤沈下している訳でございます。

そこで、その対策の一つとして浮かび上がってきましたのが、関西国際新空港であり、関西学術研究都市でございます。これは近畿七府県が一緒になってやろうとしていることで、関西の地盤を盛り上げるための当面の

仕事としていらっしゃる訳でございます。この事業が景気を刺激して就職問題も好転するのではないかと期待が寄せられます。

その就職のことですが、どこでもやはり立派な人を採用したいというのは当然のことでございます。会社が希望する人物ということになりまして、先ず身体が頑健な人ということになります。それと、何をやるにしてもファイトがなくてはなりません。ファイトは面接をすればすぐわかります。自信を持ってハキハキと返事をし、キチンとした服装でスキツとした格好の諸君は期待できるタイプであります。とりとめのないことを申し上げましたが、これで終らせていただきます。(拍手)

(紙面の都合により抜粋させていただきます。)

じ方」と題して約三時間講演と活発な質疑応答があり、七百名余の出席学生に大きな感銘を与えた。

話すということは言葉づかいや、口先や立板に水のことでない。

話し方とは表現を改めれば「放し方」と書けるように使う言葉、

態度行動、表情や話題、つまり自分のすべてを使って相手方に開放する知情意の伝達である……などの説明には学生達も大いにうなずいていた。それら実践の手段としては日常生活で自分の話し方に注意をしてゆけば知らぬ間に上達す

第二回就職講座は六月二十九日に実施した。講師には第十二回卒



小林靖和 氏

で二昨年も招聘した、小林経済研究所所々長小林靖和氏を迎え「危い会社の見分け方」と題して、企業研究の基礎問題を重点として講演して頂いた。講演は営業報告書の分析の仕方を中心とした会社の経営診断の方法等について実例をあげ図示しながらわかり易く説明を受けた。更に自分の一生を託す会社であるので良く見極めた上、自分に合った会社、給料よりやりがいのある会社を選べ、面接では経大生と云うことに誇りをもって臨め等、中広い話題とバイタリティ溢れる講演にメモを取る学生の顔も真剣そのものであった。

岡山県企業懇談会

七月九日(土) 岡山国際ホテルにおいて岡山支部のご協力をうけ、企業六十数社が出席、最近の求人・求職状況等交換、意義ある一日を過ごしました。

所書店 82年5月 346ページ
「学校教育の原点」 啓文社
57年11月 267ページ
山本恒人他著
「中国工業化の歴史―近現代工業発展の歴史と現実―」 法律文化社
57年11月 284ページ
渡辺 泉著
「損益計算史論」 森山書店
58年3月 255ページ(大阪経済大学研究叢書第10冊)
◇学内刊行物
日本経済史研究所編
「経済史文献解題」昭和57年版
清文堂出版 57年12月 535ページ
「大阪経済大学会社史総合目録」
58年3月 B5版 163ページ
「大阪経済大学経済団体史総合目録」58年3月 B5版 136ページ
本学では、かねてより会社史・経済団体史の収集を積極的に行ってきたが、一九八二年十一月末現在、図書館、日本経済史研究

国庫助成

◇昭和五十六年度
私立大学等経常費補助金について
昭和五十六年十二月四日付で申請していただきました標記の件について、昭和五十七年八月二十六日付で交付確定通知がありました。
〔確定額〕 四百三十五、〇〇〇円
(前年度比四六・六%増)

◇昭和五十七年度私立大学研究設備整備費等補助金額の確定について
標記の件について、昭和五十八年二月二十八日付で確定額(一、六〇〇、〇〇〇円)の通知がありました。

新刊紹介

◇新刊紹介
渋谷寿夫著
「科学と歴史―科学と科学史のための汎論―」 法律文化社
82年4月 152ページ
鈴木 亨著
「響存の世界」 三一書房
58年1月 348ページ
田中健一著
「機会均等の教育原理」改訂新版

本学で開催された学会

マルクス没後一〇〇年
記念シンポジウム
日時 五十八年三月一四日(月)
場所 第二会議室

特別講演 林直道氏(大阪市立大学)「マルクス経済学と現状」
報告 森岡孝二氏(関西大学)

16、19回同窓生寄贈で植樹しました

九月十九日、山中荘において16回、19回(大阪経専卒(大経大卒)の有志同窓会が開催された折、キャンパスに花の咲く樹を植えて、大学に花を咲かそう。同時に自分たちにも人生の花を咲かせようとの申し合わせで、一〇〇余人の熱い願いをこめて、このたび大学へ樹木が寄贈されました。



関連記事76頁に掲載

昭和三十八年度履修登録・学業成績管理の電算化実現に向けて教務システム開発中!

これまで教務課では、年度初めの履修登録の受付から、期末試験の転記による成績台帳作成や各種成績統計作成まで、いわゆる履修・成績管理を、手書き大海戦術で繰り返してきました。
この履修・成績管理は、大学教育の根幹を支える教務課の中心業務であり、七、〇〇〇余人の履修・成績の転記作業は、常に正確かつ迅速を求められ、課員の精神的肉体的疲労度は、かなり大きいものがありました。(ちなみに、学生

大阪府立文化情報センターに本学出版物展示



この度、朝日新聞本社西隣にある標記センター(住友中之島ビル5F)の各大学展示棚に、本学も資料ボックスを常設し、「大阪経大論集」「中小企業季報」「手引シリーズ」などを展示しています。

- 「労働日の短縮と人間の発達」 上原一慶氏(京都大学)「現代社会主義を考える」 司 会 上島武氏(本学)
このシンポジウムはマルクス没後一〇〇周年を記念して、経済理論学会関西部会が主催(大阪経大学会後援)したものです。
◇五十七年
経済理論学会(関西) 四・三
- 日本商業学会(関西) 六・二九
日本リスコムマネジメント学会 九・三五〇
日本学術振興会中小企業・産業構造第一一八委員会 一〇・八九九
金融学会(関西) 一〇・二六
阪神ドイツ文学会 二・二三
◇五十八年
日本中小企業学会西部部会 三・二四
日本商業学会(関西) 六・二八
経済地理学会(関西) 六・三五

公開講座

21世紀に向けて翔ぶ中小企業 共催 大阪経済大学
大阪府立文化情報センター
中小企業をとりまく環境は、いつの時代も厳しい。
このような状況にもかかわらず、



マルクス没後100年記念シンポジウム

個々の中小企業が存続してきているのには、それなりの経営努力が払われてきたからであろう。だが、一般的には、消極的、自己防衛的であったといえないであらうか。目まぐるしく変化する国際情勢と技術革新の時代に向けて、積極的に、中小企業がもっと積極的に、攻撃的に独自のエネルギーを蓄積し、燃焼させていかなければならない。

その意味で、今回は主に経営合理化、国際化、技術革新、共同化、組織化に焦点を当てて問題点を前向きにとらえ、なるべく平易に、そして具体的に解決の方向をさぐってゆきたい。

なお、今回の催しは、大阪経済大学が今後も継続的に企画している公開講座の第一回として開かれるものである。

経営学部長 竹林祐吉

■会場 大阪府立文化情報センター(住友中之島ビル五階)・地下鉄四ツ橋線「肥後橋」駅下車徒歩二分又は御堂筋線「淀屋橋」駅下車徒歩八分 ■申込方法 往復はがきに住所・氏名・年令を記入のうえ左記まで ■申込先 大阪府立文化情報センター 〒530 大阪府北区中之島三丁二六番(西)二〇〇

| 開催スケジュール | テーマ | 講師 |
|-----------------|---------------------------------------|---------------------|
| (第1回) 11月7日(月) | 中小工業にとっていま「経営革新」とは何か(その経営体質と経営技術の問題) | 大阪経済大学経営学部教授 高城 寛 |
| (第2回) 11月14日(月) | 先端技術は中小企業に生かしようか(先端技術の導入状況と今後の課題) | 大阪経済大学講師 山本 順一 |
| (第3回) 11月21日(月) | 中小商業の共同化・組織化は何故必要か(ポランクリー・チェーンを中心として) | 大阪経済大学経営学部教授 竹林 祐吉 |
| (第4回) 11月28日(月) | 中小卸売商業の活性化(地域別・業種別・企業体質別分析の対策) | 大阪経済大学講師 竹林 庄太郎 |
| (第5回) 12月5日(月) | 中小企業の貿易促進と為替戦略(フロート制への対応と収益の確保) | 大阪経済大学経営学部助教授 香川 尚道 |

■申込受付 昭和五十八年十月五日から先着順 ■定員 一五〇名

■阪上勤ノ介評議員 逝去



本学法人評議員阪上勤ノ介氏は、去る四月十八日、会社で執務中、心筋梗塞のため急逝されました。享年五十八歳。

阪上氏は大阪市出身。昭和二十年九月、昭和高等商業学校を卒業のち、大阪商科大学に入学、昭和二十四年三月同大学を卒業。約十年間の石油会社経営を経て、家業の家具卸商である株式会社阪上商店を受け継ぎ、その経営にあたるかたわら、大阪府家具卸商協同組合副理事長として活躍。その他多くの関係団体役員を兼ねられ、本学法人の評議員に選任されたのは、昭和五十四年五月。

葬儀は四月二十日、(株)阪上商店の社葬として大阪西区の和光殿においてしめやかに営まれました。喪主は長男雄一郎氏。

謹んで故人のご冥福をお祈りいたします。

坐 花 西尾 發身(12)

追悼文の連絡を頂戴した時、一瞬躊躇った。

ともすれば、悲しい記憶から逃れたいと希っていることと裏腹に、消すことの出来ない文字を残す破目になるとは、ついで思わなかつた。

昭和五十六年三月七日、大佛さんと、鹿の印象しかない君を奈良東大寺に誘った。たまたま年に一度、籠りの僧により内々陣から内

陣へ小観音出座の日である。お水取りで広く知られている二月堂も、その日は、一段と底冷えの加わり始めた夕刻から、すでに大勢の人々が詰めかけていた。練行衆の一人が目の前で五体投地をする。その響きが堂内に鋭くひろがる様は、千二百余年の昔を今だに伝えている。燈明の炎が妖しく揺れている。それにつれて、祭壇の供花も、練行僧手作りの紙の花椿だが、明暗をくつきりと分けている。一コマも見落すまいと、正座したままの君は、一所懸命に背すじを伸ばしていた。あの真剣な姿が、今も臉に刻み込まれている。その君が、三月末に、あれ以来、入会していた東大寺の唯心会を止めたいと洩した。そして、四月十八日、突然旅立った。

告別式当日、東大寺からの弔電を耳にした時、二月堂での過ぎ去った日のことが甦って来た。数日して、東大寺から過去帳に永代供養の為、記載するとの通知があった。

君は東大寺から最早去ることが出来ない。東大寺が存在する限り、永久に供養される。竹馬の友、今、花に坐す。心より冥福を祈る。

合 掌



創立五十周年記念

世代別イメージ調査

母校・同窓会について

OB 500人に聞く

はじめに

このたび同窓会では、母校の創立五十周年を記念して、各地各方面でご活躍中の、四万余名の同窓生との関係をより深めるため、「同窓生アンケート」を実施しました。

このアンケートは、『会員名簿』から各回二〇名を無作為に抽出し、一回生から四十八回生まで、合計九六〇名の方をお願いしました。

その実施状況は別表のとおりですが、結果的には、六〇代から二〇代までの、各世代一〇〇人、計五〇〇名の方々のご意見をまとめたものとなりました。各設問とその集計結果の図表を掲載しました。ご参照下さい。

アンケート実施状況

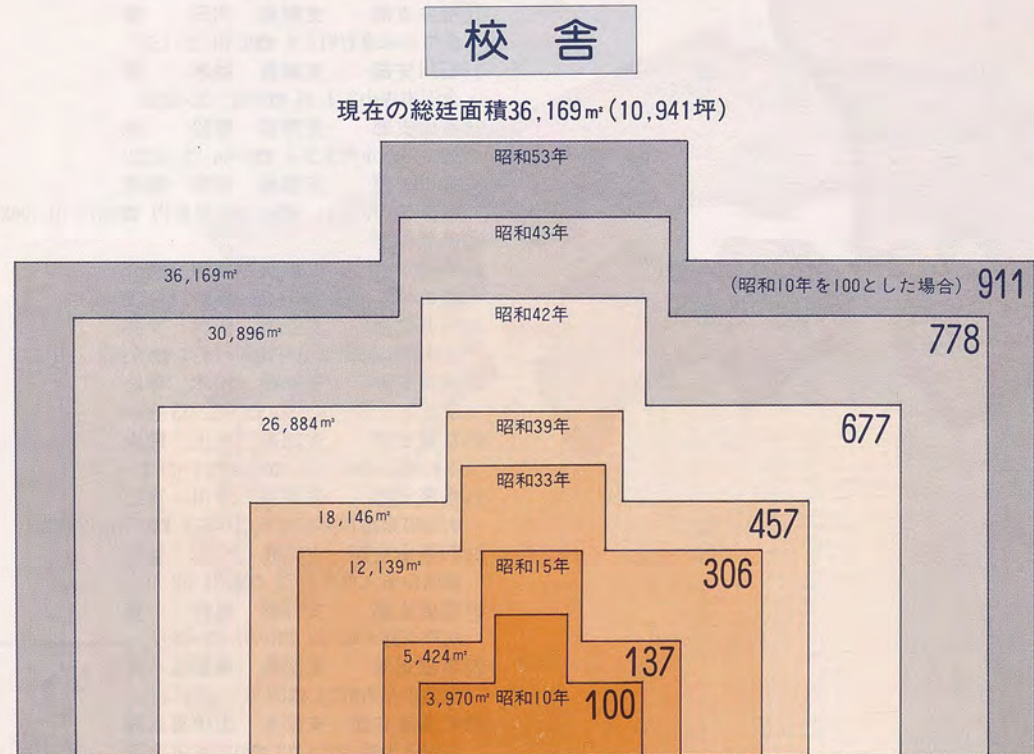
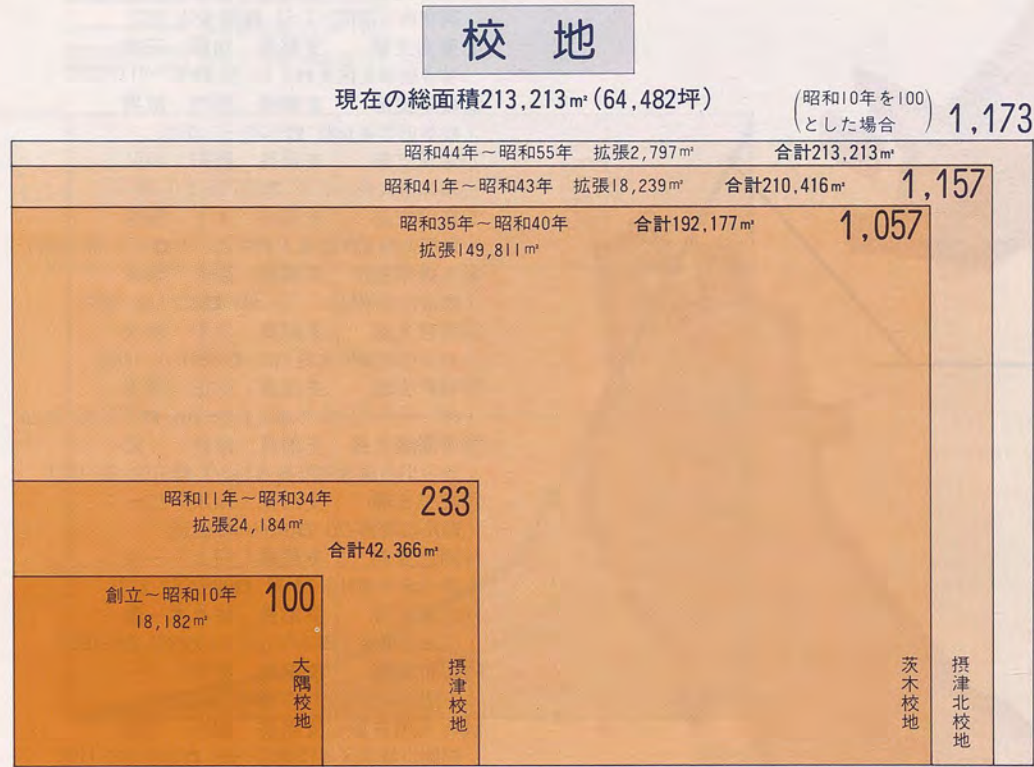
実施対象者と回収状況

| 卒業回数 | 対象者 | 回収者 | 回収率 | 世代分類 |
|--------|-------|-------|--------|-------------|
| 1~9回 | 180 人 | 112 人 | 62.2 % | 第一世代 (60歳代) |
| 10~19回 | 200 | 99 | 49.5 | 第二世代 (50歳代) |
| 20~29回 | 200 | 96 | 48.0 | 第三世代 (40歳代) |
| 30~39回 | 200 | 99 | 49.5 | 第四世代 (30歳代) |
| 40~48回 | 180 | 78 | 43.3 | 第五世代 (20歳代) |
| 計 | 960 | 484 | 50.5 | |

[実施年月日] 昭和58年3月15日発送、3月31日回収締切(期限付)

[実施方法] 郵送(往復)

校地・校舎面積の推移



グラフに見る母校の50年

解説

趣旨と結果

それでは、五つの世代の意識を対比させながら、設問の意図と集計結果の概要を説明します。まず、設問一から五までは、六以降の設問で得られた結果を、より正確に解釈し、また後日の、クロス集計を可能にしてくれるものです。

回答者の属性

まず最初に、卒業時の校名(問一)と、卒業年(問二)を聞いたのは、旧制と新制の割合と、世代の分布を知りたいためです。結果は、新制が約六割で、世代のバランスもとれたアンケートとなっています。ただし各年代の卒業生数との対応はできていません。ゼミナール(問二)や、クラブ所属(問二)の有無は、ともに母校への帰属観の強さや、学生生活の積極さとの関連性を見るためです。しかし、第一・二世代では記憶が薄れたためなのか、不明分がかなり占めています。第三世代以降は、ゼミ所属者が九三%まで増加傾向を示し、クラブでは第五世代において、無所属の方が多いという逆転現象がみられます。

私と母校

次に、在学時代の充実度(問六)と、経済系の大学で学んだ結果としての実社会での貢献度を聞く設問(問七)は、回答者に学生時代を思い起こしてもらい、かつ、同窓会に対する帰属意識の形成には、在学時代の充実度職業(問五)では、回答者の職業分布と世代によるその変化をみるため、第四・五世代において、公務員・小売業・卸売業・サービス業が中心となり、製造・金融業に従事している人の減少傾向がうかがえます。これは、日本の産業構造の変化に順応しているとも解釈できそうです。

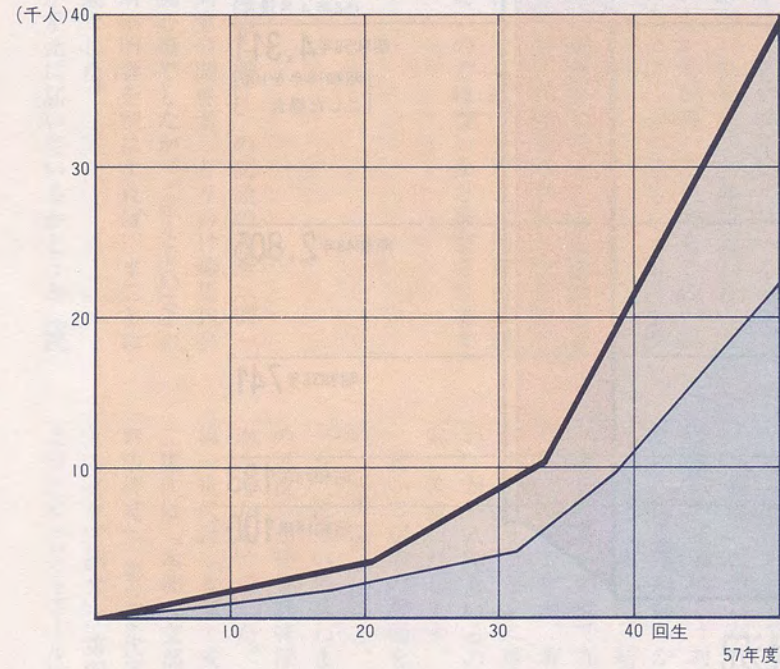
出身地(問三)では母校の「市場性」、すなわち、全国からどれだけ生徒・学生が集まっているのかがわかります。一方、現住所(問四)では、同窓生の活躍の場の広がりをとらえようとしました。両方ともに共通している結果は、全国性を失い、地方性が強まっている点です。若い第四・五世代では、京阪神地方に固まり、地方では母校の知名度が低下し、各地の新興大学にその地盤を奪われている感じを受けました(東海・京都・九州・中国地方)。なお、同窓生の全国分布状況はグラビアを参照して下さい。

卒業後の母校訪問の有無(問八)や、訪問時の具体的理由(問九)では、母校への帰属意識が、具体的に行動としてどのように現われているかをみようとしたものです。結果は、一度でも母校を訪れた人が七五%と以外に多いものの、第四・五世代では、全然訪問したことがないという人が四〇%にもなっています。これは若い同窓生が母校と徐々に疎遠になりつつあるということなのでしょう。また、母校訪問の具体的理由を、第一・二世代の五割以上の人が「なつかしくなって」「同窓会関係」をあげているのに対し、第四・五世代では、「クラブ関係」「証明書を受けに」等、大学よりクラブ関係、個別グループの人に会う理由をあげ、その率が高まっています。これは、若者の気質の変化に加えて、大学が学生に共通の理念を与えにくくなり、グループ次元でのみ再生産をしていることの反映だとみることができそうです。

大きくかわっていると考えると、その感想を尋ねてみたわけです。集計の結果、若い世代ほど充実度が低下し、相対的に不満度が増加しています。このことは、むしろ前向きに学生生活を考えるようになった結果と解釈してよいのか、否定的にマスプロ教育等の不満を表明したのかよくわかりませんが、いずれにせよ満足のように学生生活が送れなかったことだけは確かのように受けとられました。実社会での貢献度でも、役立っていると答えた人は全体で八〇%ですが、時代が下るにつれ減少しています。

地域別同窓生分布図

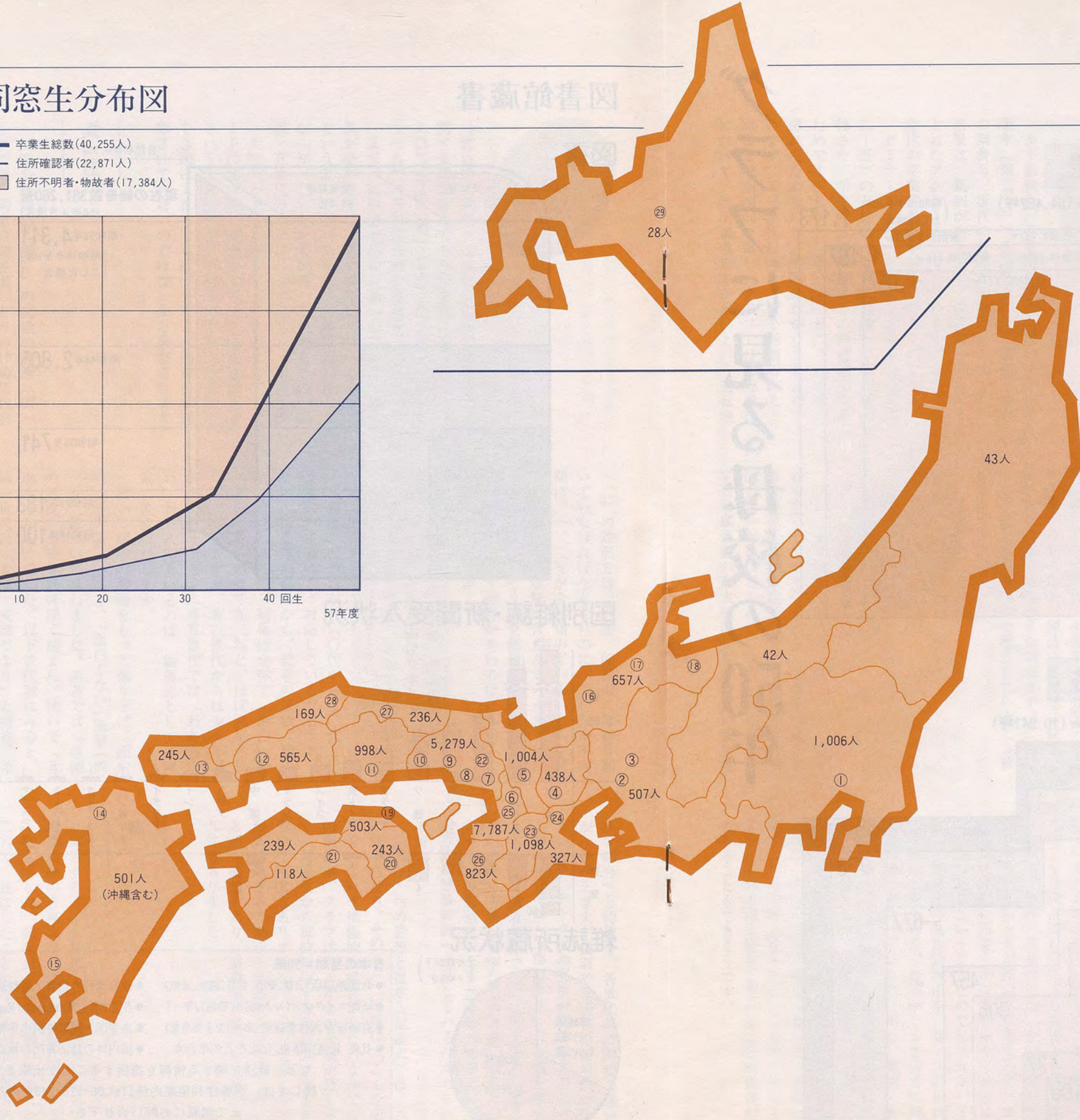
— 卒業生総数(40,255人)
— 住所確認者(22,871人)
 住所不明者・物故者(17,384人)



書庫前書図

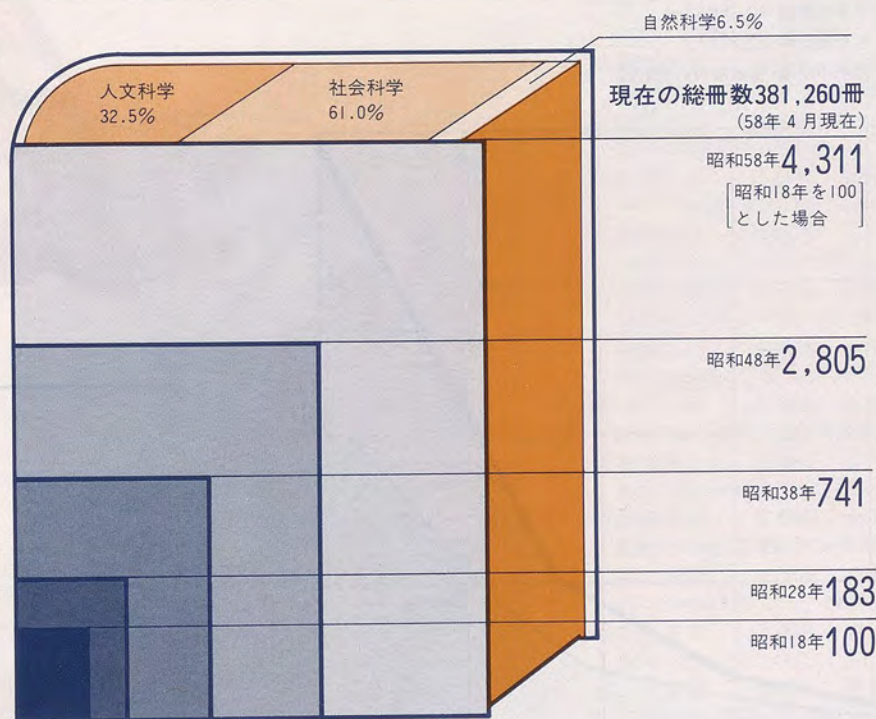
同窓会支部役員

- ①東京支部 支部長 鮫島 圭
- ②東海支部 支部長 加藤 正秋
- ③岐阜支部 支部長 坪内 敏男
- ④滋賀支部 支部長 野田 邦弘
- ⑤京都支部 支部長 木下 隆徳
- ⑥大阪市役所 支部長 金子 昭典
- ⑦西宮支部 支部長 八木 米次
- ⑧神戸支部 支部長 町田 達治
- ⑨東播磨支部 支部長 永井 宏
- ⑩姫路支部 支部長 永川 仁一
- ⑪岡山支部 支部長 村上 一夫
- ⑫広島支部 支部長 佐々木一義
- ⑬山口支部 支部長 串田 一
- ⑭北九州支部 支部長 嶋原 正孝
- ⑮南九州支部 支部長 宮田順一郎
- ⑯福井支部 支部長 内田 甫
- ⑰石川支部 支部長 袖木 繁
- ⑱富山支部 支部長 重松 尚
- ⑲香川支部 支部長 和田 憲明
- ⑳徳島支部 支部長 横田 憲介
- ㉑高知支部 支部長 梶村 文弥
- ㉒丹有支部 支部長 梶村 文弥
- ㉓奈良支部 支部長 松本 孝之
- ㉔三重支部 支部長 水上 敏夫
- ㉕泉南支部 支部長 中川 克己
- ㉖和歌山支部 支部長 松本 旬弘
- ㉗鳥取支部 支部長 亀井 寛
- ㉘島根支部 支部長 渡部弘一郎
- ㉙北海道支部 支部長 田中喜三郎

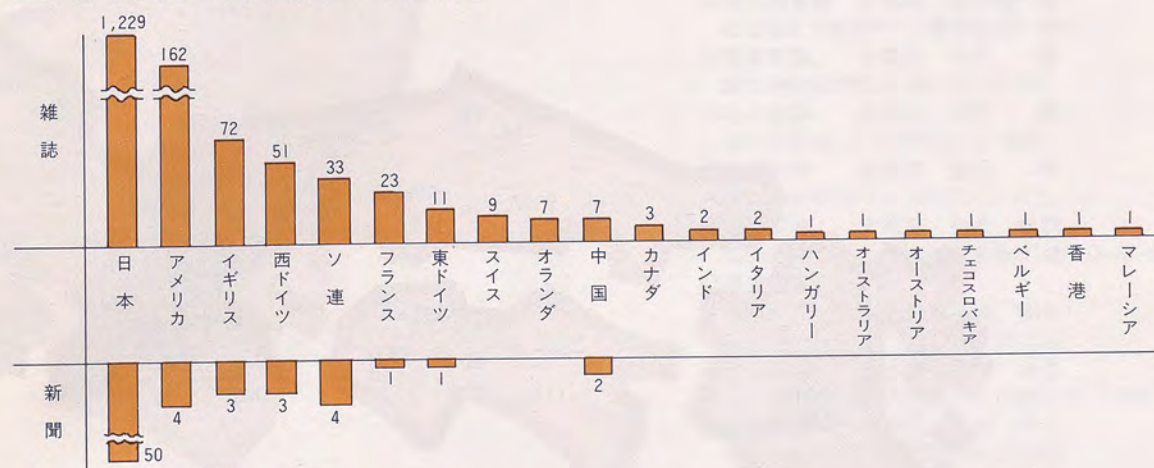


図書館蔵書

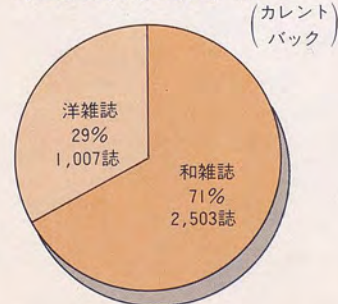
図書



国別雑誌・新聞受入状況



雑誌所蔵状況



日本の新聞=50紙

- 新聞縮刷版(日経、朝日、毎日、読売、赤旗)
 - 新聞マイクロフィルム(朝日、明治12年~)
 - 有価証券報告書総覧(第1・2部上場企業)
 - 社史、経済団体史、伝記などの単行本
 - 政府刊行の白書・各種統計書
 - 各国主要企業のAnnual Report及びMoody's
 - 主要国・国際機関の年報、統計書
 - 国内外の経済専門の雑誌・新聞
- など、経済に関する情報を提供することが出来ます。
詳しくは、図書館利用案内係(TEL06-328-2431・内285)まで気軽にお問い合わせ下さい。

私と同窓会

次いで、設問一〇から二〇までは同窓会に関する意識調査であり、全般(問一〇、一九、二〇)、澁江(問二一、二五)、総会(問二六、二八)の三つに大別できます。

まず、同窓会の認知(問一〇)とは、構成員が会の存在を、どの程度知っているのか、という意味です。結果は、全体で九八%の人が「知っていた」と回答しているものの、第四・五世代のなかに、三・四%も「知らなかった」人があるという事実です。このアンケートに協力的な同窓生でさえこの比率であるということは、住所不明の同窓生(約四割)を念頭に入れるならば、まだまだ同窓会が認知されていないのではないかと推察されます。

澁江

同窓会機関誌『澁江』の閲読の有無(問一)では、同窓会関係者、とりわけ編集担当者(約七割)は住所不明者でしたが、「読んでいる」の九七%は住所不明者を別にすれば、まことに喜ばしい結果でした。

『澁江』が手元に届いているかどうか(問

二二)の設問では、当然、回答者には毎号届いていなければならないのに、二一%が不定期に、一、二%が全然届いていないという結果で、いささか理解に苦しんでいます。若い世代ほど不定期なり、全然届いていないとか、わからないという回答が多いのはどういふことなのでしょう。

事務局では『会員名簿』の追跡調査を行っており、住所が確認できた方へは必ず送付しています。転居の際にはぜひ住所をお知らせ下さい。

『澁江』の内容が、六〇代から二〇代という幅広い読者にどう対応しているだろうか、という編集部からの疑問から、記事の評価(問一三)を尋ねました。結果は全体で「面白い」「普通」を合わせて九二%と、ほぼ満足されているようですが、若い世代からは少々不満が出ており、とくに第五世代では「わからない」が一八%もいるのは、編集部としては対応に苦慮いたします。

続いて記事の評価をもっと掘り下げ、「面白い」記事(問一四)と、「面白くない」記事(問一五)について尋ねました。前者では「学園の近況」が一番興味深く読まれ、次いで「北から南から」でした。以下世代別にみると、第一世代は「本部・支部だより」と特集。第二世代は「本部・支部だより」と「同窓生のお店拝見」。第三世代は「本部・支部だより」と「クラブ紹介」。第四世代は「本部・支部だより」と「ゼミナール短信」。第五世代は「ク

ラブ紹介」と特集と、各世代毎に関心の違いがうかがえます。後者では回答の絶対数が少ないので、データの解釈が困難ですが、「ゼミ短信」「本部・支部だより」に不満が集まり、とくに第五世代では、「ゼミ短信」「クラブ紹介」に不満が集中しています。これはゼミナールの形骸化、クラブ参加の低率化が、『澁江』の記事評価へ連動しているのかもしれない。

『澁江』への感想と提案(記述式)は、六二件いただき、そのうち二四件は、「こんな記事」という積極的な提言でした。なかでも回顧記事、クラブ活動の記事の希望が最も多く、同窓生から母校に対する提言コーナーを、という注文もありました。一方、堅苦しい、形式的過ぎる、文章・記述表現がよぼよぼ、という感想もあり、激励と好意的な感想が二九件もありました。

総会

同窓会のメイン行事としての総会について、出席経験の有無(問一六)を、世代別にみようとしました。結果は、出席経験のある人が二六%、逆にしたことのない人が七三%もありました。一番出席率が高いのは、第一・三世代で三〇%を越え、第四世代ではその半分の一四%。第五世代にいたっては五%で、とくに第四・五世代では九〇%も出席したこと

のない人がいました。年代による総会への関心度が明確に現われているといえます。

次に、その総会へ出席した人達の、その印象(問一七)では、「よかった」が二五%、「普通」が五八%強で、まあまあという結果でした。一方、「面白くなかった」「わからない」と答えた人は一八名(二四%)でした。

また、総会欠席者にその理由(問一八)を尋ね、総会をどう思っているのかをみようとなりました。結果は、全体の七〇%が「出席したいが出られない」と回答し、若くなるにつれてその比率は低下しています(第五世代では五一%)。一方、「出席したくない」「わからない」等、消極的な回答が二七%強で、ここでもこの比率は、若くなるにつれて高くなり、第五世代では四九%にもなっています。

同窓会全般

同窓会の活動全般に対する評価(問一九)では、全体の三六%が満足を示していますが、若い世代になるほど満足度が低下しています(第五世代では一五%強)。しかし、不満を示した人は極めて少なく、「わからない」という非主体的不満を示す人が六〇%と多く、とくに若い世代になるほどこの傾向が強くなっていきます(第五世代では七三%)。

では次に、前の評価で不満と答えた方に、その具体的な理由(問二〇)を聞きますと、

文章・記述方法を世代別にみますと、第一・二世代はいいねいな表現が多く抽象的で、第三・四世代では内容・表現ともに充実したものが多く、第五世代はイメージの貧困さ、感覚的提言の多さが目につきました。いずれにしても、同窓生の母校に向ける眼差しは「本当に熱い」と感じました。

同窓会への感想・提言

同窓会についての感想・提言(記述式)(問二四)も、多くの方が記入して下さいました。おおむね同窓会への謝辞や、事務連絡的な事柄、そして近況報告等が感想として述べられていました。提言については、一般的な活動を期待するという意見が一番多く、具体的には、支部活動をもっと活発にという要望が多く、また、機関誌としての『澱江』については、その期待も強く、記事の提案も多く、熱心な意見が寄せられました。

「活動の内容がわからない」が三六%、「本部の連絡が悪い」が三〇%と、他の理由を圧倒しています。「もともと興味がわかない」「若者のセンスにあわない」「何となく」といった理由で不満を示した人は、あわせて一九%でした。

母校の現状

「同窓生アンケート」で、母校の現状に対する同窓生の評価(問二一)を尋ねるのは、筋違いの感がありません。しかし、同窓生が母校の現状に、並々ならぬ関心を寄せるのは当然の理といえます。したがって、同窓生が母校の大学に対して、いかなる思いで見つめているかを聞きました。結果は、全体の二六%が現状に満足しており、第一世代が四七%と高いものの、世代が若くなるにつれ次第に低下しています(第二・三世代が二五%、第四・五世代では一三%)。なお、「不満」と答えた人は、「満足」回答を上回り三八%弱となっています。しかも若い世代ほどその比率が高まっています。こうした数値は大学の現状に対して、同窓生の大半が叱咤激励の意味をこめて、不満の意をあらわしていると解すべきでしょう。

次に、母校の現状に対する不満の理由(問二二)では、「発展性がない(単科大学のまま

であるを含む)」が、回答総数の三八、五%を占め、次いで「社会的評価の低下」「PRがうまくいっていない」が、各々二四%あります。こうした理由は、大学に対する社会的評価の基準が変化したことも考えられますが、第一義的には、内的努力の欠如からきていると、大いに反省すべきだと思います。

母校への感想・提言

母校についての感想・提言(記述式)の欄(問二三)では、非常に多くの方々(二一六名)からご意見をいただきました。その内、母校の現状に大いに満足していると感想を寄せられた方は、二一六名の内八%弱。しかし、一六四名の方が、単なる不満に止まらず、前向きにより具体的な提言を寄せられ、大いに感銘を受けました。

提言の内容は「発展を期待する」のが第一位を占め、若い世代になるにつれて、「偏に発展を祈念します」といったものから、より具体的な事柄を述べた後に「大学の発展を期待する」という記述に変化していたのは興味のあることでした。次には「教育・入試制度の改善」を求めたものが多く、とりわけ第三世代(四〇歳代)に示唆に富むものが多くありました。三番目には「PRをもっと」で、他大学の例をひきながらPR不足を訴えるもの

おわりに

今回のアンケート調査の目的は、同窓生の意識調査にありましたが、集計分析を終えて、ほぼ次のような総合結果が得られたと思います。

- 一、同窓生の出身地、および現在の活動地が、関西・四国地方に集中し、全国的広がりを失いつつあること。
- 二、同窓生の中で、学生時代の専門教育を実社会で生かされていない人々が増えていること。
- 三、同窓生の中で、母校を一つの共通イメージ(例 黒正イズム)で把握する人々が減り、個々の自己体験のみ母校を考える人が増加していること。
- 四、『澱江』に対する関心は、世代をこえて高いこと。
- 五、同窓生は、母校の発展、社会的評価に非常に関心をもっていること。
- 六、若い同窓生(第五世代・二〇歳代)の中に、新しいタイプの人々が増加していること。

なお、このアンケートは『澱江'83 (No.19)』の特集記事にすべく、今回実施いたしました。母校の創立五〇周年を機に、今後の同窓会運営の指針としても役立てていただきたいと思います。

また、初めての試みだけに、所期の目的が達せられるかどうか案じていましたが、おかげさまで、四八四名(回収率五〇、四%)の方からご回答をいただき、ご協力のほど、澱江編集委員一同心からお礼申し上げます。



| | 回答者数 | 東 北
北 海 道 | 東 京 都 | 東京都を
除く関東 | 信 越 | 東海(三重
を含む) | 北 陸 |
|--------|------|--------------|------------|--------------|------------|---------------|-------------|
| 全 体 | 484人 | 1.0%
5人 | 0.2%
1人 | 0.6%
3人 | 0.2%
1人 | 6.0%
29人 | 2.7%
13人 |
| 1～9回 | 112人 | 3.6%
4人 | — | 2.7%
3人 | — | 8.0%
9人 | 1.8%
2人 |
| 10～19回 | 99人 | — | — | — | — | 10.1%
10人 | 1.0%
1人 |
| 20～29回 | 96人 | 1.0%
1人 | — | — | 1.0%
1人 | 1.0%
1人 | — |
| 30～39回 | 99人 | — | 1.0%
1人 | — | — | 5.1%
5人 | 6.1%
6人 |
| 40～48回 | 78人 | — | — | — | — | 5.1%
4人 | 5.1%
4人 |

A

3、あなたの出身地を○印で囲んで下さい。

Q

3

| | 回答者数 | 大 阪 | 兵 庫 | 京 都 | 京・阪・兵の
三府県を除く
近畿 | 四 国 | 中国地方 | 九州(沖縄
を含む) | 外 国 | 不 明 |
|--------|------|---------------|--------------|-------------|------------------------|--------------|--------------|---------------|------------|-----|
| 全 体 | 484人 | 26.2%
127人 | 20.5%
99人 | 3.5%
17人 | 9.3%
45人 | 9.3%
45人 | 13.6%
66人 | 6.2%
30人 | 0.6%
3人 | — |
| 1～9回 | 112人 | 21.4%
24人 | 14.3%
16人 | 4.5%
5人 | 6.3%
7人 | 4.5%
5人 | 19.6%
22人 | 12.5%
14人 | 0.9%
1人 | — |
| 10～19回 | 99人 | 41.4%
41人 | 18.2%
18人 | 3.0%
3人 | 9.1%
9人 | 4.0%
4人 | 10.1%
10人 | 2.0%
2人 | 1.0%
1人 | — |
| 20～29回 | 96人 | 24.0%
23人 | 27.1%
26人 | 6.3%
6人 | 8.3%
8人 | 11.5%
11人 | 14.6%
14人 | 4.2%
4人 | 1.0%
1人 | — |
| 30～39回 | 99人 | 23.2%
23人 | 21.2%
21人 | 2.0%
2人 | 15.2%
15人 | 13.1%
13人 | 11.1%
11人 | 2.0%
2人 | — | — |
| 40～48回 | 78人 | 20.5%
16人 | 23.1%
18人 | 1.3%
1人 | 7.7%
6人 | 15.4%
12人 | 11.5%
9人 | 10.3%
8人 | — | — |

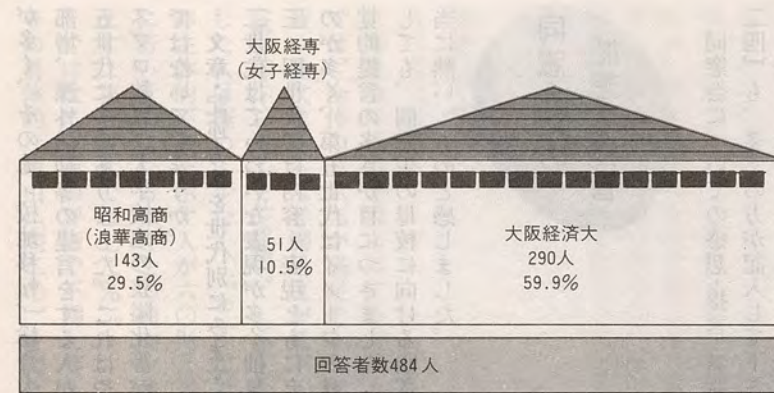
| | 回答者数 | 東 北
北 海 道 | 東 京 | 東京都を
除く関東 | 信 越 | 東海(三重
を含む) | 北 陸 |
|--------|------|--------------|-------------|--------------|------------|---------------|------------|
| 全 体 | 484人 | 0.8%
4人 | 4.5%
22人 | 5.8%
28人 | 0.2%
1人 | 6.4%
31人 | 1.9%
9人 |
| 1～9回 | 112人 | 0.9%
1人 | 8.9%
10人 | 4.5%
5人 | — | 7.1%
8人 | 1.8%
2人 |
| 10～19回 | 99人 | 1.0%
1人 | 7.1%
7人 | 11.1%
11人 | — | 10.1%
10人 | — |
| 20～29回 | 96人 | 2.1%
2人 | 3.1%
3人 | 7.3%
7人 | — | 1.0%
1人 | — |
| 30～39回 | 99人 | — | 1.0%
1人 | 4.0%
4人 | 1.0%
1人 | 6.1%
6人 | 5.1%
5人 |
| 40～48回 | 78人 | — | 1.3%
1人 | 1.3%
1人 | — | 7.7%
6人 | 2.6%
2人 |

A

4、現在のあなたの住所を○印で囲んで下さい。

Q

4

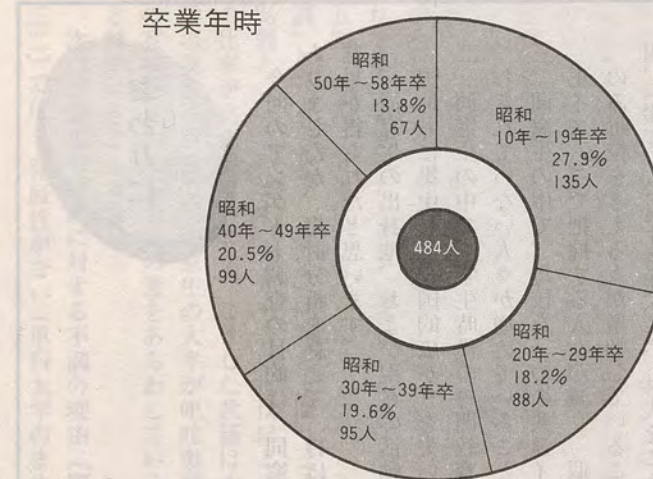


A

1、あなたの卒業時の校名を○印で囲んで下さい。

Q

1



A

2、あなたの卒業年時と、ゼミ・クラブの所属の有無についてご記入下さい。

Q

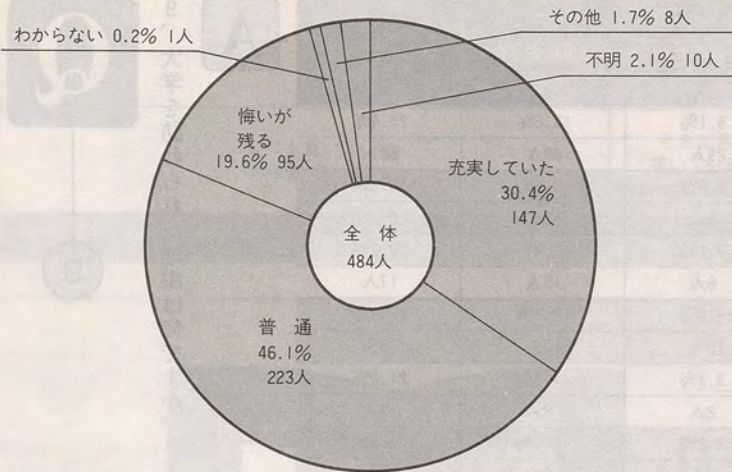
2

クラブ所属

| 回答者数 | 所 属 | 無 所 属 | 不 明 |
|--------|------------|------------|------------|
| 484人 | 40.5% 196人 | 37.8% 183人 | 21.7% 105人 |
| 112人 | 36人 | 39人 | 37人 |
| 1～9回 | 32.1% | 34.8% | 33.0% |
| 99人 | 49人 | 27人 | 23人 |
| 10～19回 | 49.5% | 27.3% | 23.2% |
| 96人 | 38人 | 41人 | 17人 |
| 20～29回 | 39.6% | 42.7% | 17.1% |
| 99人 | 44人 | 35人 | 20人 |
| 30～39回 | 44.4% | 35.4% | 20.2% |
| 78人 | 29人 | 41人 | 8人 |
| 40～48回 | 37.2% | 52.6% | 10.3% |

ゼミ参加・不参加

| 回答者数 | 参 加 | 不参加 | 不 明 |
|--------|------------|-----------|-----------|
| 484人 | 68.4% 331人 | 13.4% 65人 | 18.2% 88人 |
| 112人 | 18人 | 32人 | 62人 |
| 1～9回 | 16.1% | 28.6% | 55.4% |
| 99人 | 57人 | 22人 | 20人 |
| 10～19回 | 57.6% | 22.2% | 20.2% |
| 96人 | 92人 | 3人 | 1人 |
| 20～29回 | 95.8% | — | — |
| 99人 | 91人 | 7人 | 1人 |
| 30～39回 | 91.9% | — | — |
| 78人 | 73人 | 3人 | 2人 |
| 40～48回 | 93.6% | — | — |



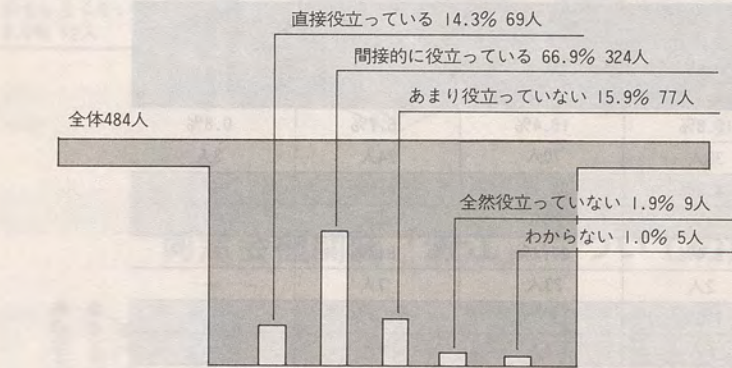
A

6、卒業されてからのあなたの在学時代をふりかえられて、どのように思われますか。

Q

6

| | 回答者数 | 大阪 | 兵庫 | 京都 | 京・阪・兵の三府県を除く近畿 | 四国 | 中国地方 | 九州(沖縄を含む) | 外国 | 不明 |
|--------|------|-------|-------|------|----------------|------|-------|-----------|----|----|
| 全体 | 484人 | 28.5% | 17.8% | 3.7% | 9.7% | 5.4% | 9.5% | 5.8% | — | — |
| | | 138人 | 86人 | 18人 | 47人 | 26人 | 46人 | 28人 | — | — |
| 1~9回 | 112人 | 25.9% | 12.5% | 3.6% | 8.0% | 5.4% | 13.4% | 8.0% | — | — |
| | | 29人 | 14人 | 4人 | 9人 | 6人 | 15人 | 9人 | — | — |
| 10~19回 | 99人 | 32.3% | 13.1% | 4.0% | 7.1% | 3.0% | 7.1% | 4.0% | — | — |
| | | 32人 | 13人 | 4人 | 7人 | 3人 | 7人 | 4人 | — | — |
| 20~29回 | 96人 | 31.3% | 25.0% | 4.2% | 9.4% | 5.2% | 7.3% | 4.2% | — | — |
| | | 30人 | 24人 | 4人 | 9人 | 5人 | 7人 | 4人 | — | — |
| 30~39回 | 99人 | 27.3% | 19.2% | 4.0% | 16.2% | 5.1% | 10.1% | 1.0% | — | — |
| | | 27人 | 19人 | 4人 | 16人 | 5人 | 10人 | 1人 | — | — |
| 40~48回 | 78人 | 25.6% | 20.5% | 2.6% | 7.7% | 9.0% | 9.0% | 12.8% | — | — |
| | | 20人 | 16人 | 2人 | 6人 | 7人 | 7人 | 10人 | — | — |

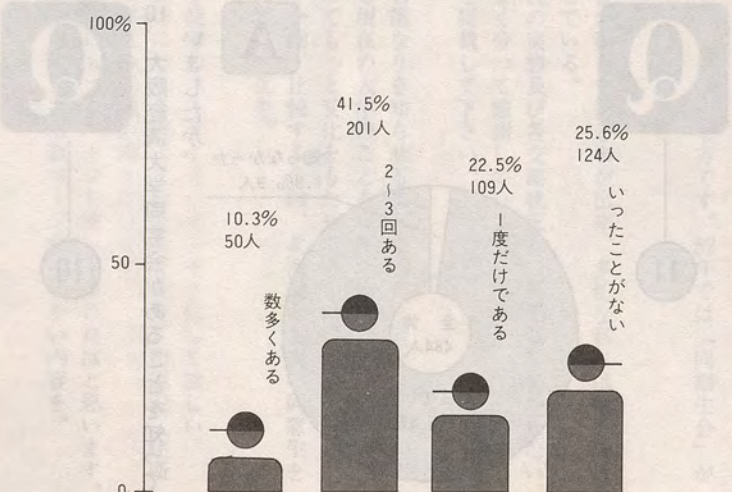


A

7、あなたが在学時代学ばれたことは、卒業後役に立っていると思いますか。

Q

7

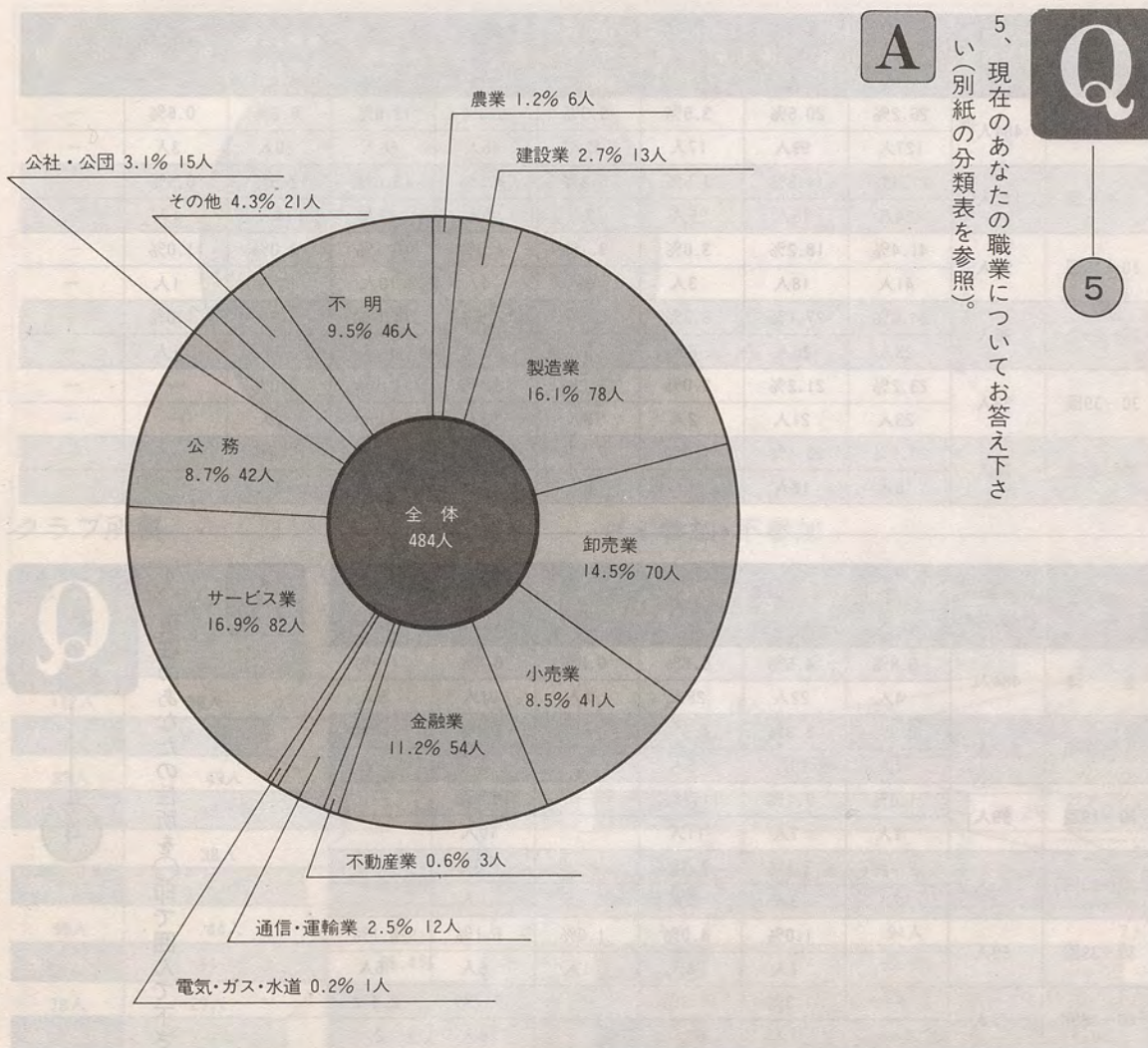


A

8、あなたは卒業されてから、現在までに大学を訪ねられたことがありますか。

Q

8

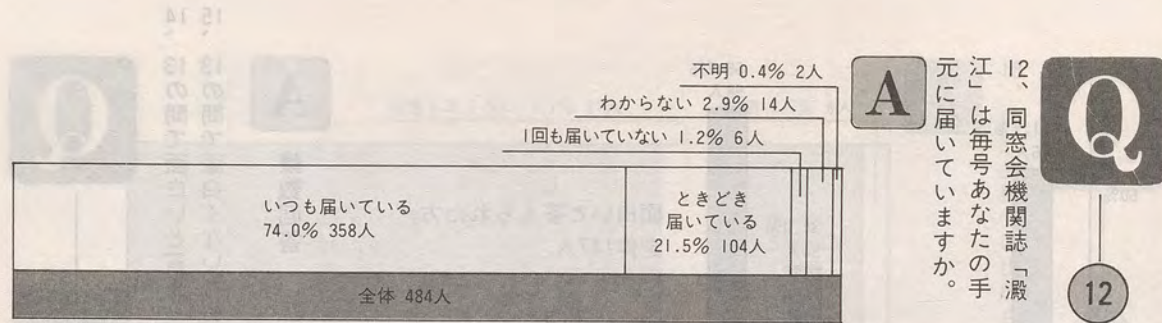


A

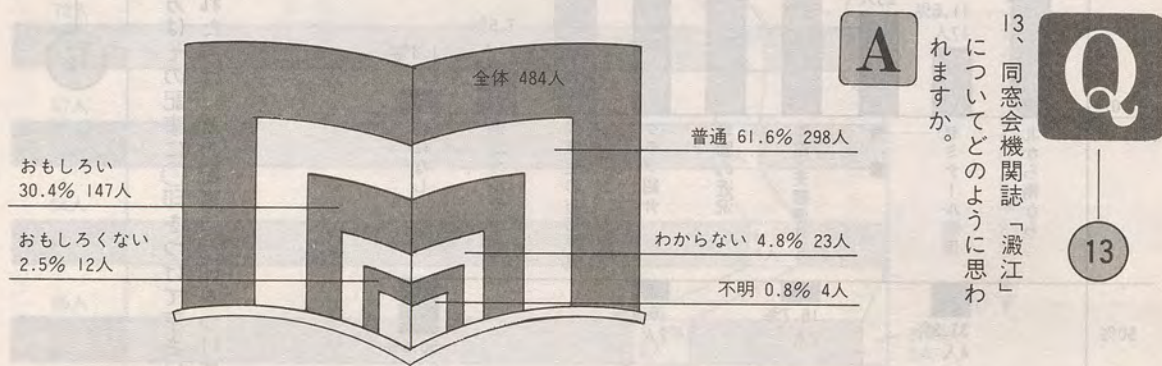
5、現在のあなたの職業についてお答え下さい(別紙の分類表を参照)。

Q

5



Q 12、同窓会機関誌「澱江」は毎号あなたの手元に届いていますか。



Q 13、同窓会機関誌「澱江」についてどのように思われますか。

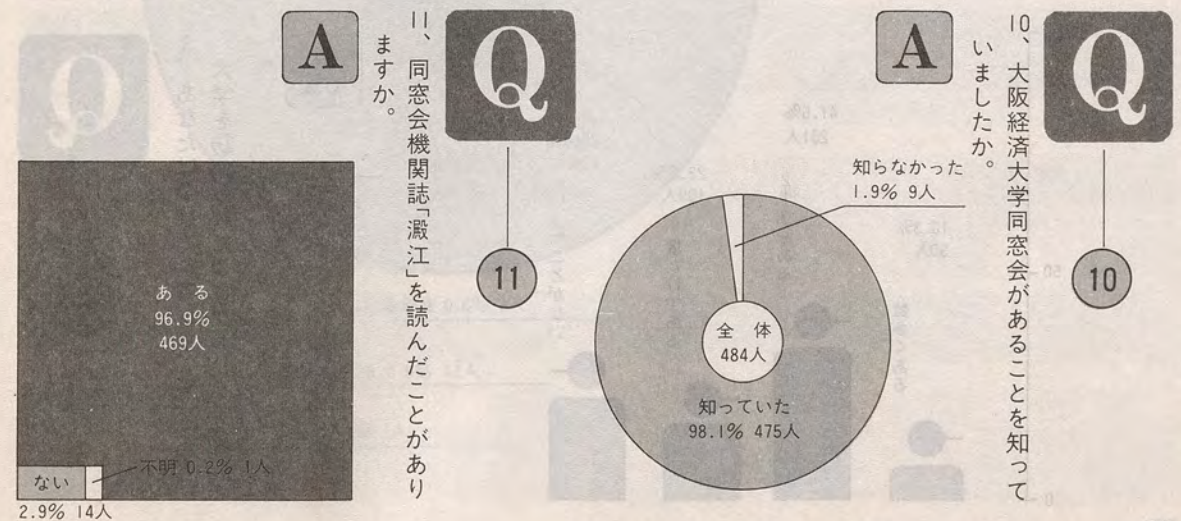
同窓会機関誌「澱江」についての感想・提案 (抜粋)

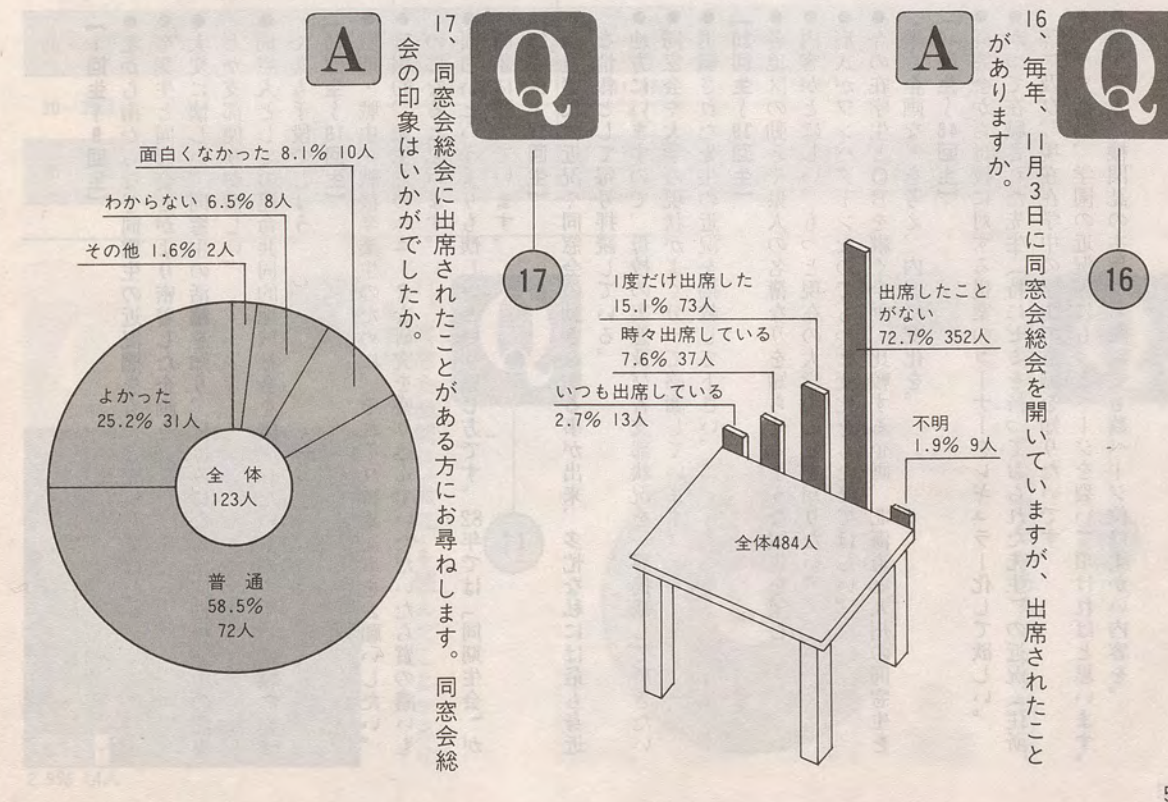
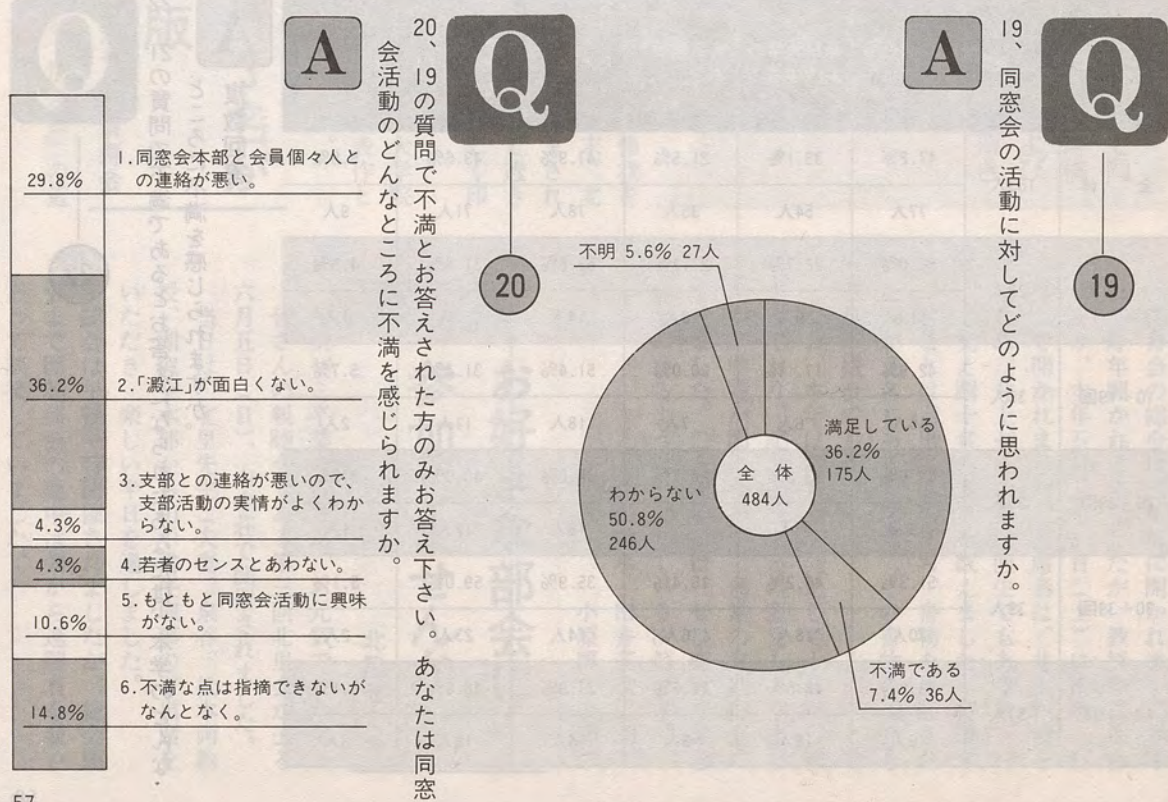
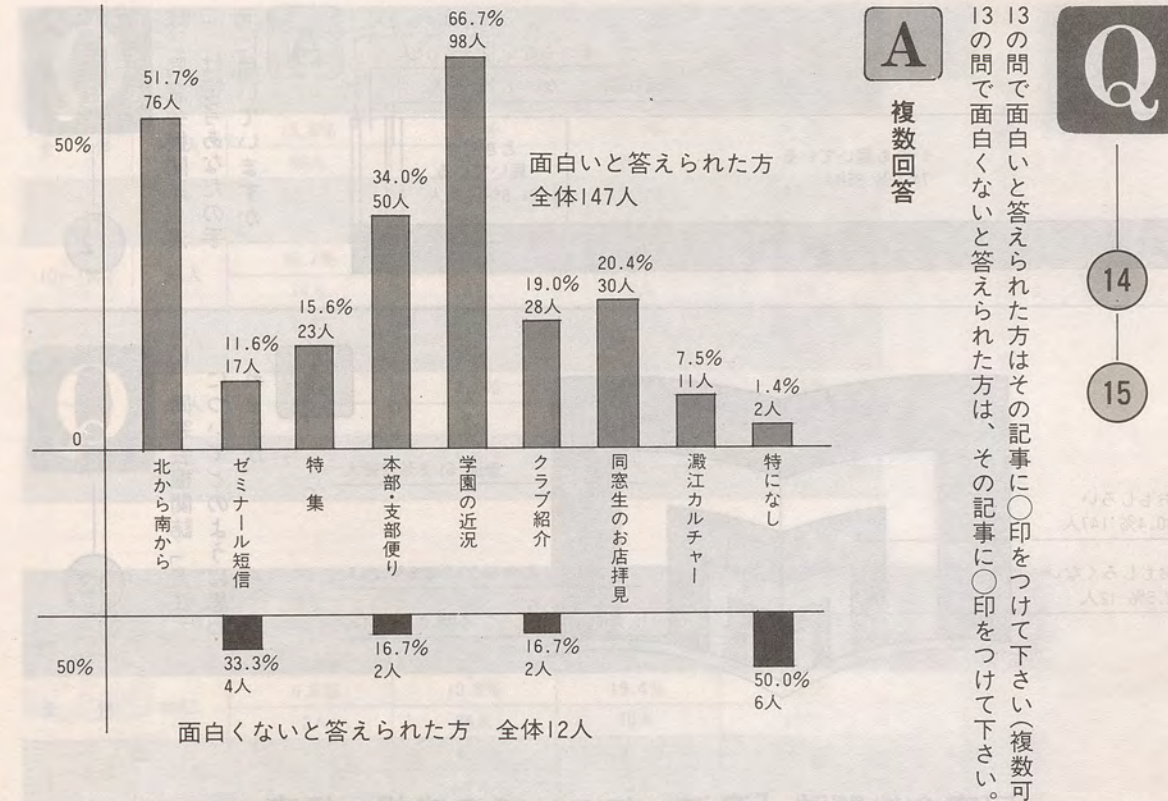
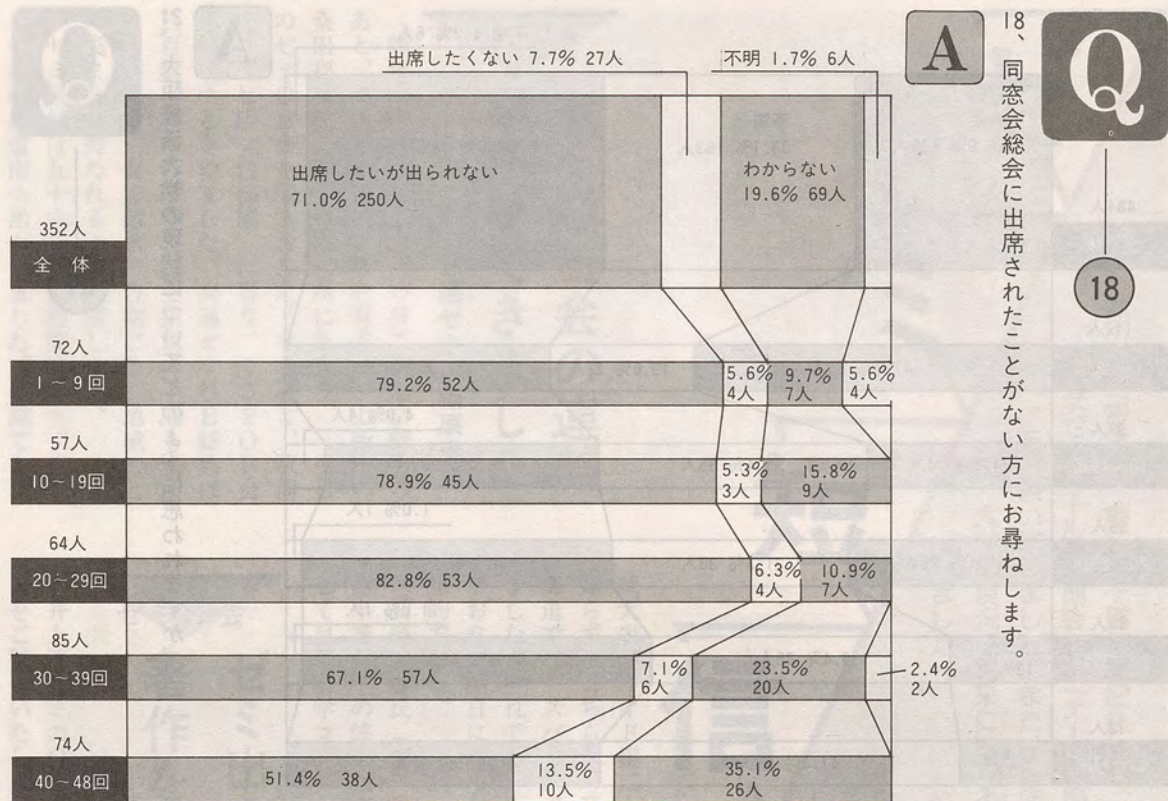
- 【1回生～9回生】北から南からなど同窓生の近況欄をもっと充実してほしい。
- 卒業生と同窓会とがより密着した企画を。
- 大変に懐しい。同窓生の活躍を知り、はげみになる。同期の連中の記事とか支部便りが懐しい。
- 同窓人としての運命共同的地域社会を構成したいものです。就職あっせん業も手段でしょう。
- 【10回生～19回生】戦前・戦中・戦後卒業生のために、それぞれ特集記事をお願いしたい。雑報的、先生方のユニークな研究を盛り込んでいただいたら質の濃いものになると思います。
- 面白いというよりも懐しいという感じ方です。82年では「同期生会」が印象に残っています。
- 【20回生～29回生】会員諸氏の近況や同窓会の動きを知る事が出来、多忙な私には最も身近な情報として毎号拝読している。
- 地方にいますので、母校の実態及び各支部状況を一層掲載して頂きたい。
- 同窓会や大学の現状がよく分って感謝しています。
- 退職された先生の近況を掲載して下さい。
- 【30回生～39回生】各地区の動きや県人の名簿なりを知らせるような編集を望む。
- 内容がとほしい。もっと現在の大学のことを知りたい。
- 形式がワンパターンなのもっと変化をもたせてほしい。
- 今の在学生とOBを継ぐ企画、比較する企画、北海道と九州の同窓生を継ぐ企画などを考え、内容に変化を。
- 【40回生～48回生】同窓会から母校に対する提案のコナーをレギュラー化して欲しい。かつて在職された先生(特にゼミを持っておられた先生)の近況(住所等)及び、現在在学中の学生の意識を知りたいです。
- クラブ活動、学園の近況等にもっとページを裂いて頂ければと思います。堅すぎる。機関誌の主旨から離れても数ページ位は柔かい内容を。

A 9、大学を訪ねられた理由は何ですか。

| | 回答者数 | 卒業証明書等を受けるため | 求人等のため | 教職員に会うため | 懐しくなって |
|--------|------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 全体 | 360人 | 15.6%
56人 | 8.1%
29人 | 13.6%
49人 | 24.4%
88人 |
| 1～9回 | 89人 | 13.5%
12人 | 5.6%
5人 | 13.5%
12人 | 30.3%
27人 |
| 10～19回 | 84人 | 16.7%
14人 | 7.1%
6人 | 17.9%
15人 | 20.2%
17人 |
| 20～29回 | 79人 | 8.9%
7人 | 19.0%
15人 | 12.7%
10人 | 22.8%
18人 |
| 30～39回 | 62人 | 21.0%
13人 | 3.2%
2人 | 14.5%
9人 | 21.0%
13人 |
| 40～48回 | 46人 | 21.7%
10人 | 2.2%
1人 | 6.5%
3人 | 28.3%
13人 |

| | 回答者数 | 図書館を利用するため | クラブ関係のため | 同窓会関係のため | その他 | 不明 |
|--------|------|------------|--------------|--------------|-------------|------------|
| 全体 | 368人 | 0.6%
2人 | 10.8%
39人 | 19.4%
70人 | 6.7%
24人 | 0.8%
3人 |
| 1～9回 | 89人 | — | 4.5%
4人 | 28.1%
25人 | 4.5%
4人 | — |
| 10～19回 | 84人 | — | 2.4%
2人 | 27.4%
23人 | 8.3%
7人 | — |
| 20～29回 | 79人 | — | 7.6%
6人 | 17.7%
14人 | 11.4%
9人 | — |
| 30～39回 | 62人 | 3.2%
2人 | 19.4%
12人 | 11.3%
7人 | 1.6%
1人 | 4.8%
3人 |
| 40～48回 | 46人 | — | 32.6%
15人 | 2.2%
1人 | 6.5%
3人 | — |





Q

21

21、大阪経済大学の現状についてどのように思われますか。

| | 満足
26.0% 126人 | 不満
33.7% 163人 | わからない
39.0% 189人 | 不明
1.2% 6人 |
|--------|------------------|------------------|---------------------|---------------|
| 全体 | 484人 | | | |
| 1~9回 | 47.3% 53人 | 19.6% 22人 | 33.0% 37人 | |
| 10~19回 | 24.2% 24人 | 35.4% 35人 | 36.4% 36人 | 4.0% 4人 |
| 20~29回 | 27.1% 26人 | 31.3% 30人 | 40.6% 39人 | 1.0% 1人 |
| 30~39回 | 13.1% 13人 | 39.4% 39人 | 46.5% 46人 | 1.0% 1人 |
| 40~48回 | 12.8% 10人 | 47.4% 37人 | 39.7% 31人 | |

A

Q

22

22、21の質問で不満であるとお答えになられたあなたは、本学のどんなところに不満を感じられますか。

| | 回答者数 | 本学の社会的評価低下 | 単科大学のままである。 | 有名教授が不足。 | P.R.不足。 | なんとなく発展していない。 | その他 |
|--------|------|------------|-------------|----------|---------|---------------|------|
| 全体 | 163人 | 47.2% | 33.1% | 21.5% | 47.9% | 43.6% | 5.5% |
| 1~9回 | 22人 | 50.0% | 22.7% | 27.3% | 63.6% | 31.8% | 4.5% |
| 10~19回 | 35人 | 42.9% | 17.1% | 20.0% | 51.4% | 31.4% | 5.7% |
| 20~29回 | 30人 | 50.0% | 23.3% | 26.7% | 60.0% | 40.0% | 3.3% |
| 30~39回 | 39人 | 51.3% | 46.2% | 15.4% | 35.9% | 59.0% | 5.1% |
| 40~48回 | 37人 | 43.2% | 48.6% | 21.6% | 37.8% | 48.6% | 8.1% |

A
複数回答

ゼミ短信

今回のゼミ短信は、創立五十周年を記念して、各先生方を通して同窓会(ゼミナール)同期会(ゼミナール)開催の各会幹事に寄稿をお願い致しました。また、各先生のご近況、および大学の現況、将来に対する抱負を寄稿して頂きました。

ゼミOB会 場所ができました

交通ゼミ 稲原康雄

昨年十一月三日(文化の日)同窓会総会のあと、交通ゼミ初期OBの有志が、上新庄の桑田利雄氏(19)の事務所に集まり、三度目のゼミOB会を開きました。そのあと、駅前のコーヒ店「仁柿屋」に寄り、ここをOB会連絡場所と決めました。交通ゼミOB総数は三百数十人にのぼり、総会招集の手間も場所もないので、有志諸君の各期ごと、地域ごとの集まりを持たれるよう希望します。

ゼミ旅行は五十六年末に座間味島へ、五十七年末には道南へ出かけました。沖縄では、

琉大生のガイド嬢二人、既に沖縄戦の惨状を知らず、こちらから話して聞かせる始末。北海道では、スパイクタイヤの粉塵に悩まされました。それでも、慶良間の海は底まで透きとおり、朝日に輝く雪の小樽は実に美しく印象的でした。

長崎貴彦氏(42)はハンター大学の大学院を卒業、その修士論文は経済学部で代表作として目下全学コンクールで選考中です。

ゼミOB会 ゼミ出身者3名が著作を出版

(井上清ゼミ)清寿会

井上清ゼミのOB会である「清寿会」の近況をご報告いたします。

ゼミOB会 お好きな部会に参加しませんか

北里ゼミ会

清寿会の総会は、二年毎に開かれます。本年は、昨年開かれる年でしたが、教授のご都合もあり、本年五月二十一日(土)に南の「石亭」で開かれました。出席者は、井上教授をはじめ、井上ゼミの第一回生でもあるメンバーも交え四十名の多きを数えました。特筆すべきことは、出席者のうち、書物を出版された人が三名もあり、席上、その書物の紹介もされ、盛会でした。

なお、本年は清寿会が発足して十五年目に当たっており、記念総会をとの意見もありましたが、準備が間に合わず、通常の定期総会になりました。二十周年には、ぜひ盛大な記念総会になるようにと念じている次第です。

代表幹事 白井莊治(28)
小原博之(35)

北里ゼミ卒業の皆さん、お元気ですか?皆さんの親睦会である第二回北里会が去る六月五日(日)、山中荘で開催されました。

当日は、北里先生ご夫妻、泉谷、松本両教授、同窓会本部から山中常任理事のご出席をいただき、楽しい半日を過ごしました。

総会は午後一時開催されましたが、総会開会まで囲碁部の連中は朝から迷勝負を競いあって談笑していました。

さて、総会は北里先生のお話をお聞きした後、各自の自己紹介等をし、なごやかな一時を過ごしました。先生は最近、少し脚を弱らせられている関係から余りお歩きにならないためか体重が増えられたようですが、大変お元気です。そして、最近、もっぱら仏教の研究をしておられるそうです。

来年も六月頃に定例総会を予定しておりますので、先生にお会いし大いに和やかな、楽しい一時を過ごしたいと思っておりますので、是非ともご出席下さい。



会計研究部会、囲碁、将棋、マージャン部会、ゴルフ部会、釣部会等の活動で会員相互の親睦を計っておりますので、お好きな部会にご参加下さい。

北里ゴルフ部会よりご案内します。ゴルフ部会コンペを十一月十一日(金)武庫之台ゴルフコース、九時集合(会費約一、〇〇〇円)を計画しております。一人でも多くご参加下さい。ゴルフ部担当、連絡先は、三町竜寛氏(22)です。

越川 昇(35)

(越川 昇記)

ゼミ短信

ゼミ10年 出版
そして同窓会も

渡辺 泉

早いもので、私も経大に来て今年で十年目をむかえました。

この三月にやっと一冊にまとめることができ『損益計算史論』森山書店諸君らへの責任の一端を果たすことができたと思っています。目下二冊目を何にするか検討中です。できれば、三、四年のうち留学し、当時の商人達の実際の帳簿のマイクロ・フィルムでも手に

入れてきたいと思っています。私の状況はそんなところですが、皆さんの方はどうですか。それぞれの分野で頑張っていることと思います。

一度同窓会でも思っています。元気な顔を見せて下さい。元気な声を聞かせて下さい。

ゼミ短信

ゼミは引退しても
いい! 放題の本を
出版

平 実

平ゼミの卒業生諸君、お元気で頑張っておられますか。小生は三、四年前に少し肝臓を悪くして不調でしたが、お陰で只今では元気でやっていますから、他事ながらご安心下さい。

さて、私も昭和四十二年に大阪市大から本学へ移ってきまして、足かけ十七年を経過しましたが、本年三月に特任教授を定年になりました。でも、なお、非常勤講師として教学に当らせてもらっていますし、研究活動も意欲的に続けており、研究者として悔いのない生活を送りたいと思っています。

ただ、非常勤講師になつてからは、ゼミナールを担当できなくなつたことは残念ですが、これも規則とあらば仕方ありません。でも、私が本学において、これまでに指導してきたゼミ諸君の数は約四百七、八十人、かれこれ五百人近くに達しています。これだけ多数の

先生
の
近
況

梅田武文先生に名誉教授授与

諸君たちと相知り、楽しくやってきたことを思うと、本当に幸福だったと喜んでいきます。今これを書いているときも、ゼミの諸君と諸所方々に旅行して楽しかったことを思い出しています。「一期一会」といわれ、「袖振り合うも多生の縁」ともいわれますが、かりにも二カ年の長きにわたって顔つき合われ、何やかやと話し合ったということは、思えば深い縁があったのでしよう。ゼミの諸君もお互いに仲よくやってゆかれることをお祈りしています。

私事にわたり恐縮ですが、私は最近、齒に衣を着せぬ、言いたい放題のことを書き連ねた左記のようなエッセイ集を出しました。かつてフランス、パリで写した私自身の写真も挿入してありますので、私を思い出すがと、お志のある方は購読していただければ、まことに幸甚の至りであります。(たいらみの著『吐ふくるるわざの弁』京都晃洋書房発行 一、二〇〇円)。



経大50年、その栄光の歴史
竹林庄太郎

本学卒業生の諸君が社会の各界において目ざましい貢献を続けられていることを大慶に存じます。

大学も、すべての面において、画期的な充実ぶりを見せており、学界はもちろん、社会の各層から高く評価されていることはお互いに喜びにたえません。私も本学に講座を持つようになって今年で三十二年間、幸い健康にだけはめぐまれ、毎週水曜日を講義日としております。今年ゼミ以外に、「商業経営論」の開講を命ぜられ、稿をあらたにして開講しております。

本学も街の真中に位置するようになりました。私が故菅野先生の命により、昭和商開設のお手伝いしたのは昭和十年だと思っています。その時は、野原の真中にボツンと校舎がありました。武田長太郎氏が庶務の采配をふられており、その下で何かと働かされたものです。その時、本学の今日を夢想だにしませんでした。まさに栄光の歴史を見ているようです。皆様のご多幸を祈ります。



ときどきお会いする方もありますが、卒業されて以来お目にかからない人々も沢山おられます。どうしていらつしやいますか。また近況でもお知らせ下さいれば嬉しいことです。何といっても健康が第一です。皆さんも体にはくれぐれも気をつけられて、ますますご活躍されることを心からお祈りしています。

(一九八三・六・二七記)

ゼミ短信

ルンルンみちのく

ゼミ旅行

竹林祐吉

五月二十一日(土)午前九時盛岡駅前に現地集合。徹夜で車をとばして来たため、かなり疲れているものもいたが、まずは全員元気に集合。今日からいよいよ「ルンルンみちのくゼミ旅行」が始まる。

まず、自家用車五台、レンタカー一台に分乗し小岩井農場に向う。大阪のむし暑さとは違い、また、五月とはいえ東北はまだ肌寒いのに驚きながら、残雪の山々を左右に望みながらのドライブはなんとなく「大自然満喫ツアー」という感じだ。小岩井農場では、観光用に開放されている牛に触れたり、馬と写真を撮ったり、新鮮な牛乳を飲んでみて、それなりに楽しんだ。そして次の目的地、日本一深い湖「田沢湖」に向かうべく八幡平を越える。八幡平は10m先が見えないほどの深い

霧におおわれ、頂上付近ではまだ2mの積雪があった。ここは夏スキーのメッカであるがこの日は特に寒く、ダウンを着たスキーヤーすら身を縮めているのに、トレーナー一枚という軽装の我々は、あまりの寒さに声も出なかった。田沢湖に着く頃には霧も晴れ、湖ではウインドサーフィンを楽しんでいる姿も見られた。よく「山の上と下では大違い」といわれるが、この時ほどまざまざと見せつけられたことはなかった。

今日の最後の目的地である角館は、さすがに小京都といわれるだけあり、武家屋敷が立ち並び落ちついた様相をした町であった。春桜が満開のときは「桜トンネル」が見られるそうである。桜の時期を逸したのほども残念であったが、それぞれ思い思いに古きよき時代の角館を偲んでいた。

一日目の日程を消化し再び盛岡に引返し、駅近くの旅館に泊る。一日目は、先生がお仕事の都合により一緒ではなかったので、少し寂しい食事だった。

二日目、十和田南の駅で先生と落ち合い、直ちに十和田湖へ出発。十和田湖は、まだまだ自然の姿をあらわにこちらに残っており、湖畔を一周ドライブしたり、展望台から景色を眺めたり、関西では、もうめったにお目にかかれぬ雄大な景観を十分に楽しんだ。夕方になると、夕日に照らされる「乙女の像」がとても美しかった。その日は国民宿舎「十和田湖荘」に泊まった。夜は腕相撲大会などみんなでゲームをして童心に返り楽しんだ。

先生

近況

想い出の数々が今も脳裏にあざやかに

木村 武夫

お世話になった大北文次郎先生がなくなられて、既に、十三回忌をすぎたこととて、小生が経大を去つたのもその直前です。経大の間に、いつの間にかかなりの月日が経過している訳ですが、いくつかの光景は今なお脳裏にあざやかに残っています。今からいえば、経大が一番隆盛期の頃に勤務させて頂いたわけで、楽しい思い出もその中に挿入されていますが、同窓生の方々には申し訳ないことをした場面も含まれています。

現在は神戸女子大学、その他に出講してはいますが、講義を終えて須磨の駅前の千鳥食堂で一寸パイやって休む時が一番楽しい時間です。社長の新田恭三君(34)は私のゼミ出身ですから……。

音信不通の数え子たち、今はいずこに

真野 脩

私が経大でお手伝いさせていただいたのは、昭和三十一年から三十八年までの期間でした。大部分のゼミナールの諸君とは、最初は年賀状を交換していたのですが、何時しか音信不通となってしまったようです。

しかし最近になって、ゼミナールの人々の縦の連絡をつけるのも、あるいは教師の任務なのかも知れないという気もしてきました。もし、希望される方々がおられるならば、帰阪した時にでも一度集まる機会を持つても良いと思います。で、関心をお持ちの方はご連絡下さい。

最近の出来事としては、四月二十日の第50回通信記念日に、大臣に招かれて皇居に参内して天皇陛下にお会いしてきました。昭和二十年秋に、旧神戸一中の校庭で遙かにお顔を拝見して以来のこと、やはり大変に印象的な出来事でした。諸君のご健闘をお祈りします。

真野 脩

長らくのご無沙汰を謝して

光澤 滋朗

光澤ゼミ卒業生の皆さん、長らくご無沙汰しておりますが、お元気でしょうか。世に「親はなくても子は育つ」といいますが、「主なき学び舎」では、皆さんも、さぞ張り合いがないことでしょう。それだけにまた、皆さんを思う気持もひたひたです。毎年頂戴する賀状(但し、年を追うごとに減って参りましたが)や時たま舞い込む職場、住所変更の通知は、

光沢滋朗(同志社大学商学部)

たとえ一葉の便りでも、大変なつかしく、この君は学生の頃こうだったとか、あ、だったかと思ひ出しながら、手元にある古びたゼミ名簿(第一期と第七期生、二〇二名)に書き込んであります。第一期生は四十才近くですから、お会いすれば、どちらが元教師だったか判らなくなっていることでしょう。

昨年九月、一年余カ月にわたつたアメリカ留学から帰ってきました。その後、元気に「販売管理論」を講じています。しかし仕事の面では、生来の怠惰と遅筆のため、これまで余り多くの仕事をしていません。『マーケティング管理の生成と発展』(京都啓文社、一九八〇年)、『経営革新と流通支配』(共訳書、ミネルヴァ書房、一九八三年)くらいです。皆さんにお叱りを受けることと思いますが、平均寿命も延びた昨今のことでもありますが、ここで、ここはひとつ長い目で見て欲しいと思っています。

一度、久し振りにお会いし、積る話を肴に盃を交わしたいと思います。お忙しいでしょうか。末筆ながら、今後一層のご活躍、ご多幸を祈っております。

再会の日が一日も早く

来たらんことを祈りつつ……

(昭和五十八年六月父の日記)

卒業まじかに想うこと

古久保五郎

皆様お元気ですか。来年三月で私も卒業です。一日も早く出て行かないと若い方々がひしめいているのです。山羊を連れて乃木さんの故事に習つてというのも程度の違いで通用しませんね。運動場は遠くなり、茨木の土地も遠すぎ、これらをみんな校舎に引きつけたら大きな大学として宣伝しなくてもと思います。

石川さん(ロシヤ語)はこの世を去り、梅田さんは退職、藤原さん、田中さん、小生、ともに三月に退職。旧館から始まった思い出は筆舌に尽しがたいものがあります。三月まではおりますのでエレベーターで五階へ昇って来て下さい。初めての研究室です。全校一の見晴らしの良い部屋です。

梅田さんの後をうけて、今回の総会で生協理事長をまたやります。学生運動と大学の間にはさまっていますが、円満を願っています。

最後に、四十才からの美食は健康を害します。

明けて三日目は、「きりたんぼ」を食べたり、湖畔のボートで遊ぶことで始まった。風が強く、波が高く、また、ボートに慣れな者が多いため、水をかぶり寒さにふるえるという姿も見られた。今日のメインイベントは、「奥入瀬の溪流」を三時間にわたって散歩しようというものだ。流れにそっての遊歩道を歩き、自然をじかに感じた。溪流は、ある所では激しく、またある所ではゆるやかに、道端に咲く白い花、小鳥のさえずり、雄大な瀧、おい茂る木の枝のすきまからひろがる青い空、足が切れそうな冷たい雪どけ水、何から何まで自然のすばらしさにはただ驚かされるばかりであった。竹林先生は、写真の趣味がありなので、盛んに気の向いた風景にカメラを向けておられた。ゼミ旅行最後の夜はビールと酒の大ふるまいがあり、心ゆくまで飲み、大いに楽しんだ。最後には、旅館の前庭に集まり竹林先生を中心に輪をつくり、かけ声をかけたり、歌をうたったりした。さらには、大阪ではできないことをしようといって、ハダカで走り出したりしたものもあった。

次の朝、朝食後、現地解散。二日酔いの目をこすりながら、バスで帰る者、車で帰る者、それぞれ別の方向へ散っていた。約十名は三沢駅まで先生を送って北海道に渡った。

五月二十一日から二十四日までの「ルンルンみちのくゼミ旅行」短かい旅ではあったが、事故もなく全員元気で、とても楽しかった。各人それぞれに学生時代の思い出として、きっと忘れられない旅であったことと思う。

ゼミ短信

積極的な活動を展開する記念すべき年

井上 清

設立十五周年の井上ゼミナール

今年、本学創立五十周年、ゼミOB会清寿会は設立十五周年、小生の勤続三十六年と重ね重ねの記念すべき年になりました。過去を振り返り、感無量ですが、ゼミ出身の諸君には社会の荒波をのり越え、前進を続けておられることは喜びに堪えません。

小生の方は、長期の航海を終えてドック入りした船にも似て、体調を整え、来年に備えるべく努力中です。今年、小生にとって、過去の生きざまを振り返り、一応の総括の年であり、再び来年からの色々の積極的な活動を展開する記念すべき年です。

ゼミ出身の諸君で、特に、中年以降の方々は、食事の適正な取り方を研究されるようお勧めします。

ゼミ短信

五十周年は発展のためのひとつの岐路

松村文武

卒業生の皆さん、お元気にお過ごしでしょうか。

私は四十才を越えてから、少し体力が落ちたように感じています。それに応じて仕事の仕方が変わってきた今日このごろです。ゼミは八十二年生が二十五名、八十三年生が八名です。八十三年ゼミから「世界経済ゼミナール」という名称にしました。相変わらず「どれだけ納得的な卒論を書けるかが大学生の本分」ということをモットーに指導しています。さて、経大も五十周年を迎え、様々な式典行事が行われますが、大切なことは教育研究機関としての一層の充実、発展を計画的に実施することだと思います。さいわい、茨木校地という環境のよい土地がすでにあり、校地買収という最難関問題が済んでいるので、五十周年を機に、これをどのように生かすかが、今後の本学のひとつの岐路と思います。

卒業生の皆さんの多様なご支援を期待します。

ゼミ短信

千人のOBと一堂に会して旧懐を温めたい

大槻 弘

ゼミOBの皆さん、お元気ですか。相変わらずといたいところですが、典型的な成人病のコースをたどっているようで、人間ドックでは、いつも撰生と養生の警告を受ける始末です。大学が半世紀の歴史をもつたのに対し、わがゼミは四分の一世紀の星霜を経て、すでにOBの総数は千人の大体にの

りました。丁度よい節目にきたようですから、全員が一堂に会し、疎通をはかり、旧懐を温めたいものです。

ゼミ短信

特色ある大学づくりにご支援を!

濱本 泰

研究活動にポイント

ながいこと、本紙「激江」への投稿をごぶささいました。

その後、濱本ゼミ、ならびにクラブOB諸氏にはお変わりございませんか。ますますお元氣にご活躍のことと推察いたします。小生も、昨今、学内のポストにはつかず、もっぱら学会活動の方に力をいれ、研究活動にポイントをおいています。

また、ここ二三年間ほど、中小企業庁委託・日本商工会議所指定による「緩部地域」の「商業近代化地域計画(基本計画)」策定事業に、そのプロジェクトのチーフとして、取り組みようやくこの四月に策定が終り、ほっとしているところ。OB諸氏の地域も「商業」や「その他の産業」の活性化、ならびに、「都市のあり方」などについて多くの悩みをかかえているものと思います。また、「商業近代化計画」も策定中か、策定予定かと思えます。小生の経験も微力ではありますがご遠慮なくお申し出下さい。小生も多少、資料をもって

先生の近況

記念すべき時期に奉職の誇り

田中 耕治

本年度、本学に奉職しました田中耕治です。聞けば、今年には、経大五十周年記念行事が催されるとのこと、大変、貴重な時期に本学で働けますことを誇りに感じております。

「一読ください」「芭蕉講座」と「阪南町史・上巻」

永野 仁

有精堂出版「芭蕉講座」の第二巻に「発句概観」、第四巻に「発句鑑賞」を書きました。

むかし私の芭蕉講義を聞いてくださった方々に、店頭で立ち読みしていただければうれしいと思います。

江戸時代の文化の節を分担執筆した『阪南町史・上巻』も出ました。これは泉南地方の小、中、高校や大阪府内の公共図書館に寄贈されています。

江戸時代の畿内農村の文化水準が意外に高かったということの一例を示し得たかと思えますので、これも一覧いただければ幸いです。

忘れえぬ学園漲る若々しい情熱

平野 章

私は昭和十三年本学に奉職。昭和十六年七月に一たん退職。その後昭和二十四年に再び勤めることになり今日に至っています。したがって、終戦前の在職期間は僅か数年に過ぎませんが、何故かあの頃のことを、一番強く記憶に残っています。おそらくは、創設期の学園に漲る若々しい情熱と、幾分手に負えぬ所もあったが、純真な人なつこい当時の学生を忘れ得ぬためでありましょう。その学生達が今では想像も出来なかつたほど立派になつて社会の各方面で活躍中とのこと誠に欣快の至りです。

同窓会が今後益々栄えることを心からお祈りしております。

なお、私は大阪府立大学を定年退職後、神戸学院大学に就職。今年二度目の定年退職を迎えましたが、益々元氣で諸君の後輩達をさんざん苦しめております。

いますし、大学の中小企業経営研究所にもデータが多数ありますのでご利用下さい。さて、ゼミの現役も少人数ながら頑張っております。関西学生経済ゼミ大会において報告し、積極的に討論に参加しておりますのでご安心下さい。

昨今、大学をとりまく、内外の環境はまことにきびしく、これからは、今以上に特色ある大学として、他の大学に伍していく必要があります。OB諸氏のご献策とご支援を得たいと思います。よろしくお願ひします。ご自愛の程と、時には大学にお寄り下さい。

ゼミ短信

香港へ 上海へ 羽ばたく大経大生

山本恒人

ゼミ一期生の皆さん、そろそろ配属は決まりましたか？ 五月の連休には、新しく移った吹田の家に七人が集まってくれました。今度は近くなりましたので、いつでも遊びに来て下さい。

黒田君が早くも六月二十日にシンガポールに赴任しました。香港駐在所開設の要員養成だと思ひます。あまりの大役にはりきりすぎてもと思ひ、「ボチボチやれよ。養成費が含まれてるんやから……」と励ましておきました。出発の前日、「スコッチ・タイム」で、四回生

九カ月間の入院生活を克服され 藤田先生ご自宅でご静養中

藤田ゼミOB会（敬友会）の発足と、米寿祝賀会開催の様子は、前号の「澱江」で詳しくご紹介いたしました。その後、藤田先生は体調をくずされ、冷夏の避暑先軽井沢から急きよ帰阪、九月初め中津の済生会病院に入院されました。ことに心臓の調子が思わしくなく、当分の間面会謝絶の措置がとられました。しかし、先生の並々ならぬご気力とご養生により、本年の六月初めお元気に退院されました。まさに九カ月間の入院生活を克服された先生は、現在、堺市上野芝のご自宅で静養されておられます。また聞くところにより、先生は母校の将来と、五十年記念事業に対して、ひとかたならぬ情熱を燃しておられるとのこと。今回のご病気はまことに残念ではあります。元氣な我々がその分だけ頑張り、学恩におむくいたいと思ひます。ところで、先生のご容態や、事務局の怠慢もあり、本年はいままでのところ敬友会の会合はもてず、また、「ゼミナール

九十才になりました

田岡嘉寿彦

九十才になりました。身体に異状はありませんが、物忘れがひどく、また足許が大変弱ってききましたので外出も余り出来ません。家に引き籠りテレビを見ている状態でございます。

また、遊びにきてください

竹本 洋

卒業生の皆さん元氣で活躍のことと思ひます。昨年度、一年間、アイルランド共和国へ留学し、大学を留守にしました。帰ってまだ日はたっていないのに、遠い日のことのように、かの地での生活が思ひか

今年のゼミは四年、四名（内、女子一名）、三年、六名（内、女子一名）で、漱石の『坊っちゃん』をくわしく読んでいます。

ゼミ短信

都市問題の性格と 経済成長の功罪を テーマに

倉辻平治

私のゼミには、三年、四年生がそれぞれ二十五名参加している。

ゼミの研究テーマは、二年生「都市と人間」、四年生「経済成長の功罪」で、特に三年生には、各自の居住都市の地域社会としての住み心地のよさを中心に、今日の都市問題の性格を研究してもらっている。

最近のゼミナールを通して考えられる問題の一つは、ゼミナールの場におけるゼミ生と

えされます。日々追いたたられるような気持ちになり、無為に過してしまふのは、小生の怠惰のせいでしょうが、自分を取り戻したいと強く思うこの頃です。ゼミナールは、D.Humeの本を輪読しています。あいも変らず時代離れしているといわれそうですが、そう笑わずに、また拙宅にでも遊びに来て下さい。（一九八三・六・九）

教員、また、ゼミ生相互間のコミュニケーションを育成してゆくことの難しさということである。ゼミ合宿やゼミ旅行の折にはきわめて楽しく相互間の交流がもてるのに、一たんゼミ教室の場に戻ると、ゼミの研究テーマについて活発に発言し、意見を交わしあうという風には仲々ならない。こうした傾向は私のゼミだけではなく、他の先生方のゼミにも多少とも同じような雰囲気があるらしいが、毎年同じような問題を抱えてゼミ生を送り迎えている今日此の頃である。

ゼミOB会

第十一回倉春会に 六十余名が集う

倉辻ゼミ

大阪経済大学ゼミナール同窓会の中で、ひととき長い伝統と、その規模の大きさを誇る倉春会が本年も七月十六日（土）、新阪急ビル

ゼミ短信

中村純幸君の 追悼論文集発行

永野 仁

昨年一月亡くなった中村純幸君（四十六回卒）の追悼論文集を作っています。

内容は、中村君の卒業論文『原爆と永井隆』の抜萃、新聞への投稿記事、兄照年氏の思い出の記、それに同期のゼミ生たちの追悼文。この『澱江』が出るころには出来上っている予定です。

お求めの方は、経大内の永野研究室あて、往復ハガキでお申し込みください。頒価などご案内いたします。

十二階のレストラン・パレスにおいて開催されました。昨年は諸般の事情のため残念ながら休会になりましたが、本年は倉春会も十一回目を迎え、ますます充実し、遠くは北陸、四国、九州の各地から各界でご活躍中の諸先輩の方々が、ご多忙の中を多大の時間と費用をかけ、駆けつけられ、われわれ現役を含めて六十有余名のご出席をいただき盛会だったことはお世話させていただいたわれわれ現役学生として、非常に光栄に思いました。

会は、鈴木達郎先輩(29)の司会により開会されました。まず最初に、倉辻先生からご挨拶がありました。次に、倉春会には初めてご臨席いただいた同窓会の磯野斉会長よりお祝いのお言葉と母校創立五十周年のお話があり、ひきつづいて、倉春会の陶山知康会長(19)のご挨拶がありました。挨拶、挨拶、挨拶、と固苦しい雰囲気が続いていましたが、富山茂樹先輩(19)の音頭による乾杯を契機に、それぞれのグループごとに懐旧の念に浸りながら古き友情に花が咲いていました。会が進むにつれ、卒業回数ごとの同期生が壇上にあがったの自己紹介が始まり、いよいよ会は佳境に入ってきました。そのとき、倉辻先生に何かお話をいただきたいとのご指名がかり、久方振りの先生のユーモラスなお話に各先輩諸氏は昔を懐かしがられていたようでした。会も最高潮に達したところで、倉春会の一つの名物でもある北浦裕光先輩(41)のエンルに伴い、出席者全員が互いの友情を確かめ合うように肩を組んでの逍遙歌、学歌の大合唱

と乾杯のあとパーティーに移りました。パーティーが始まると、早速、今流行のカラオケによる自称歌手の歌合戦、そのあい間に各年度別のゼミ生と先生ご夫妻を囲んでの記念撮影、まさに、学生気分にもどりをしたひとときでした。

また、当日のアンケートの結果、松本ゼミOBの別称として「剛友会」が満場一致、拍手で承認されました。楽しい時間はアツという間に過ぎ去り、最後に、学歌、逍遙歌を斉唱し、次回の再会を約して第一回目の剛友会を閉会いたしました。

なお、末尾ながら、小西先輩からは金一封と自著の出版物のご寄贈を、また比企事務局長からは同窓会本部よりのお祝金をいただきましたことを、この紙面をお借りして厚くお礼申しあげます。

「剛友会」の役員は次の通りです。

会長：植村祐三(32)

副会長：上田公敏(33)、内山経子(34)

会 計：吉川康彦(40)、山西 修(44)

渉 外：中原保智(45)

〈追記〉
松本先生がご病身のなかから、十五年の歳月を費いやして、執筆された、「戦前、病身にも負けず『日本資本主義発達史』を著した」「野呂栄太郎」氏の伝記が刊行されました。本書は質的にも、量的にもまれにみるすばらしい著書でありますので、先生のご全快祝いをもかねご一読下されれば幸いです。申込は松本先生まで。

(植村記)

唱、そして現役生の前畑君が先輩から「元気がない」と気合を入れられての再度のエンル、最後に、万歳三唱でこの盛会を締めくくり、午後九時、第十一回倉春会は一応幕をおろしました。しかし、このまま終わらないところが倉春会の倉春会たるゆえんでもあります。出席者は、それぞれのグループに分かれ、二次会へと夜の町へ散ってゆかれました。

倉春会に出席させていただいたわれわれ五人の現役学生は、閉会の後、われわれも先輩諸氏を見習い、誇りある経大OBになることを目標としお互いにお互いの一層の努力をしなければならぬと堅く誓い合いました。

吉本 茂(22)記

ゼミOB会 松本ゼミOB会「剛友会」と命名し新たにスタート

松本ゼミ

昭和五十八年一月十五日(成人の日)、松本剛先生のゼミナールの卒業生一同が、初めて合同の同窓会を開催しました。松本ゼミの卒業生は、既に、三〇〇名を越えていながら、未だに二度も合同総会が開かれていなかったで、この日は本当に、楽しい懐かしい一時でした。

総会は新大阪駅の近く、江坂にある「ホテル・ダイトール」(中井秀嗣氏(32)が社長)に五十名を越える出席者が集い、司会の荒川匡生氏(47)の開会宣言で午後一時の定刻から



始まりました。まず、第一期生、植村祐三氏(32)から、今日の総会開催までのおいさつのご説明とゼミを代表してのご挨拶があり、次いで、松本先生より感謝のお言葉がありました。そして、松本先生ご夫妻に内山経子さん(34)より、われわれ一同の感謝の意を表する花束を贈呈しました。先生のお話の中で、特にわれわれの心に残ったのは、筆舌に尽しがたい長い闘病生活を具体的に初めてお聞きしたことでした。

引き続き、ご来賓として、当日ご臨席いただいた小西幸雄氏(井上ゼミ卒業生、27)のご挨拶、同窓会本部の比企事務局長のご挨拶

先生の近況

あのつらさ、今一度思い出して!

小林 龍一

卒業生の皆さん、お元気で活躍できるようにか。

私も本学に勤務するようになって二年。最初に使った英語のテキストがラッセルでした。その後、シェイクスピア、オー・ヘンリー、オーウェル、マークトウェイン、英詩入門、ヘミングウェイ、ゴールズワージー、ジー・グリーンなど、予習に追われながら、これまでやってきました。皆さん、苦しい時、悲しい時には私の授業のことを思い出して下さい。あのつらさを思えば、どんな苦難にも耐えられるはずですよ。

老書生の喜びは諸君との会合

藤谷 謙二

目下、小生は、大阪学院大学(大学院)に、非常勤講師として、週二回出講しています。心身の老化防止には最良の妙薬と張切っていますが、しかし年は争えず、ひそかに限界を感じています。

なお、老書生にとっては、時たまゼミ関係の卒業生諸君とめぐり会い、また、

会合を催すなどして、昔を語り、将来を論じる機会に恵まれることが、無上の喜びです。

最後に経大の一層の発展を祈ってやみません。

(六月十九日)

ゼミのみなさん、卒業生のみなさん

西口俊子

お元気で活躍のことと存じます。この欄にもすっかり御無沙汰してしまいました。

一九七四年春から七五年三月までのイギリス留学帰国直後の病氣と、二度の手術、それ以来の御無沙汰です。おかげ様で当方なんとか元気ですごしています。

今年の夏、北海道で学会があり、障害児問題ととりくんでいる池田正勝君(34)と会ってきました。彼はすでに三児の父親、十勝の山奥の廃校をかりうけ、隣に家をたててすごしていました。

当方すでに五十三歳、口と体重だけは人にひけをとりません。おひまの折には電話、ハガキ何でも結構、お待ちしております。

同期生 クラブ O B 会

第五回卒同期会四十三年目の再会「澱友会」と命名

昭和五十七年十一月十四日(日)、大阪市北区桜橋「北京」において、昭和十四年三月卒業以来四十三年目に同期会を催しました。建林、藤原、梅田先生のご参会を賜り、一日歓談、昔話に花をさかせ、夕刻解散しました。

同日、会名の議があり、数々の会名がありました。三先生に選定していただき、「澱友会」といたしました。

われわれの現状は左記の通りです。

| | | |
|-------------|-------|------|
| 卒業者数 | 一三六名 | |
| 戦死物故された方 | 四三名 | |
| 住所の分らない方 | 三四名 | |
| 当日参会者名(順不同) | | |
| 中島 薫 | 村上静夫 | 内藤直哉 |
| 和田 稔 | 重本月水 | 安井信治 |
| 清水忠文 | 長岡辰生 | 倉垣一郎 |
| 高野 寛 | 下川舜三 | 水谷 卓 |
| 福嶋 繁 | 芝田礼二 | 飯田三郎 |
| 阪本克己 | 綿谷三郎 | 中尾大輔 |
| 安田光雄 | 弾 英雄 | 岸本健蔵 |
| 須藤直哉 | 堀平八郎 | |
| 富山重一郎 | 木村清太郎 | |

はずれていたつながりのボタンをはめる会発足

「集る」ということはいいものだ。八期生ももう六十路を過ぎ、ほとんどの人が第二の人生……。これからこそが本当の意味での心をあため合う同窓生として、また、学友として会い、集い、そして、

しみじみとした語りあいをするときではないだろうか。

このような意図もあり、昨年からはじめた在京阪神在住の八期生有志の集りが、今年もまた、篠山の梶村君のお世話で、去る一月十六日(日)丹波篠山の「ぼたん鍋」で有名な「たかさご」で行われた。



篠山まで入るとさすがに冷える。幸いに快晴。今年集ったもの九名早速、旧篠山裁判所を改装し、つい先頃、開館した素晴らしい篠山美術館を梶村君の楽しい説明で興味深く見学。終ってその前で記念撮影。そして、すぐそばにある「たかさご」で待望の鍋をつつきながらの新年宴会がはじまった。

風雲急を告げる昭和十六年十二月に母校を巣立ってすでに四十二年……。その時の悪夢も集まると忘れてしまう。あの友この友、あの時、この時の思い出話に花が咲き、遠い過去のことであるのに、まるで昨日のことのように浮んでくる。いつ会っても、そんな青春の話は尽きることがない。

食べ、飲み、時に歌う……。ふと、次のような漢詩を思い出す。對酒當歌 人生幾何(酒に対してはまさに歌うべし、人生いくばくぞ)という中国は魏の武帝の短歌行の一節である。

このたび初参加の、神戸で著名な文化人の一人である、山本芳樹君から、同君の労作である「泰西の名画 エロス」の版画をいただき、あわせて彼の軽妙なエロス談議に耳を傾ける。

篠山の名士、梶村君からは、同

君の教え子で日展にも入選された丹波立杭焼の窯元、市野勝氏の作である菓子器にも、果物皿にも、また置物にも使える見事な、しかも、モダンな焼物の鉢が配られた友情に、料理に酔いしれた本当に楽しく有意義な一日であった。

この会は毎年一回篠山に集り、そして毎年、今日のような丹波焼を、趣向を変えて配ること、また「ぼたん鍋」を囲む会ということさらに、いままではずれていたお互いの間のつながりのボタンをはめる、という心をかけて「八期生ぼたんの会」と名づけることをきめた。

「折角、近くにいるのに、集まれる時に集ろやないか」となんとなく集ったのが、このような会に発展した。嬉しい限りである。

まだ誘いをかけていない在京阪神の八期生の方々、お許しあれ。この心あたたかい友情を持ち続ける集りにお出掛け下さるなら、どうか一声かけていただきたい。

来年もまた一月に集まる積りである。

今回の参加者は左記の九名であった。

- 梶村、長尾、田中(史)、谷川(徳)、琴野、山本(芳)、大橋

見拝店のお生の窓同

「割烹 千鳥グループ」

「食べ、飲み、歌う」
幹事さん、おまかせ下さい
三十八回卒 中村 勝治
古い寺社、銅器とアルミ生産で知られている北陸の城下町高岡市。その高岡で一番の歓楽街といわれている桐木町(北陸本線高岡駅下車、歩いて三分ほど)の一角に、いきな三階建のレジャービルがある。それが老舗料亭の雰囲気と料理のよさを残しながらも、お客様本位の低料金、大衆割烹へと方向転換をした「千鳥」です。

一階は、いろりを囲んで、海の幸、山の幸を肴に一ぱいという「炭焼料理、いろりの里」二、三階は「割烹・千鳥」として、六十人入れる大広間をはじめ中小座敷があり、会席料理、鍋物、すき焼、しゃぶしゃぶ……とご要望に応じた料金でお引受けしております。

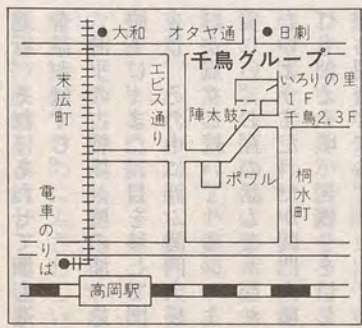
当店の自慢は、なんといっても、日本海をいけすとした新鮮な味覚です。

また、隣接している「炬燵た焼・陣太鼓」は「いろりの里」同様、民芸調の中で、低料金で、思う存分食べ、飲んでも予算を越えることはないようサービスしています。

さらにまた、ヤング向けにジョイレスト・アンド・パブ「ポワル」も開店しました。ご家族の団欒の場に、恋人、同志の、友人同志の、また、職場の懇親の場に、宴会に、コンパに……それぞれの店をご利用下さい。

百聞は一見にしかず。各店ともご来店をお待ちしています。

千933 高岡市桐木町三二
☎〇七六六一二一一三三三三三



稗田、柴田（真）

（順不同）

この記事を書くにあたり、長尾君の絶大なご指導のあったことを厚くお礼申し上げます。

源平の古戦場に 懐かしい顔と顔集う

第八期生会

顔、顔、顔、懐かしい顔ばかり、去年会った顔、卒業後四十数年振りの顔、そして、今日見えない永久に会えなくなった顔が目に見え、昭和十六年十二月卒業、この月の八日に大東亜戦争が始まった。殆どの者が、卒業後一カ月前後のうちに入隊した。従軍、終戦、再建、われわれの青春はこの渦中にしかなかった。あるいは、これ等の中を生き抜いたことがわれわれの青春だったのかも知れない。学生時代、近藤先生の心理学に「人生に青春は二度くる」とおそわった。一度目は若い頃に、そして二度目は五十代にこのことだった。若い頃に失敗しても二度目の青春に目的を成し遂げる人も多いと聞いた。また、誰かがいった、若

（柴田真典記）
なお、当会へのご連絡は

者とは恋と、名誉のために死ぬことのできる者だ」と。



有馬の湯煙に 思い出話の花が咲く

九期生の集い（57年）

私たち、旧昭和商九回卒業生は昭和十五年四月、大隅の里に高く聳え立つ学園に入学し、五クラスに別れ、二年半勉学に、精神修養に、体力作りに励み、互に、切磋琢磨した学友二六四名。昭和十五年は、既に、日中戦争、翌十六年十二月太平洋戦争に突入、

若い頃の青春は戦争の中に消えた。そして、二度目の青春も仕事の中で力一杯生きて来た。八回生も齢六十を過ぎた。それぞれ顔に、「俺は精一杯生きてきた」という自信と満足の喜びがうかがえた。六月四日（土）、五日（日）、第八回生の同窓会を下関市の火の山公園内、国民宿舎「海関荘」で持った。午後六時開会。ご来賓として河野先生（民法）、同窓会より磯野会長にご出席をいただいた。まず、河野先生のお話、昔の民法の講義が思い出される名調子。続いて、その人柄をしのばせる温厚なお話

し振りの磯野会長のお話しと会も進行、それにあわせて酒も進み、昔話のはずむ。源平の古戦場、壇の浦の急潮を眼下に、また、目を移して関門の夜景、その中に浮ぶ関門大橋の外灯が点々と続いてリボンのように美しい。お互の話もなかなか尽きないようだったが関門大橋の外灯も消える頃、名残りを惜しみながら閉会とする。

世話人 小林和人
藤本青山
峯 連
串田 一

その八〇名が卒業以来四十年を迎えたのを契機に、毎年、その場所をかえ集会を持ってきた。八回

目の今年は昭和五十七年十月二日（土）、日本三大銘泉の一つといわれる神戸・有馬温泉で開催した。当日は雨あがり、たちこめる霧と、源泉から絶え間なく噴きあがる湯煙と、秋の色づく紅葉との調和する眺めは温泉町ならではの素晴らしい情緒である。午後四時、温泉神社下の有馬ロイヤルホテルに出席者二十五名が集まる。

午後六時、宴会が始まり、今回は懐かしい寺尾先生ご夫妻、藤原先生、そして磯野同窓会会長のご出席をたまわり一層の盛りあがりを見た。還暦を迎えた私たちが互に過ぎたこの一年間の語り合いに意義深いものがあった。出席されなかった人々の消息、家族の話、過ぎし学生時代の思い出話、命をかけて戦った戦地の話、そして終戦、復員から今日までの苦労話。飲むほどに町のネオンの輝きとともにざわめきを増す。やがて九時過ぎ。夜の街をよそに黒正学長をしのび、声高らかに旧高商の学園歌を歌い宴会は終る。

一夜明け。障子を明け、入ってくる朝の光とともに、それぞれに

起き、有馬の湯に体を沈めてモーニングスプリング。私は朝霧が立ちこめる早朝の温泉神社の一四

段の石段を駆け登り、有馬の町が一望出来る公園で胸一杯に深呼吸しながら遙かなる播州、丹波の山々を眺める。

八時、全員そろって山菜料理の朝食。昨夜来の尽きることのない懐かしい思い出話は続く。灘の生一本を友とし、有馬の味覚を堪能し、九時、次回、名古屋での再会

鶉飼見物中止となるも 同期が集えば愉快なひととき

第九回卒業同期生会を 岐阜、長良川で行う（58年）

第九回卒業の同期生会開催回数、今年で第九回目になるのを記念して（？）、従来、関西地区（ほとんど有馬温泉）で行われてきましたこの会の気分転換をはかる意味もあり、また、前回の総会で次回開催地は「東海地区」と決定しましたので、今回は、「東海地区」在住者が幹事をお引受けしました。そして、「同期生会」というものは、

を約して解散する。

追記

九回卒業生の皆様お元気ですか。毎年同期生の集いを持ち、今年で八年目、次回は名古屋、そして昭和五十九年は十回を迎えますので盛大に開催したいと計画しています。

まだご出席の機会がもてなかつた方々も是非ご参加下さい。同期生一同お待ちしております。

有意義、かつ、より親睦を深めるために、一堂に会し、酒杯を交わし、語り合うのも会の一つのあり方ではあるが、それだけではいささか芸がなさすぎるのではないかと、この西沢敏夫兄の提案により、今年の総会は、長良川の「鶉飼見物」に決定しました。

夏の風物詩の「鶉飼見物」は、格好な試みではありますが、(適旅



館を七月中旬の土曜日に予約することはなかなか困難なことなので、はやばやと三月初めに岐阜地区在住の三名の同期生に第九回九期生総会設置についての依頼がありました。われわれは、数軒の旅館と交渉しました結果、やつと七月十六日（土）の「鶉飼見物」の醍醐味を満喫するのにふさわしい鶉匠経営の旅館を予約し、準備万端を終えて当日を迎えました。ところ

が前夜来からの雨は、長良川上流に集中豪雨をもたらした。その結果、増水のため乗船見物が危険だといふことで「鶴飼見物」は中止となり、無念の涙をのみました。しかし、お祭に御輿のない同期生会にひとあじつけてくれたのは、鶴匠が昔をしのばせる古風な服装、結束をして、鶴匠のたくみな手繩さばきで、生きた鶴をあやつつての実演、鶴飼の由来、鶴飼の漁法等の説明でした。

さて、残念ながら「鶴飼見物」は中止になりましたが、懇親会は、緑豊かな金華山と清流長良川を望む部屋で、杯を傾けながら学生生活の思い出、恩師の思い出、現代生活に対処する処世訓等を、何も気どらずに同期生の気やすさからフリーに語りあった、楽しい一時でした。

また、二次会も有志(十五名)が、一団となって、柳ヶ瀬(柳ヶ瀬ブルースで有名な岐阜の代表的な繁華街)のスナックへ出かけ、軍歌や演歌を歌ったり、また、ダンスを踊って若者(?)のエネルギを発散しました。本当に楽しい一日でした。

最後に、同期生幹事の一人としての感想は、参加者全員が、元氣

でバリバリと活躍し、青年のようなロマンがあり、生きることについて力投球をしているさまがありありとみられたこと、そしてまた、

武者小路実篤氏のように、八十八才になっても「童となれ、雲自づと来たる」と色紙に書けるほどの覇気がうかがわれたことが非常に印象に残り、われわれ九期生一同がますます団結を固くして母校の発展のために協力するともに、人生を悔いなく、愉快に、かつ、元気で過して欲しいということです。

お暇な時に、一度、「鶴飼見物」としやれこんでみてはいかがですか……。

出席者は
 恩師 寺尾宏二先生(八十才)
 関西 十二名 中国 四名
 関東 一名 北陸 一名
 東海 五名 計二十四名
 でした。



母校への愛校心と協力を かたく誓いあつて

十一期生会

今年の十一期生会は、昭和五十八年二月十八日(金)午後六時よりおなじみの「山中荘」において開催しました。当日は昼間からの台風なみの強い風がまだおさまらない悪条件でしたが、幸いにも、恩師、藤原先生をはじめ、同窓会から磯野会長、比企事務局長のご臨席をいただき、出席予定十九名が参集して盛大に開催することが

できました。

会は桑津兄の力強い挨拶ではじまり、藤原先生の学園の近況についてのお話があった後、磯野会長からは同窓会の現況と、特に今年には母校創立五十周年にあたり、その記念事業にかかる募金活動についての協力要請のお願いがありました。また、比企事務局長からは母校の現状と将来についての愛校心の発露を熱烈に訴えられたのが強く印象に残り、われわれもこれからの母校のあり方を注目すると同時に、できる限りの協力をしたと、一同心に誓いました。

その後、魚すき鍋をつつき、盃を取交しながら、同期生諸兄の近況を折り込んだ自己紹介に耳を傾け、かつ、笑い、在校当時の思い出話がでるころには宴も一段と盛り上り、同期生会ならではの和やかさに満ち溢れていました。

名残りつきない集いではありましたが、本日決議をした、今後同期生会の毎年開催に期待しつつ、午後九時半頃、河津兄の先導で学



同窓生のお店拝見

松阪肉の 「和田金」へ

十六回卒 松田 和祐
 松阪といえは伊勢志摩への玄関口であり、蒲生氏がひらいた城下町でもあり、また、国学者本居宣長生誕の地でもある。

その松阪で「和田金」といえば、もちろん、知らない人はいない。今では、松阪の「和田金」ではなく、日本の「和田金」として、その名をはせている。

松阪駅(国鉄、近鉄)より歩いて約八分のところに、その歴史を物語るような三階建のお店がある。明治初期の創業という老舗、とろけるようなおいしい松阪肉を食べさせてくれるお店であることは皆さんもご存知でしょう。広大な牧場に、常時、二千数百頭の牛を和田金独特の方法で飼育しているところに「肉の和田金」といわれるゆえんがあるといえるのでは……。

牛肉料理ならば、すき焼、



しお焼、あみ焼、サシミ、ステーキなど、どのような要望にも応じてくれます。
 「和田金」の肉はおいしいが、お値段が……と思案されるかたは、そこは同窓のよしみて社長とお話しをしてみても下さい。きつと経大の「融和」の価格で……ということになるのでは……。案するより産むがやすし、といえます。
 百名収容の大広間、百台以上駐車可能な駐車場も完備されていますので、一度、是非、お立寄りいただき、日本の「和田金」の肉をご賞味下さい。
 〒515 松阪市中町一八七八
 ☎〇五九八二二一三二九一

同窓生のお店拝見

「小まん」

「おいしかったな・安かったな」

四十一回卒 飯山 定宏
 大阪、南で創業六十一年の老舗に若者思考をとり入れた店。それが「小まん」です。

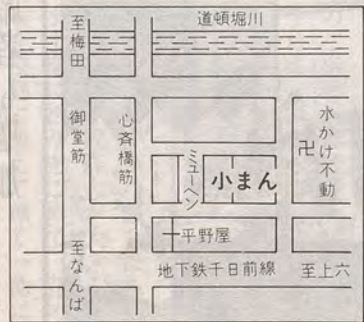
若いお客様にも楽しんでいただけるようにと炬ばたふう料理を中心にメニューも五十種類ぐらい用意し、そして、

安心して食べていただけるようを明示しております。また、各種鍋料理、会席料理などもご予約にあわせてご用意させていただきます。

初めてご来店のお客さんに、また、古くからのおなじみさんにも「安くて、うまい」と喜んでいただいています。

一階は二十七人ほど、二階は座敷になっており、ご宴会、ゼミ会、クラブ会あるいは現役のコンパなどができますので何なりとお申付け下さい。

経大のラクビー部、サッカー部には毎年ご利用いただいで



おります。
 特に、材料には新鮮なものをと気をつけております。しかし、何といたってもお帰りになるときに「うまかったな、安かったな」という満足感を保持していただくことが、われわれお店をやっているものには一番大切なことだと思っております。
 南へおでかけの時、是非一度お立寄り下さい。お待ちいたしております。
 〒542 大阪市南区難波一―五
 一八
 ☎〇六―二二―一四四九

園歌の斉唱と大阪経済大学の万歳三唱をし、次回の出席を約して友情と愛校心をみやげに散会いたしました。

当日の出席者
恩 師、藤原先生
同窓会本部、磯野会長
比企事務局長

花開け！大経大 大盛会だった16〜19回合同同窓会

この百名を超える大合同同期生の報告の前に十六〜十九回（昭和二十五〜二十八年度卒）について、話しておかねばなるまい。昭和二十二、二十三年といえは、敗戦直後、学園でも、まだ、軍服で通学する学生もあつた頃である。むろん、食糧事情は最低、こういつた時に、入学したこれらの回の面々は、文字通り労苦を共にした仲間の集団であつたといえよう。昭和二十二年、昭和二十三年に大阪経専へ入学するや、そこには新制大学への昇格という難題が控えていた。かれらはこの難問に真剣に取り組み、学長に黒正先生の出馬を実現させ、戦災でボロボロの校舎を少しでもきれいにしよう

井上 豊、岩谷宣治、乾 数匡、伊東 俊、大島善男、榊原二郎、石橋 明、坂上光一、伊達公之、河津 実、武田 正、土屋謙一郎、津田 顕、宮脇和夫、三間雅美、北条 仁、村田吉司、筒井英夫、桑津 昇
世話人 桑津、筒井記

と努力し、時の自治会は大学昇格の条件であつた独立図書館の基礎工事まで学生の手によって行つたのである。校庭の草むしりなどは、毎日の日課であつた。その結果、視学官の審査も無事(?)に終り、昭和二十四年に大阪経済大学は、みごと、誕生した訳である。こうして、二十二、二十三年の入学生は一部はそのまま十六回、十七回生として旧制最後の卒業生となり、他は十八、十九回生として新制大学の最初の卒業生となった訳である。さて、昨年九月十九日(日)午前十一時より、この合同同窓会が開かれ、約百名の同窓生と十名近い先生方が山中荘で一堂に会した

創立33年、出席者も増加

商業建築研究懇談会近況報告

当会も創立以来三カ年を迎え、会員相互間の連携も益々緊密の度を加え、例会出席者の数も増加の一途をたどり、盛会裡に行いたしております。

今年も、七月八日(金)、九日(土)の両日、夏期七月例会を淡路島、阿那賀の「うめ丸」で行い、参加会員は十社、十二名を数え、情報交換や懇話会の活性化を計る意見等が百出して有意義な例会となりました。

また、懇親会は名物「鯛の活造り」を賞味し、鳴門大橋の工事並びに観潮等、日常の繁忙を忘れ英気を養う一日でもありました。

なお、特に、本年は商業建築関連の企業に勤務し、あるいは、関連の事業を経営しておられる大阪経済大学同窓生が、お互に業界関係の諸情報の交換、あるいは商業施設等の開発事業にたいする参加等について討議、促進を計り、有意義な一日でもありました。



同窓生諸氏の当会に対するな
お一層のご支援、ご協力をお願いする所です。

最後にこのような業種にご従事同窓生の皆さんは是非本会にご参加下さい。ご連絡をお待ちしております。連絡先は左記の通りです。

(副会長 柴田真典記)



様は、正に圧巻そのものであつた。ここまでくるのには、約半年前より大型の発起人会を発足させ、数度にわたる打合せ会と綿密な動員計画を立てて努力を重ねた多くの同窓の滅私のご奉仕があつたことは見逃せない。

会は型通り、鈴木学長の大学近況のご説明と本学創立五十周年事業への協力依頼のご挨拶で始められたが、この日、これだけの同窓生が集つた記念と、卒業後三十年を経た感慨とを表すため、会費の一

発足の「ごあいさつ」にかえて

尼崎市役所同窓会
「大樽会」発足

私達、尼崎市役所に勤務する同窓生の長年の夢でありました「大樽会」が、ここに誕生いたしました。

昭和五十八年四月十五日(金)尼崎市総合文化センターにおきまして発足総会を盛大に開催いたしました。

総会は、まず、設立に至る経過報告に続き、会則、事業計画予算案、役員を選任などを議題として審議の結果、全て異議なく承認されました。

その後懇親会にうつり、尼崎市議会議員高岡一郎氏の乾杯に始まり、尼産ビルディング(株)社長、平沼勇吉氏(33)のごあいさつ、母校からは山本晴義教授のご祝辞並びに大学の

近況報告をいただきました。

また、総会に対しまして、野草尼崎市長をはじめ、本大学同窓会西宮支部長でもある八木西宮市長からなど、多くの祝電をいただきました。

本会は、会員総数九十数名ですが、当日は約半数が出席し、発足の喜びのなかで、美しいコンパニオンに囲まれ、美味な料理に予定の二時間の総会は心を残しながら終了しました。

なお、合同同窓会設立につきましては、過去に幾度か先輩のご尽力があり、こうした土台のうえに実現されたものであり、先輩の強力なご支援に感謝申し上げます。また、同窓会本部事務局にも格別なご協力を賜りました。この紙面をお借りいたしまして厚くお礼申し上げます。



今後は「大樽会」をさらに発展させていくことこそ、私達の使命であるとともに、母校の発展につながるものと確信いたしております。どうか、より一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。発足の「ごあいさつ」といたします。

鶴田 茂(40) 記

あります。なぜなら、新制大学の実現に献身した我々には、経大は我々が作ったという自負があるからであります。我々の学校の発展が何時も気にかかるのは当然であります。

ります。わずかな額ではありますが、我が子校経大が大きく花開きます様に祈りをこめて、花の咲く木を校庭に植えて頂く一助にできれば幸せであります。

続いて鈴木学長、磯野同窓会長と、遠方より参加された同窓数名に依る樽の鏡わりが景気よく行われ、磯野会長の音頭で乾盃が行われた。

参会者の中には、逍遙歌の作者、中村行男氏もおられ、歌詞の朗読の後、当時の秘話として「この歌詞は、確か、懸賞募集だったはずだが、いまだに、賞品も、賞金ももらった覚えがない」と軽妙な話しぶりに一同爆笑の一幕となった。また、ご来賓の先生方よりなつかしい話し振りによるご挨拶があり、特に中村先生の「同窓会こそ、私学の根幹、もつと学校に對していい事をいうべきだ」と熱のこもったお話に一同感銘しきりであった。

片手に水割り 片手にマイクの青年たち

春とはいえ肌寒い三月十三日(日)、私たち経大二十回卒生(はたちかい)第二回同窓会を江坂の「ホテルグライト」で行いました。当日は折あしく、朝からの雨で



大阪経済大学二十回同窓会

出席者全員の紹介の後、かつてのクラブの仲間が次々と登壇、その数は、こんなにクラブがあったのかと驚くばかり。スポーツ関係はもちろん、劇研、映研、哲研と各クラブとも、意気天をつく紹介ぶり。このあたりになるとアルコールの後押しも手伝って会は最高潮となり、合唱部が当時新しく出来た学歌を歌うと、全員が立ち上つての大合唱となり、逍遙歌も歌おうとの声に、五十代の青年達は一つの輪になった。その様子は往時のファイヤーストームを思わせるものであった。

こうしてなごりも尽きぬ中、万歳を三唱して、再会を約し、この会を閉会した。時に、午後四時であった。遠方よりのご来会は如何と心配致しましたが、定刻には出席予定者(十二名)が全員集り、あちらこちらで一年ぶり、あるいは卒業以来のごぶさたの挨拶をかわしているうちに、定刻十一時三〇分になり、打出幹事の開会挨拶を皮切り

話になった先生、諸先輩の面影を懐しく思うかべました。その後幹事苦心のパーティ会場に席をうつし、片手に水割り、片手にマイクと自慢の喉を披露し楽

しく時をすごしました。特に、歌手に転向してもよいような打出幹事の歌声は、大いに会を盛りあげてくれました。そうこうしているうちに楽しい時間は過ぎ去り、三時前に次の再会を約して散会いたしました。二十回の卒業生の皆様、今回は三月という事で事業をなさっている方、また会社での期末決算等でご多忙の頃となりましたが、次の第三回は十一月に予定しております。是非ご参集頂き近況をお知らせ下さい。幹事、打出、井上、西仲記

第二回旧昭和高校剣道部OB会開催 大阪経大剣道部OB会と連携なる

八回卒 梶村 文弥

昨年、待望の発足をした大阪経済大学(旧昭和高校)剣道部OB会を、なんとか充実し発展させたものと、その後、紀伊さん(ア)といろいろと画策してまいりました。なにぶん、当時の部員一人、一人を網の目を拾うように消息を尋ねていくわけでありますから、思うようにはなかなかかどらず、

初回には、やむを得ず名簿も不十分なままでスタートいたしました。しかし、お陰さまで、昭和高校時代に剣道部があった昭和十三年卒(四回)から二十一年卒(十二回)一終戦までの皆さんの様子が、大体わかってまいりました。そこで、毎年少なくとも一回は会合を持つと約束してまいりましたので、紀伊さんと相談のうえ、昭和五十七年十一月十四日(日)、場所

開設二十三年を迎えた学生寮

昭和三十六年に開設された学生寮は今年で二十三年を迎えました。この間、学生寮で親交をあたため、苦楽をともにして巣立った人材は一六〇〇名を数え、今なお横の連絡をとりながら、それぞれ社会の第一線で活躍しておられます。入寮の日を含め一週間というものは、寮ガイダンス、記念撮影、懇談会、クラブ紹介、歓迎会、講演会、ティーチ・イン、グループ・ダイナミックス、学歌練習など、まさに昼夜にわたるオリエンテーションが続きます。それによって入寮時の緊張とわだかまりが完全にときほぐされ、十年來の知己のような人間関係が生まれてくるようです。その時の感想文を綴った小冊



子「かがりび」も、はや十二冊になり、寮生の青春の記録にもなっています。また、五十五年には、「寮開設二十周年」を開催し、「寮友」と題する住所録も発行されました。寮OBの皆さんも上阪された時には、気軽に立ち寄ってほしいとのこと。学生寮の電話は〇六一三四九一六八五です。ご参考までに

(編集委員)

に、自己紹介が始まり、いっぺんに社長、課長など関係のない間柄の三十年前の青年に逆もどりました。

また、学校からは大槻先生、同窓会からは比企事務局長のご出席を頂き、学校の近況、同窓会の現況等のお話を拝聴し、在校時お世

見拝のお店の窓同

「富士旅館」

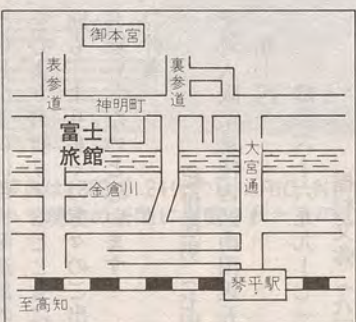
「こんびらさん」楽しい旅情がお待ちしています

二十九回卒 高橋 良典
金刀比羅宮といえは、あの石段が、まず、思い浮ぶことでしょう。車止めから大門まで三三五段、大門から本殿まで四二〇段、奥社詣まではさらに五八三段の石段、一度おまいりした人には忘れられない風物でしょう。

その玄関口は琴平(国鉄、琴電、琴電バス)です。この玄関口から表参道への中間にひときわ目をひく「富士旅館」があります。バス一〇台、乗用車五〇台を収容できる駐車場があり、四十畳の大広間からアベック用の小部屋まで、どのようなご要望にも応じられます。

「こんびらさん」へおでかけのときは、ご宿泊に、ご参詣のご休息に是非ご利用下さい。ご家族のご旅行に、ゼミ旅行に、会社研修旅行に、また、クラブの合宿に……お待ちしております。

ご予算などにつきましては「融和」の精神でサービスさせていただきます。また、当館直営の「無松庵」の一刀彫を「こんびらさん」参詣のお土産にいかがですか。千766 香川県琴平町参宮通り 〇八七七七五―二二四五



も前回と同じ神戸市の六甲荘で、第二回目を開催いたしました。

当日は、前回に引き続き、宇部から福永(吉松)(6)、東京から阿部(英)(6)の両先輩が「いくら忙しくて、この会にはぜひとも出ることにしているんだ」とご出席いただきました。ありがたうございました。また、二十数年ぶりでお会いできた高尾さん(7)、本心に懐かし、堅い握手を交したことでした。会の進むにつれて、それぞれが自己紹介をし、人生を語り、歓談は尽きず、感慨ひとしおのものがありました。

そこには、タイムトンネルを抜け出た青年剣士たちが、するどい気迫で打ち合う姿が二重映しに浮んでくるようで、青春の一時に立ち帰り幸せな数時間を過ごすことができました。



ところで、今回は、大阪経済大

世話で大阪経済大学柔道部の現役会およびOB会が、既に、組織されておられ、そのお陰で容易に連絡をとることができました。そして、これを機会に、旧昭和商および大阪経済大学現役、さらにOB会の友誼をはかるため、旧高商のOB会会長、副会長、並びに、現役監督、主将の出席をお願いしましたところ、当日はそれぞれご多忙にもかかわらず、東京、長崎、富山、宇和島などご遠方からもご参加いただき、出席者は十七名にもなりました。

最も嬉しかったことは、当時、柔道部長で公私共にご指導をたまわりました寺尾先生(八十才)が是非皆に会いたいとお元気でご臨席をいただいたことです。

当日は午後四時集合ということ、世話役の私も皆さんと四十年振りの再会とあって、やや緊張がみでしたが、お会いしてみればその心配もなく、年はとれども、声も、動作も、昔の面影があり、早速、「やあやあ」「元気かね」と、広間でそれぞれ持参された思い出の写真や試合の記録帳などを出しての談笑。午後六時、全員が集り、記念写真を撮り、宴会の前に戦災に散華された方々、また、物故さ

学剣道部OB会として、将来の発展を図るため、大学になってからの組織と連絡をとることにしました。

戦後しばらく、剣道は、GHQにより禁止されていましたが、間もなく、スポーツとしての性格をもつて復活し、今日の隆盛をみたのであります。

したがって、母校でも、昭和三十七年卒(二十八回)、三十八年卒(二十九回)の方々が入学されてから、同好の者が集まって練習が始まり、次第に剣道部へと発展し、再び、活発な活動を続け、輝かしい実績をあげているわけであります。

すでに、従来から、大阪経済大学剣道部OB会は結成されており、大学剣道部振興のために尽力されていると聞いていましたので、松尾会長(29)や役員の方々に、われわれの会の主旨や内容をお伝えし、当日の会に参加を呼びかけましたところ、心よく承諾され、会長をはじめ監督と現役の主将も含め、五名の出席を得ることができました。

このように、時代の異なる者たち、時を越えて懇談できましたのは、同好のきずなで結ばれた剣



れた方々に哀悼の意を表し、黙禱を捧げてご冥福を祈りました。つづいて、京美人を交えての宴会に移り、まず、寺尾先生のあの張りのある昔と変らぬお声でのお言葉

そして、各自の卒業後の戦中、戦後を通じての今日までの激動を切抜けてきた人生の足跡などをかねた自己紹介、さらに、昭和十四年大阪学生連盟柔道大会で初優勝と、優勝旗を大隅の野に高く掲げ、男泣して喜びあった思い出話、つらかった練習の厳しさの中にも喜びのあった合宿の話、柔道部歌を歌って武徳殿に駒を進めた遠征の話などなど、盃を交して語り合う数々の尽きぬ思い出に時間の過ぎるのも忘れていううち、はや午後九時。

最後に早川さん(7)の音頭で声高らかに懐かしい柔道部歌を、そ

道部OBだからこそでしょう。

こうして、昭和商剣道部OB会は今後も継続していくこととし、会員は、大阪経済大学剣道部OB会名簿に登録されることになりました。相互の親睦と交流が期待できる土台が造られましたことは誠に同慶の至りであります。

なお、師範の土田博吉先生と顧問の寺尾宏二先生は、それぞれご出席のご予定でしたが、止むを得ぬご事情でご欠席になり残念でした。「来年は必ず出席したい。皆さんによりよくお伝えください」とのことです。

昭和商柔道部員 全国から駆けつけ、四十年振りの再会

九回卒 南部 俊一

昨年十一月三日(文化の日)、大阪経済大学創立五十周年を祝う同窓会総会で真鍋さん(7)にお会いしたとき「当時、大阪学生連盟柔道大会の真紅の優勝旗を母校に残して第二次世界大戦の戦線に参戦した若人も、今や還暦を迎える年令になったが、母校の五十周年を記念して、一度集まっては……」

ということになりました。

春の日ざしはあくまで柔らかく、賀茂川河畔の桜が満開の四月九日(土)、その当時、龍虎相撃ち、若き血潮を燃して戦った、京都平安神宮裏の武徳殿に近い思い出の地、聖護院の旅館「みづの」において、旧昭和商柔道部員が四十年振りに再会の集いを催しました。幸いにも、萩原さん(10)のお

準硬式野球部の山本君がブラジル遠征 全日本チームの四番として大活躍

本年六月二十一日より七月十日にかけて、全国の大学の各リーグより選ばれた精鋭二十名によって編成された全日本準硬式野球チームがブラジルへ親善遠征を行いました。そして、ブラジル・ナシヨナルチームを中心に各地で十試合を行い、七勝一敗二分の好成績を残して帰国しました。全日本のメンバーに選ばれて参加した、わが経大代表

(山中良夫記)



AO JOGO!
OS JAPONÊSES
CHEGARAM

Os japoneses, nossos adversários desta Temporada Internacional de Baseball, chegaram e já deram a demonstração de todo o seu poderio no treinamento que fizeram ontem, no Estádio Municipal do Bom Retiro. O desembarkage da Delegação Universitária do Japão, foi no manhã de 4.º feira última, com recepção dos dirigentes paulistas e do Japão. Restaurantes, hotéis, Kioski e auto-hospedados no Fuji Palace Hotel.

写真は1983.6.24付のDIARIO NIPPAKという現地の新聞に掲載されたものです。

して、大阪経済大学及び柔道部OB会の発展を祈念しての万歳三唱をし、再会を約してふけゆく京の街をあとにしました。

当日ご出席の方々は
寺尾先生、早川、真鍋(7)、近藤(8)、武川、堀江、吉田、南部(9)、浜永、萩原、柏井、金川(10)、児玉(現監督、30)、吉田(OB会会長、24)、逸見(OB会副会長、26)、武井(現役主将)、なお、清水(5)、杉浦(8)は当日になって所用のためご欠席でした。

名選手の陰に名OB、一堂に会す 創立五十周年のOB総会

卓球部

昭和五十八年二月十二日(土)午後六時、箕面観光ホテルにて大阪経済大学卓球部創立五十周年OB総会記念式典が開催された。
大阪経大卓球部は、藤原光治郎教授、松山総監督の名コンビのもとで、連続して関西学連の一部に属し、その名を知らしめてきた。入学当時には有名選手が少なくとも、一旦入部すれば、無名選手で

柔道部部長

一、春繚乱花の匂い
快樂に耽ける渾沌の濁世の巷他所に見て
血潮に染めし青畳の栄ある歴史守りたる
健児か意気の高き哉
戦場月の冴ゆる時
覇業を成せし丈夫が
譽の剣抜き持てば
武士道の華燦として
譽は永劫に輝かん

あつたものが、藤原先生、松山総監督に必勝の信念をうえつけられて、関西学連の一部を席巻するよくな名選手に育てあげられる。

これはなかなか至難のわざであり、これを成し遂げられてきたことは、偉大な功績であると思う。さて、当日集ったOBたちは、現役時代、藤原先生、松山総監督のもとで栄光の伝統を担って黙々と、懸命に練習に励み、輝かしい

歴史をもつ卓球部を支えてきたものたちである。そして、OBとなつてからは自己の業務に精進し、事業を成功させ、また、子弟を養育し、後輩を指導して社会に貢献しているものばかりでもあつた。今日、ここに、たゆまず大阪経大卓球部を陰ながら支え、現役を激励してきたOBたちが、一堂に会したのを目のあたりに見て、私は、同窓会の磯野会長、比企事務局長の心情を代弁して挨拶をさせていたのだが、うれし涙で眼頭が熱くなるのを覚えた。

長年にわたり卓球部に貢献された藤原教授が特任教授になられたのを機に顧問に就任され、香川尚道助教授が新部長に就任されたことを知り、新しい血が導入されたことを喜ぶとともに、新部長のもとで、さらに躍進されることを祈念した次第です。香川新部長が藤原先生以上に部員をいづくしみ、大阪経大卓球部の名声を、名実ともに、ますます高揚されんことを念願いたします。

卓球部現役の諸君、これからも松山総監督の厳しい激励の声がとぶことと思うが、諸君らを見守るこのようなOBたちの温い心情を忘れることなく、また、輝かしい伝

統を汚すことのないよう、公私ともに精進されんことを希望するとともに今後の活躍を見守つてゆきたいと思う。

最後に、当日、ご祝電をいただいた世界卓球連盟会長代理、日本卓球協会専務理事、萩村伊智朗氏、日本卓球協会副会長、大阪卓球協会会長、山本弥一郎氏、日本学生卓球協会副会長、関西学生連盟会長、西山恵之助氏をはじめ皆様方に、この紙面を借り厚くお礼を申しあげます。

(九回卒 武川 茂夫記)



OB、現役和気あいあいの ハンドボール合戦

ハンドボール部OB会再発足 OB会会長 鮫島 圭

昭和五十八年四月十七日(日)、母校でハンドボールOB懇親会が開催された。あいにくの雨天で参加が危惧されたが、左記の如く新旧のOB十九名が集り、久闊を叙した。

大畠(17) 藤井、鮫島(18) 奥田(22) 岡本(23) 伊藤(24) 岩崎(26) 千田(29) 田々美、高早(30) 川村(31) 上野(32) 大口、山下(34) 橋本(38) 山田(39) 石田、篠原(44) 林(46) (敬称略)

母校の体育館で現役諸兄の元氣あふれる練習ぶりを見学しているうちに、だんだん体がムズムズし、一人、二人と練習着に着換え、ボールを投げ合う状態となった。そして、最後にはOBと現役の対抗あるいはOBと現役混合の練習試合も行い、大変楽しい半日であつた。私も年令(54才)を忘れ、おとろえた脚と肩をおさるおさる試用した。若手OBを除き、珍プレーを披露した年輩者は、さぞかし

翌日歩行に苦痛を感じられたことと、同情する次第である。

ハンドボール部OB会復活のきっかけは、昭和五十七年十一月三日(文化の日)恒例の大学同窓会総会に集ったOB約十五名の話し合いからである。母校が創立五十周年を迎える記念すべき昭和五十八年を機会に、永年監督をお願いしている上野君(32)その他少数OBの厚意により、細々と続いているOB会を、もう一度活性化させようというのが狙いであつた。

その後、大畠君(17)高早君(30)の非常な努力により、名簿も印刷され、無事スタート出来た訳である。その間、比企事務局長はじめ同窓会本部の皆様にも、卒業生住所調査等、一方ならぬお世話になり、誌上を借りてお礼申しあげます。

さて、練習後開催された懇親会で、新会則が審議され、その決定により左記の通り役員も互選され



(敬称略)

会長 鮫島(18)
副会長 辻村(21) 山田(39)
会計 大畠(17) 高早(30)
理事 奥田(22) 他15名
顧問 福井(現役チームコーチ)

大阪経大ハンドボール部は、戦前はさておき、戦後奥村美智子さん(13・旧姓山路)、中川睦子さん(14・旧姓吉村)、朝比奈茂夫さん、池田昭さん(15)、その他諸先輩が創部されて以来、三十数年の歴史を持つている。OBの中には

今井君(36)、津川、穂積君(40)の如くオリンピック全日本代表選手、あるいは竹村君(33)を始めとして実業団リーグ等で活躍している名選手を多く産み出している。また、現役チームも、関西学生リーグ優勝等、常に一部リーグで健闘している。この伝統ある運動部を後援し、五十周年を迎える母校の発展に微力ながら寄与出来れば、再発足したOB会も益々意義のあるものになるといえる。といつても、余り固苦しくなく集り易い会として永続して行きたい、というのが役員一同の一致した気持である。

この「激江」が発行されるまでに、会則と名簿はOB諸兄の手許に到着している筈である。OB会総会は、毎年十一月三日(文化の日)、母校同窓会総会後開催することになっていますが、本年度は大学創立五十周年記念事業の為、同窓会総会が開催されませんので開催日は未定です。決定次第あらためてご案内いたしますので多数のご参加を期待しています。また、全国各地で活躍しておられるOB諸兄にも、現役合宿、遠征等の際し、特段のご支援を、あらためてお願いする次第です。



トピックス

松本 剛著

『野呂栄太郎』を読む
二十九回 小山由彦

会計学の松本 剛教授が、戦前に『日本資本主義発達史』を著し、平和のために闘い、官憲の弾圧の犠牲になった野呂栄太郎氏の伝記を出版されました。著者の松本先生が『野呂栄太郎』を書こうと決意されたのは、先生ご自身が生死をさ迷う病床で、「自分はこれまでにどれだけの仕事をしたのであろうか、と思ったとき、ふつと野呂栄太郎の名前が浮かんできたのである……」。私は、人は死に直面するような病苦を背負わされたとき、いったいどのような生きかたをしていったのであろうか……このとき、私の眼前に浮かびあがってきたのが、またしても野呂栄太郎だったのである（本書の序章より）という事情による。

同じ病苦の境遇と、この『野呂』を著すことが先生の病氣回復の原動力ともなったでしょう。十五年の歳月を費し、膨大な資料を

収集され、これまで待望されながらも書かれなかった野呂氏の生涯を、詳細に、しかも平和の精神を貫いたものとして著されたのは大変立派な作品だと思われまます。野呂氏より八歳年長で、慶応大学の先輩でもある野坂参三氏は、科学的運動と語学力を高く評価されており、また、故小泉信三氏も、野呂氏にドイツ語を教え、彼の成績は抜群で級の最高点を与えたほどすばらしい語学力があり、マルクス・エンゲルスを原典で理解していたと述懐しておられる。さらにまた、先日逝去された羽仁五郎氏は、野呂氏と協力して、『日本資本主義発達史講座』を刊行させる計画をした推進者の一人でもある。もし、野呂氏が官憲

に殺されなければ、今日なお在世して、日本の平和のために闘う立派な、指導的な役割を果たしていたことでありましょう。

特に、「不沈空母」発言や、先日のサミットで軍艦マーチで歓迎された中曽根首相の軍国主義的な姿勢を考えると、野呂氏が弾圧された戦前の状況が再びといった感があり、今こそ、この『野呂栄太郎』が刊行されたことをよるこぶものである。

なお、ご参考までに、本書の希望者は直接左記へ申し込まれるとよい。近所の書店へ注文されるときは、「地方出版流通センター扱い」といえば取り寄せてもらえる。A五判、五〇〇ページ、定価四、八〇〇円

『野呂栄太郎』の発行所
名古屋市昭和区五軒家町十四
信州白樺

経大応援団の檄に 会社全員が 新鮮な活力

昭和五十八年四月八日(金)、松原市民会館において大阪日産モータ(株)の統合十周年記念決起大会が開催されました。



その記念大会の折、アトラクションとして、経大応援団員十八名が、数ある私学の中から選ばれ、『応援必勝祈願』をステージ上に繰り広げました。乱舞の最後には、全員起立して太鼓の響きに相呼応させ、大阪経済大学学歌を声高らかに斉唱。

折目正しい行為に先輩たちも認識をあらためるとともに、同社の五十八年度上期(四、九月)の事業計画必達の決起大会に、檄を飛ばす大役を見事に果たし、社長、役員をはじめ全社員たちに新たな活力と大きい感銘を与えてくれたと、非常に好評でした。(編集委員)

「今だから話そう」

昭和商高が生まれるまでの記

大阪経済大学は昭和五十七年創立五十周年を迎え、その記念行事が行われることになり誠にめでたい限りである。

私は、本学が浪華商高として誕生した当時の事情を知っている数少ない卒業生の一人であり、生証人として正しく本学創立の事情を書き残しておくことが私の義務であると信じ秃筆をかえりみず記述する次第である。

昭和七年三月、浪華商高は大阪市南区瓦屋町の古い仮校舎で呱呱の声をあげた。校長は徳永四郎氏であり、浪速商業が設立されて六回生が卒業した頃であった。

徳永校長は長崎商高を卒業され、大分県臼杵市の商業学校の教頭および岡山の商業学校の教頭を歴任された後、志を立てて大阪の地に移り住み、苦心惨たんして浪速商業の経営を軌道に乗せられたのである。しかも、教育に情熱を燃やしておられた校長は、高等商業の設立を生涯の夢として、同志社大

三回卒 河野盛志
わら米国の学制を研究された。やがて、同志社大学の法学士の称号を得るや、当時まだ数少ない日本人留学生として米國に渡られた。そして、約二年間、バサティナ大学において勉学の後、ドクトル・オブ・フィロソフィの学位を得ると同時に、バレンシア大学およびミルトン大学の東洋分校設立者に指名されて勇躍歸國されたのである。

帰國後、米國の大学の東洋分校設立について当時の文部省専門教育局と熱心に折衝を重ねられたが、専門学校令に依らなければ専門学校の設立は不可能であることがわかり、方向転換のやむなきに至ったが、昭和七年専門学校令に依る高等商業学校設立認可を受け、ようやく年来の宿願が叶って浪華高等商業学校が大阪市に開校した。

私財をなげうって東淀川区瑞光通に新校舎の建設にとりかかれたが、当時、思いもかけない多数の後援者の協力があつた。特に、京阪電鉄有田邦敬氏のご尽力により学校敷地一万坪の提供を受け、建

築は竹中工務店中島支配人の格別のご好意に依り校舎の建築が進められた。そして、まず最初に、木造モルタル張りの雨天体操場が完成し、第一回生から第三回生までの授業が開始された。私達学生は毎日鉄筋コンクリート三階建の校舎が段々と出来上って行くのを見まもりながら勉学に、また、運動にといそしんだ。水泳部は校舎横を流れる小川をプールとして、野球部、ラグビー部は約四千坪の運動場でともに練習した。新生の意気に燃えていた当時のことがタイムトンネルの中に彷彿として浮んでくる。

徳永校長の熱弁と、教育者としての情熱は今もなお私の脳裡に深く刻まれている。しかし、禍福はあざなえる繩の如しとやら。第三回生が入学して間もない昭和九年、当時、姉妹校であった浪速商業が漏電のための火災を生じ焼失した。

これが一つの契機となって浪華高等商業学校の内包していた諸問題が巷間で批判されることになった。徳永校長は葉隠武士の血を引く佐賀県人であったので、たとえその内容がどうであれ、教育者として世間の批判の対象になったことは

不徳のいたすところであるとして、いさぎよく浪華商高校長を辞任された。その間、浪華商高は廃校か存続かの岐路に立たされたが、種々の経過をへて、財団法人昭和学園が設立され、昭和高等商業学校として再生の道を歩むことになった。この経緯は、昭和五十五年十一月十五日、奥村、河野、建林、藤原の諸先生方が「思い出話」として、昭和五十六年発行の『濶江』に明らかにされている。

そして、校長には京都帝大教授黒正巖博士が就任され、菅野和太郎博士、有田邦敬氏等の経営のもとに発足することになったのである。

翌年からは、徳永校長に劣らぬ情熱の人、黒正校長のもとに全校生は漸く落着きをとれどとして勉学に、また、運動にいそしんだ。私は、このような波乱万丈の学生生活を体験して、昭和十二年三月無事卒業し、実社会に船出した。思えば、当時の紅顔の美青年達は日中事変にたおれ、第二次世界大戦に散華した。われら同期一九九名のうち、現存者五二名、この数はもう増えることはない。

事務局だより

コンピューターシステムの名簿をご利用下さい

同窓会会員名簿は、現在、同窓会独自でシステム化したコンピューターによる管理体制を採用しておりますので、

- 一、郵便番号による都道府県市町村別会員名簿作成
 - 二、ゼミ別会員名簿作成
 - 三、卒業回数別会員名簿作成
 - 四、クラブ別会員名簿作成
 - 五、業種別会員名簿作成
 - 六、封筒用漢字ラベル作成
- などのアウトプットが可能です。事務局では原則として、毎年十月上旬に一回、インプット（会員名簿の修正事項）とアウトプット（各支部別、ゼミ別用原簿と激江発送用ラベルの打ち出し）を行っています。

「激江」郵送料にご援助を

昭和五十八年度予算をご覧いただくとおわかりいただけるように、本年度の激江編集費は一、三〇〇万円という同窓会全予算の約三分の一を占める巨費が計上されております。これは郵便料金値上げに伴う郵送料増加の結果です。毎年、発送部数が新会員の増加により約二、〇〇〇冊ずつ増えて

同窓会名簿
きつとお役に立ちます
あなたの書斎、本棚の飾りに
一冊いかがですか……

- お早くお申し込み下さい。
- ・一冊代金五、四〇〇円（送料込み）
 - ・お申し込み方法
 - 同封の郵便振替 銀行振込み
 - 郵便為替 現金書留
 - 宛名 大阪市東淀川区大隅二一八
 - 大阪経済大学同窓会事務局



ものより質、量ともに低下しないために、会員各位のご協力をお願いする次第です。

同封郵便振替あるいは現金書留、銀行振込など、いずれの方法でもけっこうですが、事情ご賢察のうえ、会員各位のご援助をお願いいたします。

なお、ご援助いただく金額には制限はございませんが、会計事務処理上、切手によるご援助はご遠慮下さい。よりよい「激江」発行継続のためにご協力下さいますようお願い申し上げます。

同窓会の雑収入(物品売上げ)にご協力を

好評の文鎮がまだ少しあります

同窓会で製作いたしました文鎮がまだ少し残っています。飾りにもよく机の上においたり、子供さんの習字用にも好評。ご希望の方は現金書留で五百円ご送金下さい。送料は本部負担です。



レコードの在庫が少なくなりました

テイチャクで製作いたしました、学歌、学園歌、逍遙歌、第一応援歌、第二応援歌、選手送歌をA・B面に吹き込み、原譜、歌詞折り込みのドーナツ盤のレコ



ード「惜春の賦」ご希望の方は、お早く五〇〇円を現金書留でご送金下さい。送料は本部負担です。「大へんよくできています」と好評です。在庫のある間にお買い上げ下さい。切手による送金はご遠慮下さい。

在庫がいよいよ少なくなってきました。

経大マーク入りキーホルダーはいかがですか。

立派なキーホルダーができました。特に若い人には「カッコイイ」と好評です。ぜひお買い上げ下さい。一コ、一、〇〇〇円です（送料本部負担です）。ご希望の方は折返しお申込み下さい。学生に好評ですから売り切れのおそれがあります。



昭和五十八年度同総会総会へのご案内

とき 十一月二日(水)
(午前十時～受付)
午前十時三〇分開会
ところ 大阪梅田
新阪急ホテル 二階

当日は、大学の五十周年式典、祝賀パーティーも行われますので、大阪経済大学の同窓生として誇れる服装(背広、ネクタイ)でご出席下さい。
会費 無料

好評のブックカバーをお求め下さい。

経大のマーク入りでナス紺色のシックな新書版用ブックカバーがとても便利だと好評です。ぜひお求め下さい。一ツ、五〇〇円です。(送料本部負担です。)



居所不明者の減少にご協力を!!

「激江」がきたか、を合言葉にしよう!!

同窓会機関誌「激江」は、毎年一回、十月中に会員の皆様へ届くようになっております。もし、この期間中に「激江」が届かなかったときは、同窓会本部のコンピューターは、その人を「行方不明者」として処理しております。

同期生、同ゼミ、同じ職場、その他親交を持っておられる会員の方々、「激江」がきたか……を合言葉にして下さい。そして「いや、

経費節減にご協力を!!

まだきてない」といわれる会員の
方がおられましたら、ご本人か、
あるいは、あなたから本部へご一
報下さいお願いします。

◆異動はただちにご連絡下さい

名簿の正確性維持につきまして
は、従来とも「澱江」誌上でご協
力をお願いしておりますが、昨年
も約六〇〇部を越す「澱江」が「転
居先不明」「該当者見当らず」など
の理由で返却されてきました。こ
れは、「澱江」の郵送料が一部二四
〇円かかりますので約十五万円の
経費の浪費を意味します。

●住所変更●呼称変更
●勤務先変更●所属部課●役職異
動
●電話番号変更
などの諸変更がありました時は、
同封してありますハガキをご利用
のうえ、本部に変更手続きをして
下さい。

●コンピュータシステムによる
管理は、ご存知の通り、マスター
テープ自体を修正しないと、自動
的にいつまでも、前回と同じデー
ターをアウトプットすることにな
りますのでご協力をお願いします。
◆同封ハガキの取扱いについて
(1)必ずご返信をいただきたい会員
このコンピュータによる管理
体制が確立されてから、まだ一度

も、本部へ返信されていない会員
のかたは、必ず必要事項ご記入の
うえご返信下さい。

相手が機械のことですから、仮
に総理大臣でも、一度もご返信が
なければ、事務局で気づかない限
り、不明者扱いとなるおそれがあ
りますし、また、クラブ別、業種
別など、新しく設けられた項目は、
コンピュータに覚えさせなければ
ば、いつまでも空白のまま処理さ
れますのでご留意下さい。事務局
へ「あんなに有名な男が行方不明
扱いとは……」という叱責をい
ただくことがあります。四万名
を越した会員のうちの若干名の人
を人力で管理することの難度はご
理解いただけたらと思いますのでご
協力をお願いします。

と申しますのは、この受信人私
用ハガキが事務局に届きますとハ
ガキ代四十円と手数料十五円、計
五十五円を郵政省に支払うことにな
るからです。たかが五十五円と思
われるかも知れませんが、五〇
〇〇枚返信されまると、約三十万
円の経費の浪費となり、また、事
務局では、このハガキは、到着次
第、名簿原簿と必ず照合すること
にしておりますので、経費節減と
事務局の省力化にご協力をお願い
する次第です。

ご協力をお願いします。
支部設置にご協力を
本誌の「支部だより」欄でご覧
いただきましたように、現在、全
国に二十九の支部がございます。
会員数が年々約二〇〇〇名ずつ
増加してゆくに従いまして、その
増加数の多いところ、あるいはま
た、同一府県でありながら、東西
あるいは南北に長いため支部があ
りながら、支部活動に参加できな
いという不満をお持ちの会員がお
られることと思います。

(2)返信をご遠慮いただきたい会員
コンピュータは、一度、覚え
てしまえば忘れたり、間違ったり
することがありませんので、もし、
過去に一度でも、必要事項をすべ
て登録され、その後、それらに全
く変更のないかたは、このハガキ
の返信をご遠慮下さい。

また、この件につきまして、ご
意見などお聞かせいただければ幸
です。よろしく願います。

学 歌

作詞 秋本吉郎
作曲 柴田南雄

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 大淀の | 2. 大樟の |
| 水は春ゆく ゆたかな春だ | 蔭は裕々 夏風そよぐ |
| 芽立つ葦原 緑が沁みる | 学徒師弟が 幹負いもちて |
| この若さ | 諸汗に |
| 希望は明るい 蒼穹かけて | 確かと植えた 融和の象徴 |
| 永遠の青春 みなぎる学園 | 繁れ自由の 花さく学園 |
| 大阪 大阪経済大学 | 大阪 大阪経済大学 |

学 園 歌

作詞 黒正 巖
作曲 水野康孝

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1. 商都の東北澱江に 臨みて高く聳り立つ | 我等が昭和学園は 産業日本を双肩に |
| 担うて進む若人の 力の糧の広野原 | |
| 3. 黒煙天をひた蔽ひ 船車どよもす八衢を | |
| 静かに臨む学園は 科学日本の究明に | |
| 生命を注ぐ若人の 心の花の咲く園生 | |

道 遥 歌

作詞 中村行男
作曲 松川圭一

- | | |
|---------------|--------------|
| 1. 此处 城北に迎えたる | 2. 水や濁れる人の世に |
| 紺碧淀の春の夢 | 真理求めて遊ぶ子の |
| 惜春の賦のただよえば | 友愛久遠に変わるまじ |
| 薫風静かに流れ来て | 汝が悲しみに我は泣き |
| 逝きし苦節の十余年 | 吾が喜びに君や舞う |
| 歴史は吾等に教うなり | 惜みて励め我が青春を |

澱江 1983

- 発行日 昭和58年10月20日
- 編集 澱江編集委員会
- 発行所 大阪経済大学同窓会
〒533 大阪市東淀川区大隅2-2-8
電話(06)328-2431
- 印刷 凸版印刷株式会社
〒553 大阪市福島区海老江3-22-61
電話(06)454-3256

編集後記

▼母校創立五〇周年記念号をお届け
します。今回は編集委員会を学内で増
強し、時期的にも早くから取り組ん
だものの、ご他分にもれず時間ぎれ、
紙面の都合で企画の半分も掲載でき
ず、北から南から、にかわる多くの
ご提言も割愛せざるを得ませんでした。
▼特集は、「グラビアグラフ」に見る
母校の五〇年、「OB五〇〇人
に聞くアンケート」で、母校・同
窓会の今後の発展に役立てばと願っ
ています。▼支部だより、ゼミ短
信など呼びかけに多くの方がたのご協
力を頂き、感謝しています。ご意見
は今後に生かしてゆきたいと思いま
す。▼今年の総会は十一月二十時
半、新阪急ホテル、母校創立五〇周
年祝賀会をともに祝いましょう。

經
而